

合ニ當リテハ政府側ニ於テ極力當業者ヲ指導援助スルコト

頗ル肝要ナルコトヲ痛感セラレ居ル次第ナルカ目下ノ日英會商ハ單ニ日英纖維工業者ノ會合ナルモ其ノ影響スル處ハ獨リ纖維工業ノミニ限局セラルコト無ガルヘク其ノ波及スル處ハ本邦ト英帝國全體トノ通商關係全般ニ亘リ更ニ延ヒテハ兩國民ノ感情問題ニ迄觸ルコト相成ル可シ故ニ

今回ノ日英會商ニ際シテハ我當業者ヲ十二分ニ指導援助シ萬遗漏ナキヲ期スル様政府ニ於テ萬全ノ措置ニ出テラレソ

コト切望ニ堪ヘス

上記ノ點ハ既ニ政府ニ於テモ充分御考慮相成リ種々御畫策ノコトハ拜察シ居ルモ御承知ノ如ク日印會商モ目下重大時期ニ逢着シ居ル次第ニシテ前記ノ通り當地ニ行ハレタル當業者會合當時ノ經驗ニ徵シ日英當業者會商ノ經過如何力日英交渉ノ將來ニ對シ各般ノ見地ヨリ影響スルコト鮮カラサル可キヲ思フ餘り差出ケ間敷キコト乍ラ卑見電報ス

~~~~~

## 付 日印会商

529 昭和8年4月17日

在カルカタ三宅(哲一郎)総領事より  
内田外務大臣宛(電報)

インド側の産業保障法制定および日印通商条

約廢棄の政治的・經濟的背景と日印通商問題

への我が方対処策について

カルカタ 4月17日後発  
本 省 4月17日後着

<sup>(1)</sup> 第四二號  
往電第四一號ニ關シ

産業保障法案モ日印通商條約廢棄モ印度統治法改正問題及

英帝國特惠制度ノ確立ト關聯シテ考慮スルヲ至當トス英國

ハ統治法改正ニ際シ其ノ實權ヲ確保スル目的實現ノ爲他ノ

問題ニ付印度人側ノ利益ヲ尊重シ其ノ歡心ヲ求ムヘキ立場

ニ在リ又英國商工業者ハ英國品ノ印度市場回復ノ爲産業保

護ヲ主張スル印度人側ト握手シテ日本品排斥ニ關スル共同戰線ヲ張ルニ至レリ他方滿洲問題以來過去ニ於ケル印度人ノ親日<sup>(2)</sup>傾向ハ強者ニ對スル弱者ノ立場ト英人側ノ潛行的

宣傳ト相俟テ著シク減退而モ日本品ニ對シ差別的高率關稅ニ反對ヲ有スル一部商人及消費者側ノ勢力ハ至ツテ微弱ニシテ彼等ノ利益ハ政治的ニハ殆ト顧ミラレサル實情ニ在リ以上ノ如ク本件ノ依テ來リタル當國ノ政治的及經濟的關係ヲ仔細ニ考慮スレハ印度政府ハ既ニ相當以前ヨリ本件ヲ考慮シ且我方ノ爲替政策及取引振ニ深キ注意ヲ拂ヒ居リタルモノト推定セラル可ク從テ本件ヲ根本的ニ解決セントスルニハ我方ノ輸出統制ト之ニ伴フ日印間商業協定ノ外無ク若シ我方ニシテ誠意アル輸出統制ヲ加フルニ於テハ此ノ種商業協定乃至ハ條約關係ノ復活必シモ不可能ナラサル可シ從來ノ遣ロヨリ見レハ商人ハ必ス來ル十月迄ノ間ニ見越輸入ヲ行ヒ其ノ間ノ思惑の利益ニ走ラントスル傾向ニアルハ明カナル處若シ斯ノ如キ行動ニ出ツルカ如キコトアラハ產業保障法ノ發動ニ依ル危險計リ知ル可カラサルモノアル可シ綿布ニ關シテハ十月以後ニ於テ「デリー」發往電特第一號ノ如キ考案力豫想セラレサルニ非ス又其ノ他ノ雜貨ニ對シ十月以前ニ果シテ一般的ニ本法ヲ適用シ得ルヤニ付本法ノ解釋上疑問アル處少クトモ日本政府ニ於テハ本法ノ發動ヲ未然ニ防止センカ爲今後ノ對印賣込策ニ付當業者ニ嚴重警

告ヲ與フル必要アル可シ本官ニ於テハ當地ノ主ナル當業者

ニ對シ互ニ相戒メ更ニ我方ノ輸出統制促進方ニ付各自ノ注

意ヲ促シ置ケリ卑見ヲ以テスレハ印度工業的經濟獨立ノ大

勢ヨリスレハ我方ノ對印輸出ハ當國農民階級ノ政治的及經

濟的地位ノ改善ヲ見サル限り今日以上更ニ大ナル增加ヲ期

待スルコト困難ナル可ク從テ綿製品ノ如キハ最早價格調節

以外ニ數量協定ヲモ行フ可キ時期ニ達セル次第ナラスヤト

思考ス關係業者ノ深甚ナル注意喚起方ヲ希望ス尙曩ニ電報

往復アリタル我方經濟視察團モ本件ノ如キ或種ノ商業協定

ト關聯考慮シテ始メテ有意義ト相成ルヘシ要スルニ政府ハ

此ノ際至急外務省及商工省共同ノ委員會ヲ設置セラレ對印

輸出統制ノ具体案其ノ他善後策ニ付慎重審議ヲ遂ケラル

様致度シ

英、孟買へ轉電セリ

~~~~~

530 昭和8年4月24日 在英國松平大使より

内田外務大臣宛(電報)

日印通商條約廢棄に対する我が方遺憾の意英

国外務大臣へ申入れについて

第一六七號 貴電第六〇號ニ關シ

本件ハ一應外務大臣ニ申入レ置クコト事ノ順序トシテ必要ト認メタルヲ以テ同大臣本二十四日歸京セルヲ待チ會見シ先ツ貴大臣發甲谷陀宛電報第三五號我政府ニ於テモ誠意ヲ以テ我印度貿易ニ關スル統制ノ方法ヲ考究シ居タルコト又原料ノ騰貴ノ爲自然ニ廉賣ヲ調整シ得ヘカリシ狀況並日印通商及日英兩國通商ノ過去ニ於ケル狀況ヲ說明シ之等ノ事情及日英間ニ於ケル歴史的友好關係ニ顧ミ充分意見ノ交換ヲ爲サスシテ突然日印條約廢棄ノ通告ニ(接)シタルコトハ帝國政府並當業者ノ頗ル遺憾トスル處ナルヲ述ヘ無條約狀態ヨリ生スル障害除去ノ爲速ニ商議ニ入ルノ必要ナルヲ說キタル處外相ハ一々傾聽シタル後實ハ印度ノ財政問題ニ關シテハ御承知ノ通り英國政府ハ之ニ干渉シ得サルコトトナリ居レリトテ「サイモン、リポート」第二四四頁ヲ示シ

(付 記)

FOREIGN OFFICE S. W. 1.

10th April, 1933.

No. F 2335/1203/23.

Your Excellency,

I have the honour to inform you that the Government of India have expressed the desire that the Commercial Convention between India and Japan which was signed at Tokyo on the 29th August, 1904, should be terminated.

2. In accordance with the provisions of Article 4 of the said Convention, I therefore have the honour to announce to Your Excellency the intention of His Majesty The King of Great Britain, Ireland and the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India to terminate the Convention, which will accordingly cease to be in force six months after the date of the present note, that is from the 10th day of October 1933.

付記 四月十日付

英國政府よりの右條約廢棄通告文

ロマン 4月24日後発

本省 4月25日前着

尙本件善後處置ニ關シテハ何等考案ヲ有セラルルヤム尙不タル處外相ハ印度政府ノ意向ヲ取次キタル迄ニテ自分ニ於テ何等考案ナキ旨ヲ述ベタリ

尙本使ハ明二十五日松山商務參事官帶回「トハシマハ」一會見ノ事ニ取極メタリ

尙會見内容ノ發表ハ見合サルル様致度シ

「シムハ」一轉電セリ

so good as to furnish me with a formal acknowledgment of the receipt of this notification.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Your Excellency's obedient Servant,
(for the Secretary of State)

ROBERT VANSITTART

His Excellency

Mr. Tsuneo Matsudaira, G.C.V.O.

第三八號

往電第三三一號 關シ

本件對策ノ困難ナルハ諒察ニ餘アル處我貿易上印度市場ノ重要ナルニ鑑ミ此ノ際日印貿易ヲ根抵ヨリ覆スヘキ印棉「ボイコット」ノ如キ強硬策ヲ敢行スルカ如キハ結局英印

當業者ノ奸策ニ陷ルコトトナリ日本トノ經濟斷交ノ口實トモナル惧アルニ付斷シテ本邦ニトリ有利ナラス旁本件對策ハ飽迄穩便實際的ナルヲ要スヘク即チ差當リ印度政府ニ對シテハ產業保護法ノ亂用ニ基ク關稅不安ニ依リ日印貿易ヲ阻害セサルコトヲ申入レ正常ナル取引ヲ繼續セシムルニ努

ムル一方本邦側ニ於テハ強力ナル輸出統制ト新日印協定ノ締結ニ邁進スル外途無カルヘク之カ實現ノ爲朝野協力冷靜ニ研究スルコト肝要ト存ス尙左ノ諸點ハ新條約商議ニ當リ

考慮ニ入レ置クコト必要ナルヘシ
一、英印政府カ既ニ廢棄ノ手續ヲ執リタル以上現存日印條約第一條所定ノ如キ最惠國條款ノ内容ヲ有スル條項ヲ何等ノ形式ヲ以テスルモ承諾セサルヘキハ略明カナル處我方ニ於テモ事實印度市場ニ於テ對英特惠力認メラル現狀ニ於テハ必シモ固執ノ要無カルヘク正常ナル取引ヲ保障スヘキ適

編注 本件文書は、四月十一日付在英國松平大使より内田外務大臣宛公信第一五一号の付属として送付された。
なお、同公信本文見当ふ。

531

昭和8年4月25日

在ポンベイ栗原(作太郎)領事より
内田外務大臣宛(電報)

印度通商問題への我が方対処方につき意見具申

ポンベイ 4月25日後発
本省 4月25日後着

當ナル條款ヲ搜入シ得ハ足ルヘシ

二、日印條約ニ關シテハ嘗テ英國カ印度ノ利益ヲ考慮セス締結セルモノナリトノ非難アリタルニ鑑ミ今回ハ輿論ヲ尊重スルト共ニ非公式乍ラ議會各派ノ了解ヲモ取付ケントスル

模様ナルニ付新條約ハ一々印度政府ト協議ノ上商議ヲ進ムルコトトナルヘク旁此ノ際輿論ヲ善導シ各派議員殊ニ言論機關ヲ動カスニ一段ノ努力ヲ要スヘシ
三、通商協定ノ具体案例ヘハ價格數量割當協定問題ノ如キハ印度ニ於ケル國產綿布使用運動並各地紡績利害錯綜セル爲差當リ困難ナルヘキモ孟買紡績側ニ於テハ相當研究シ居リ最近「モディ」ノ如キハ日本側ヨリ招請アラハ商議ノ爲日本ニ出張スルモ可ナル旨洩シタルコトアリ旁條約問題ト離レ當業者間ニ於テ各種具体案ノ協定必シモ望無キニ非サルコト
四、產業保護法ハ新條約成立乃至本邦ニ於ケル輸出統制ノ成否如何ニ拘ラス目下ノ處撤回セシメ得ル見込無シ要ハ協定等ニ依リ之力發動ヲ阻止又ハ緩和スルノミ
甲谷陀ヘ轉電セリ

532

昭和8年6月3日

内田外務大臣より
在カルカタ三宅總領事宛(電報)

我が方輸出統制具体案の例示について

本省 6月3日発

○印當業者協議ノ結果印度政府ヲシテ我方ニ不利ナル關稅其他ノ措置ヲ差控ヘシムル爲ニハ場合ニ依リ輸出統制具體案ヲ先方ニ内示スルノ必要生スヘキコトハ貴電御來示ノ通りニ有之當方ニ於テモ慎重考慮中ノ處先方ニ於テ我方ニ對スル關稅引上其ノ他ノ措置ヲ差控フル意図ヲ明示スルニ於テハ右ト交換的ニ當方ニ於テモ例ヘハ輸出統制法、輸出稅、輸出許可制度、爲替「プレミアム」制(濠洲ノ對英爲替ニ對シ行ヘルカ如キ)等ノ内本邦法制ノ關係上採用シ易ク且有效ナルモノヲ可成速ニ實施スル用意アル旨貴官限リノ試案トシテ先方ニ例示セラレ差支ナシ

533 昭和8年6月7日 内田外務大臣より
在カルカタ三宅總領事宛(電報)
インド側綿布關稅大幅引上げにつき同關稅引

上げの実施延期もしくは実施阻止をインド当

局へ申入れ方訓令

付記 六月十一日着紡績連合会阿部(房次郎)委員長

より門野(重九郎)ロンドン国際経済会議全権

委員顧問宛電報

インド綿花買入停止方決議について

本省 6月7日発

至急

印度政府ハ六日附總督緊急令ヲ以テ現行平織生地綿布關稅ヲ二割五分方引上ケタル旨ノ貴地發聯合電報ニ接シ當業者ハ右ヲ以テ日本品ヲ印度市場ヨリ驅逐スル印度側ノ計畫ニシテ右ノ結果關係本邦品ハ最早印度ニ輸出スルノ見込ナク往電申進ノ通り當方力貴方當業者ノ開談ニ乗り近ク貴地方へ赴カントノ決意スラ開示シタル今日突如右ノ引上ヲ見タルコトニ憤慨シ此上ハ已ムナク印棉不買等ノ報復手段ニ出

テサル可ラスト迄激論シ居ル次第ナリ他方右引上カ前記聯合電報ノ傳フル如ク圓爲替下落ヲ補償スルヲ目的トスルモノナルコトヲ印度當局力明言シ居ルモノナル限り本件ハ最

惠國約款ノ違反ト爲ルモノニテ條約上モ之ヲ看過シ難キ次第ナルニ付テハ貴官ハ往電ノ次第二モ鑑ミ右引上說事實ナ

(付記)

大 阪 発

ロンドン 6月11日着

リトセハ當業者協議妥結ニ至ル迄右引上關稅ノ實施延期方ニ付又未タ引上ノ發令ナシトセハ右阻止方ニ付至急先方當局ニ申入レラレ度シ
尙貴電御來照ノ點ニ付要スルニ當方トシテハ印度側ノ關稅引上其他ノ貿易障礙措置差控方ニ關スル誠意アル考慮ヲ對償トシテ其程度ニ應シ輸出統制計畫ヲ促進スルノ根本方針ヲ樹テントスルモノニシテ其上ハ彼我當業者開談ハ容易ニ行ハルヘキ筋合ト存セラレ數量其他ノ細目ハ兩國當業者會商ノ上圓滿ニ取纏メ得ヘシト思考セラレ此際免モ角双方懇談ノ機會ヲ促進セシムルノ空氣ヲ醸釀セシムルコト急務ナルヤニ信ス尤モ前顯我方當業者ノ憤慨的態度ヨリ察スレハ前記引上問題ノ成行如何ニ依リテハ當業者貴地方行ノ件ハ其成否俄ニ逆睹シ難シ

（付記）
大 阪 発
ロンドン 6月11日着
經濟會議開會迫リ御骨折ノ事ト感謝ニ堪ヘズ日印通商條約廢棄通告後我政府ハ英印政府ニ對シ條約再締結及印度關稅

ニ関シ夫々折衝中ノ處我々當業者ハ右交渉ヲ信賴シ隱忍自重專ラ平和的解決ヲ期待シ居タル處最近印度政府ガ綿布関稅ヲ再ニ二割五分ヲ增徵從價七割五分ニ引上ゲタルハ日本綿布輸入禁止ニ均シク全然誠意ナキモノト認メ當會ハ去ル八日委員會ニ於テ印度棉花買入停止ヲ決議シ来ル十三日總會ニ附議スルコトシ總紡數ノ八割ヲ占ムル委員會社ハ既ニ買付停止ヲ實行シツ、アリ右事情御了承ノ上此上トモ御配慮アランコトヲ切ニ懇フ

紡績聯合會委員長阿部房次郎

~~~~~

534 昭和8年6月(8)日 在英國松平大使より

内田外務大臣宛(電報)

日印通商條約廢棄善後措置協議のための日印

両国政府當局者会商開催に英國政府は異議な

き旨内報について

付記一 日付不明、内田外務大臣より在カルカタ三宅

総領事宛電信案

来るべき日印会商に対する我が方意向について

並ニ日本紡績工場ニ於ケル配率増進ニ関スル諸般ノ状況ニ

付テモ詳細商相ニ説明シ置タル旨ヲ語リタリ、尚本使ハ近來英國諸新聞ガ目立ツテ日本品ノ競争ニ依リ英國品ガ圧迫ヲ蒙リツ、アルコトヲ宣傳シ居ルハ紡績聯合會其ノ他特定機関ノ統制的宣傳ニ依ルモノカト疑ハル節アル處經濟會議開催間際ニ当リ特ニ民衆ヲ刺戟シ之ガ為兩國国民感情ノ悪化ヲ招来セシムルガ如キコトハ日英双方ニ於テ慎シムベキコト思考スル旨ヲ語リタルニ「リ」ハ此ノ臭ハ自分モ氣付キ居ルニ付何トカ當國ニ於テ之ヲ止メシムル様努力中ナル道語リ居リタリ右何等御参考迄ニ申進ズ

編注 電報番号不明。

(付記一)

印度政府ニ於テモ愈我方希望ノ商議ニ應スルノ用意アルコト明トナリタルニ付至急先方ト開談ノ要アル處當方大體ノ意図ハ屢次ノ電報ニテ御閲悉ノ通ナルモ更メテ左ニ之ヲ開陳スヘシ

一、(イ)交換公文ニ依ル暫定取極ニ依リ現行條約ノ效力ノ繼續

ア計ルカ又ハ

(ロ)新ニ日印兩國間ニ通商、關稅及航海ニ關スル事項ニ付相互ニ無條件且無制限ノ最惠國待遇許與ヲ約スル條約ヲ締結スルカ又ハ

(ハ)交換公文ニ依ル右趣旨ノ通商暫定取極ヲ締結スルコトノ何レカニ依リ無條約狀態發生ヲ避ケルコト

二、有效期間ハ條約ハ五年其他ハ一年トシ右期間滿了後ハ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ何時ニテモ之ヲ廢棄シ得ヘキコト

三、右ト同時ニ兩國ハ一九三三年一月一日現存シタル關稅率ヲ相當期間（少クトモ一年）相互ニ對手國產品ニ對シ賦課スルコトヲ約スルコト

四、印度側ハ日本對印度ノ爲替相場力現在ヨリ甚シキ低落ヲ見サル間產業保護法ノ發動停止ヲ約スルコト

五、我方ニ於テハ別ニ協定セラルヘキ對印輸出品ニ對シ適當有效ノ方法ヲ以テ統制ヲ行フコトヲ約スルコト（右統制試案ニ付テハ曩ニ大體申進ノ通ナリ）

六、先方カ英帝國特惠關稅ノ關係上無條件ニハ最惠國待遇ノ許與ヲ肯ンセサルニ於テハ我方ニ於テ姑ク右特惠關稅ニ付反對セサルコトヲ秘密文書ヲ以テ約スルコト（但シ此

場合ニ於テモ後記當業者協議ニ於テ何等協定ヲ爲ス要ア

ルニ至ラハ在英大使發本大臣宛電報英國側明言ノ通り英特惠稅トノ間ニ公平ナル調整ヲ行ハシムヘキ了解ヲ前提トス

セ右條約問題ノ交渉ト併行シテ印度市場分配ニ關スル日印英當業者協議ヲ印度ニ開催スルコト尤モ右協議ニ於テ場合ニ依リテハ我當業者ヲシテ一定量ノ印度棉買付ヲ約セシムルノ用意アルコト

尙前記一及二ノミヲ條約又ハ交換公文ニ掲ケ三以下ハ別個ノ文書ニ依リ約束スルコト致度シ

追テ英國政府ニ於テハ我方ヨリノ代表任命方懇意シ居ルノミナラス貴電御來示先方ノ通告カ關稅引上ト同時ニ行ハレタル爲當方輿論殊ニ當業者等ノ忿激相應大ナルモノアリ右

ノ次第ハ自然貴地方ニモ傳ヘラレ印度ノ空氣モ從テ多少共穏カナラサルベシト存シ「グットウイル、ミシマ」ノ意味モ兼ネ本省ヨリ可然代表派遣ノ議アリ貴官ト印度當局トノ話合ノ模様ニテ可成速ニ任命出發ノコトトナルベキニ付右御含ノ上前記諸點ニ付至急隔意ナキ談合ヲ遂ケラン何

九 英連邦諸國との通商問題  
分ノ儀折返シ電報アリタシ

(付記二)

Dear Mr. Kurusu,

20th June, 1933.

I think you will be interested to learn that we have just had a telegram from our Foreign Office saying that the Indian Government would welcome the presence at the Indo-Japanese negotiations of an official from this Embassy, familiar with the Japanese point of view.

His Majesty's Government in the United Kingdom have cordially agreed, and have suggested that I should be the official in question.

We have replied that I am willing to go, and we are now awaiting further instructions.

It is, of course, not yet definite, so that I must ask you to regard the information as confidential. But, as I believe you were to be summoned by the Privy Council tomorrow, I thought you might like to know of this evidence that both the Indian Government and His Majesty's Government in London are anxious that the

Indian negotiations should be attended by a British official who can help to explain the Japanese case.

Yours sincerely,

G. Sansom (signed)

S. Kurusu, Esq.,

The Gaimusho,

TOKYO.

編注 冒頭に「Personal」との書き込みあり。

~~~~~

535 昭和8年7月(6)日 在カルカタ三宅總領事より
内田外務大臣宛(電報)

英國よりイハンジ側への全権委任問題および來
たるぐれき金商田程など」とハシト

シムラ 発

本省 7月6日前着

第111號(至急)

往電第一〇九號ニ關シ

五日商務長官ニ面會シタル處同長官ハ松平大使御交渉ノ次

第二付何等情報ニ接シ居ラスト述くタルニ付日本側ノ意向
ヲ繰返シ説明シ交渉促進ノ爲同長官ノ斡旋ヲ申入レタル處
(一)全権委任ノ問題ニ付印度ニ於テ決定セル事項ハ英國政府
ヲシテ何等干渉セシメス倫敦ニ於ケル手續ハ全然外交上
ノ形式リ止メ即時實行シ得ル様ニ爲スコトノ保障
(二)條約失效後交渉ノ終結迄印度政府ハ右ニ關聯スル何等ノ
措置ヲ執ラサル事ノ保障
ヲ英國政府ヲ通シ日本大使へ通告スル様本日午前中ニ英國
政府へ電報方取計フヘシ右ノ取計ニ依リ日本政府ハ充分滿
足セラルベシト信スル旨述ベタリ

次ニ貴電第六四號ノ次第モアリ會議ノ日取ニ付打合ヲ遂ケ
タルカ會議ヲ「シムラ」ト「デリー」トノ兩地ニテ行フコ
トハ日本側委員ニ執リ不便多カルベク假ニ議會終了直後ニ
始メ得ルトセハ「シムラ」滯在中ニ終了シ得ベキモ場合ニ
依リテハ初ヨリ「デリー」ニテ開會スルモノ一策ナルカ「デ
リー」ハ十月中ハ暑サ尙嚴シキヲ以テ成ル可ク「シムラ」
ニテ終了スル方日本側委員ニハ便利ナルベシ尤モ「デリー」
移轉ニ付總督ノ意向ヲ聽取スル必要アルヲ以テ兩三日中總
督トモ相談シ置クベシ尙日本代表部ノ事務所ニ付テハ自分

ノ方ニテ出來得ル限り便宜取計フヘシ右ニ付テモ更ニ後日
打合スベシト語レリ次ニ前記往電後段小麥トアリタルハ米
ノ誤ナリト述ベタルヲ以テ米ノ問題ニ付テハ既ニ本官ニ於
テ情報アリタルニ付直ニ事情取調ベタル處山下ハ引續キ米
ノ輸送ヲ中止シ居ル旨政府ヨリ回電アリタル加述ベ置キタ
リ

英、孟買、甲谷陀、蘭貢へ轉電セリ

~~~~~

536 昭和8年8月3日 在英國松平大使より  
内田外務大臣宛(電報)

来るべき日印会商における条約署名権限など

に關する英國政府申越シヒテ

別電 八月三日発在英國松平大使より内田外務大臣

宛第四四六号

右英國政府申越シ

ロハシテ 8月3日後発

本省 8月3日後着

第四四五號

往電第四四四號ニ關シ

二日「ウエルズレイ」トノ會談後同日附公文ヲ以テ外務次  
官カリ別電第四四六號ノ通り申越シタリ(尙右公文中ニ引  
用セル「フイスカル、オウトノミー、コンベンショノ」ニ  
關スル説明書ハ公文寫ト共ニ郵送スベシ)  
本電別電ト共ニ「シムラ」、孟買く轉電セリ

(別電)

ロハシテ 8月3日後発  
本省 8月4日前着

No. 446

You have conveyed the desire of the Japanese  
Government that representatives should be appointed  
with competence to conclude and sign treaties or agree-  
ments as a result of negotiations in India, and that an  
agreement should be reached on a modus vivendi for  
the purpose of keeping the present commercial treaty  
between Japan and India in force after the 10th October.  
2. In regard to the second point I have the honour  
to state that this is still under consideration by the

Government of India and that a further communication will be made to you on this subject as soon as possible.

3. In regard to the question of signature, I have the honour to inform you that His Majesty's Government are as a consequence of the Fiscal Autonomy Convention,

the nature of which is explained in the attached Memorandum, no longer in a position to control the fiscal policy of India. It is, nevertheless, the case that they are still, and will continue to be responsible for the international relations of India. While, therefore, it need not be anticipated that the details of any trade agreement which, as the result of the impending discussions, may be come to between the Government of Japan and the Government of India will be subject to alteration in London, His Majesty's Government cannot divest themselves of the responsibility of considering whether the agreement as a whole will affect the international relations of India.

4. For this reason, His Majesty's Government

regret that they cannot accept the suggestion that the formal signature of any agreement arrived at should take place in India. The representatives of the Government of India negotiating in India will be empowered to initial any such agreement, but His Majesty's Government feel it necessary to maintain their view that formal signature should not take place in India, but if the Japanese Government are agreeable, in London, a proceeding which, they anticipate, will not involve any material delay.

5. In view of the foregoing explanations His Majesty's Government hope that the Japanese Government will now see their way to appoint representatives to arrive in India not later than the 21st September for the purpose of negotiating with the representatives of the Government of India, whose names will be communicated to you as soon as possible.

6. At the same time I would remind you of the desire of the Government of India, as expressed in

paragraph 4 of my note of 6th June, that they should be afforded by the Imperial Japanese Government an opportunity of examining concrete proposals as a basis for the forthcoming discussions, and I should accordingly be grateful if you could inform me at the earliest opportunity of the reply of the Japanese Government to this request.

Matsudaira

(別電)

本省 8月16日発

第11117號

貴電第11117號に關入

十六日代表委員及同代理別電三ノ通任命發表アリタルニ付  
右英國政府ニ通報旁々11117號先方公文ニ對シ別電第11118  
號ハ通回答相成度別電ト共リ「ハマハ」「モハグー」リ轉  
電アラタシ

編 埋 画譜「21/7附本使公文ヲ acknowledge スル趣旨

ノ旨頭署」ルの転記を要す。

~~~~~

537 昭和8年8月16日 内田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

米國ぐるくの通商問題
米國政府よりの條約署名權限なむに關

かの英國政府よりの我が方回紹レーハト

別 電 八月十六日発内田外務大臣より在英國松平大

使宛第11118號

右我が方回答

本省 8月16日發

「條約調印ニ關シトク「日本間ニ到達ベルコトアルキ通
商上ノ合意ノ細目カ倫敦ニ於テ變改セラルキモノト豫

想スル要ナク」且「印度代表ハ本件合意ニ「イニシアル」

スルノ權限ヲ與ヘラルヘシ」トノ英國政府ノ確答ハ印度

ニ於テ決定セラレタル所ハ英國ニ於テ變改ヲ加ヘラレサ

ルヘキ趣旨ト了解セラルルニ付「倫敦ニ於ケル形式的調

印力何等實質的遲延ヲ包含セサルヘシ」トノ英國政府申

出ニモ鑑カミ調印ヲ倫敦ニ於テ行ハントスル提議ニ贊意

ヲ表スルモノナリ

三、本件商議ノ爲ノ日本側代表委員ハ左ノ通り決定セリ（一

行出發本月二十四日九月十八日「シムラ」着ノ豫定）

特命全權公使 澤田節 三

商工省貿易局長 寺尾 進^{スヌム}

總領事三宅哲一郎

大藏省主稅局關稅課長

飯田九州雄^{クヌラ}

内田外務大臣より
斎藤内閣總理大臣宛

昭和八年八月21日

（委員代理）

日印会商我が方代表委員に対する訓令案請議について

538

（別紙）

日印通商問題商議ニ關スル件

帝國政府ハ本年四月十日附ヲ以テ英國政府ヨリ明治三十七年八月二十九日調印ノ日本印度間ノ通商ニ關スル條約ハ同條約第四條ノ規定ニ基キ本年十月十日以後失效スヘキ旨ノ廢棄通告ニ接シタル處日印兩國間ニ無條約狀態發生スルニ於テハ兩國間通商貿易關係其ノ他諸般ノ關係上面白カラサル事態ヲ招來スル惧アルニ付極力其ノ發生ヲ避ケ適當ナル妥結ノ途ヲ講スルコト急務ト思惟セラル。依リテ英國政府ヨリ前記廢棄通告ニ接スルヤ爾來我方ニ於テハ鋭意英印兩

政府ニ對シ新ニ通商條約ノ締結方ニ付交渉ヲ重ね來リタルカ、一方印度ニ關スル外交權ハ英國政府ニ歸屬スルト共ニ他方交渉案件ノ核心タル關稅問題ハ印度ノ財政自主權ノ範圍ニ屬スル關係上、右交渉ニ時日ヲ要シタルモ遂ニ九月下旬印度「シムラ」ニ於テ日印通商問題商議ヲ開始スルコトニ打合セヲ遂ケ我代表者ヲ同地ニ派遣スルコトトセリ。尤モ斯ノ如クシテ日印兩政府代表者間ニ到達セル妥結モ前記英國憲法上ノ理由ニ依リ更ニ英本國政府トノ間ニ國際取極トシテ調印セラルノ要アル處此點ニ付テ數度交渉ノ結果

英國政府ニ於テハ日印代表者間ニ決定セラルヘキ事項ハ英國ニ於テ變改ヲ加ヘラルモノト豫想スルノ要ナク且倫敦ニ於ケル右取極ノ形式的調印力何等實質的遲延ヲ包含セサルヘキ旨ノ意思ヲ我方ニ表示シ來レリ就テハ「シムラ」ニ於テ近ク開始セラルヘキ日印通商商議ニ於テハ大體左記方針ニ依リ商議セシムルコトト致度シ

記

一、日印兩國間ニ於ケル無條約狀態ノ發生ヲ避クル爲條約又

ハ取極締結ノ商議ヲ行フコト

二、次項ノ場合ヲ除キ兩國關稅ニ付相互ニ最惠國待遇ヲ與ヘ

通一機密第三六四號

昭和八年八月二十一日

外務大臣伯爵 内田 康哉

内閣總理大臣子爵 齋藤 實殿

日印通商商議帝國代表委員ニ對スル訓令ニ關シ

請議ノ件

印度ニ於ケル日印通商問題商議ノ爲ノ帝國代表委員ニ對シ別紙ノ通訓令致度ニ付閣議決定相成様致度此段及請議候也

商務長官急ニ發熱會議出席不能トナリシモ二十五日本會議開催劈頭本代表ヨリ新條約ノ締結力我方代表部ノ使命ナル旨ヲ高唱シ右ハ印度側ニ於テモ同感ナルヘシト述ヘタル後

往電ニ關シ

539 昭和八年9月26日 沢田日印会商代表より

ついて

シムラ 発 本省 9月26日着

日印会商本會議開催に際し新條約締結が我が方代表部の使命である旨インド側へ申入れに

795

本會議成功ノ爲十月十日以後協議繼續中日本ニ對スル差別待遇ヲ爲ササル旨ノ保障ヲ與ヘラレ度シトノ希望ヲ表明シ

更ニ在英大使發閣下宛電報ノ内容ヲ述へ會議カ十月十日以後一ヶ月以内ニ終了スルコトハ我々ノ希望ナルモ夫レ以上繼續（スル）コトアルヤモ計ラレス就テハ此ノ際一ヶ月ト

期間ヲ限定スルコト無之協議繼續中ハ印度側ニ於テ右ノ態度ヲ持スヘキ旨ノ保障ヲ與ヘラレ度シトテ先方ノ答辯ヲ促シタル處新條約ノ締結ニ付當日出席ノ印度側代表ニ於テ之

ニ同意ヲ表シ保障ノ點ニ付當方ノ指摘セル前記在英大使電報ノ事項ハ首席代表「ボーア」ノ決定シ居ル所ニシテ同代表ニ於テハ會議ノ進行ヲ妨ケルカ如キ措置ハ會議中何等執

ラサル意図ナルモ御申出ノ趣旨ハ篤ト首席代表ニ傳ヘ置クヘシ同代表ハ多分明後日出席シ得ヘキ見込ニ付同日正式ニ回答スヘシト述ヘタリ尙先方ハ本代表ニ對シ右以外述フル事項無キヤト尋ネタルカ「ボーア」以外ノ代表ニ於テハ何事ニ付テモ明確ナル態度ヲ示シ得サル情勢ナルヤニ見受ケラレタルヲ以テ本日ハ之以上當方ヨリ申述フルコト無シト答ヘ先方ヨリモ別段提案無シトノコトナリシヲ以テ本日ノ會議ハ右ニテ打切り明後二十七日先方首席代表ノ保障ニ關

スル正式回答ヲ俟チ實質的討議ニ入ル豫定ナリ

~~~~~

540 昭和8年9月28日 沢田日印会商代表より  
廣田外務大臣宛（電報）

日印通商條約失効後においても会商繼續中は本邦品に差別的待遇をなさないとのインド側

保障問題に関する協議について

シムラ

発

移牒第二五號

（大至急）

往電ニ關シ（移牒第一八號參照）

二十七日ノ會議（商務長官依然病氣缺席）ニ於テ印度側ハ（一）日印兩國間無條約關係ノ發生ヲ無カラシメントスルコトハ印度政府モ日本政府ト同様希望スル處ナルコト從テ新條約締結ニ關スル貴代表ノ希望ニ對シテハ印度代表モ全然同感ナルコトヲ確認シ（二）保障問題ニ關シテハ印度政府ハ在英大使ヲ通シ日本政府ニ爲シタル提案即チ印度政府ハ十月十日以降一ヶ月間無條件ニテ現狀ヲ維持シ其ノ後ハ「シムラ」

テハ迅速且ツ慎重ナル考慮ヲ加フヘキ旨ヲ約シ本日ノ會議ヲ散會セリ

541 昭和8年10月(1)日 在英國松平大使より  
廣田外務大臣宛（電報）

日印通商條約暫定取極に関する日英間交換公

文案確定について

別電一 十月一日着在英國松平大使より廣田外務大臣

宛電報（移牒第四七號）

右英國側公文案

二 十月一日着在英國松平大使より廣田外務大臣宛電報（移牒第四八號）

右日本側公文案

ロンドン 発

本省 10月1日着

移牒第四六號

（大至急）

往電（移牒第四五號參照）ニ關シ

確定文書々別電（移牒第四七號及第四八號參照）ノ通電報  
印度側ハ未タ會議ノ本論ニ入ラサル際日本側ニ多クノ讓歩ヲナス事トナリテハサラヌダニ國內各方面並外國側ヨリノ苦情發生シ政府ハ困難ナル立場ニ陥ル惧アル旨ヲ述ヘテ當方ノ要求ヲ容レス種々議論ノ上先方ヨリ然ラハ本問題ハ今後二週間据置キ其後更ニ考慮ヲ加フル事トシテハ如何アルヘキヤト提議セルニ付本代表ハ在英大使宛貴電ノ次第ヲ存スヘ早晩英國政府ヨリ貴政府ニ照會アル事ト信スルニ付其際ハ日本政府ノ要求ニ充分好意的考慮ヲ加ヘラレ度ク孰レ本件ハ今明日中英國政府ヲ通シ何トカ處理セラル事ト存スルニ付本會議ハ不取敢明後二十九日迄休會ノ事ニシ度シト提議セル處印度側ハ英國政府ヨリ何等照會アラハ右ニ對シ

確定期文（移牒第四五號參照）ノ通電報

イ、 第1 Paragraph August 29th < the 29th August

ト、 October 10th < the 10th October ト、

ロ、 第1 「ゾハクハ」 ~ India and Japan < Japan

and India ト、 representative < r < ゾハクハ

「往翰廿第1 「ゾハクハ」 ~ September--th < ---, 1933

ト、

「來往翰共末尾ノ servant 小文字レス但又交換公文署名  
ノ際萬一「チャヤハ」外務大臣カ議府出張等ノ體不在  
節ハ來翰未尾 Your Excellency's obedient servant, ~  
次行」(for the secretary of state) ルシト次函等カ署  
名スルコトレナルヤテホシサヘリ付御令置キ相成度  
シ此ノ場合ニ於テモ往翰宛名ハ「チャヤハ」外務大臣ナ  
ルコトハ變更無」

編 疋 十月八日着在英國松平大使より広田外務大臣宛電報

(移牒第七一號) に於テ同大使は「十四七八日ハ  
シテ本件公文ノ交換ヲアシタリ」ハ御如ヒトス。

△ 移牒第17号

□ ハラハ  
本 約 1933年  
発

Foreign Office, S.W.1  
....., 1993.

Your Excellency,

I have the honour to inform Your Excellency that His Majesty's Government in the United Kingdom and the Government of India propose that the Convention signed on the 29th August 1904 regarding commercial relations between Japan and India, which is to cease to be in force from the 10th October 1933, shall remain in force for a period of one month from that date, and that during that time the customs duties on goods at present imported into either country from the other shall remain at their present level.

His Majesty's Government in the United Kingdom and the Government of India further propose that in

St. James.

(正體)

□ ハラハ  
本 約 1933年

△ 移牒第48号

Japanese Embassy,

London, ..... 8 Showa(1933)

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of your Note dated....., 1933, in which you are good enough to inform me as follows :

"I have the honour to inform Your Excellency that.....(Chuuryaku).....at their present level.

"His Majesty's Government in the United Kingdom and the Government of India further propose that.....(Chuuryaku).....a new commercial agreement.

"If these proposals.....(Chuuryaku).....into force".

If these proposals are acceptable to the Japanese Government I would suggest to Your Excellency that the present Note and Your Excellency's reply to that effect shall be understood as bringing this arrangement into force.

I have the honour to be, with the highest consideration, ( ) Your Excellency's obedient servant,  
His Excellency

Mr. Tsuneo Matsudaira,  
His Imperial Majesty's Ambassador Extraordinary  
and Plenipotentiary at the Court of

In reply there to, I beg to state that the Japanese

Government agree to these proposals and to your suggestion

that the present exchange of Notes shall be understood

as bringing this arrangement into force.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Sir.

Your obedient servant,

The Right Honourable Sir John Simon,

G.C.S.I., K.C.V.O.,

His Britannic Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs.

542

昭和8年10月(1)日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

實質的討議開始に際し我が方より対インダ綿

布輸出統制案提示について

別 電 十月一日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛(移牒第五〇號)

ス

而シテ本關稅引上ハ畢竟スルニ印度綿業力同一ノ條件ノ下ニ於テ日本ト競争シ得ス保護ヲ必要トセルニ依ルモノニシテ何等日本ニ對シテ敵意ヲ有スル次第ニ非ストテ種々ナル事情ヲ詳細説明シタル上右ハ頗ル重要ナル提案ナルカ之ニ付テハ兩國當業者ニ於テモ意見ノ一致ヲ觀タル所ナリヤト訊ネタルニ付兩國當業者ノ會合ハ未タ開催セラレス之ニ付テハ別ニ貴見ヲ承知シ度シト存シ居ル所ナルカ日本當業者ノ關スル限り本件提案ニハ主義上何等異議無シト確信スル旨答ヘタル上右提案ニ關スル印度側ノ意図ヲ質シタル處「ボ」ハ同僚トモ熟議ノ上回答スルコトシ度キモ自分限リトシテハ主義ニ於テ贊成ナリト言ヘルヲ以テ本官ハ更ニ

右ハ貴政府ニ於ケル關稅引下ノ程度如何力本件解決ノ鍵ナル所以ヲ指摘シタル處「ボ」ハ更ニ我方統制ノ形式ニ付質問セルヲ以テ右ハ數量統制ヲ爲スニアリト説明ス其ノ後「ボ」ハ本件提案ニハ人絹及綿交織ヲモ含マレ居ルヤト訊ネタルニ付右ハ全然綿布ニノミニ關スルモノナリト述ヘタル處「ボ」ハ交渉促進ノ爲他ノ basic point ハ付テモ此ノ際何等提案無カルヘキヤト云ヘルヲ以テ本官ハ綿布關稅力

右我が方綿布輸出統制案

シムラ 発

本省 10月1日着

△  
移牒第四九號

本三十日第四回會議開催商務長官出席ス本官ヨリ條約關係維持ノ問題ニ關聯シ倫敦ニ於ケル交渉ノ内容ヲ説明シ右ハ覺書交換ニ依リ正ニ妥決ヲ見ントシ居ル次第ナリトテ在英大使來電ノ趣旨ヲ述ヘタル處「ボ」ハ英政府ヨリモ同様ノ通告アリ既ニ印度政府ヨリ承諾ノ旨正式回答濟ナリト語レリ依テ本官ハ本問題ハ之ニ依リ實質上ノ協定ニ達シタル次第ハ之ヲ打切り今日ヨリ實質上ノ討議ニ入り度シト述ヘ兩國間現在ノ問題ハ主トシテ綿布輸入ニ關聯シテ生シタルモノナルヲ以テ綿布問題ヲ第一ニ討議シ度シトテ條約廢棄通告及七割五分關稅實施力我輿論ヲ刺戟シ且右率ニテハ我輸出ハ不可能ノ状態ニアルヲ以ツテ之カ引下方ヲ第一ニ考慮セラレ印度側ニ於テ適當ノ率ニ引下ヲ實現セラル場合ニハ我方ニ於テ綿布ノ輸出統制ノ爲適當ノ方法ヲ講スヘシト提議セリ「ボ」ハ綿布關稅問題ニ付テハ充分攻究スルヲ要

(別電)

シムラ 発

本省 10月1日着

△ 移牒第五〇號

(極秘)

日本代表ハ印度政府力現行綿布關稅ヲ從價五割又ハ一封度ニ付五「アンナ」三「パイ」ヲ越ヘサル率ニ引下ケ且本邦綿布ニ他ノ外國綿布ニ課セラルヨリモ高キ税率ヲ適用セラレサルコトヲ條件トシテ我政府ハ我綿布ノ一年間ニ印度ニ輸入セラル數量ヲ最高量五億七千八百五十二萬九千碼ニ制限スル爲有效ナル方法ヲ講スヘシ右數量ハ一九三二—三三會計年度中印度ニ輸入セラレタル我綿布ノ總額ト等シキ額ナリ

543 昭和8年10月(4)日 沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方綿布輸出統制案に対するインド側意向について

シムラ 発  
本省 10月4日着

△ 移牒第五八號

三日第五回會議開催「ボーア」ヨリ前回ノ綿布ニ關スル我方提案ハ主義上何等異議ナク制限量ノ數字ニ付テハ後ニ決定セラルヘキモノナル處右ニ關聯シテ日本側カ印度棉花ノ一定量買付ノ保障ヲ考慮シ得ラレサルヤト質シ且綿業同様日本ノ競爭ノ爲苦ミ居ル他ノ製造工業例ヘハ人絹織物及毛竇ニ綿ノ莫大小工業等ニ對シ同様ノ主義ヲ適用セントスル意ナキヤ問題ノ全貌ヲ明カニスル爲印度側ノ「インフオメイション」ノ爲承知シタク尙圓價力將來更ニ低落スル場合ニ對シ何等ノ考案アリヤト問ヘルヲ以テ本官ハ綿布問題ニ關スル日本案ニ主義上同意セリト言フノ意ハ貴政府ニ於テ關稅引下ノ用意アリト言フニ解シテ可ナリヤト反問セルニ「ボ」ハ右ハ今直ニ確答シ得ス本來統制ニ付テハ數量及價格ノ二點アリ後者ニ付テモ考究ノ要アルモノト思料スル旨答ヘタリ依テ本官ハ價格ノ統制ハ數量ノ統制ニ依テ必然ニ達セラルヘク右數量ノ統制モ我方力難キヲ忍ソテ實行セントスルモノニシテ我案所定ノ制限量ハ全印度ノ消費量ニ對シ一割ニ過キス印度ニ於ケル價格ニ影響スル處甚少ナルヘキヲ縷説シタルニ「ボ」ハ右制限量ハ昨年ノ數字ニシテ同

年ニ於テ日本品ノ價格カ印度ノ市場價格ヲ決定シ印度工業ヲ脅カセリト言ヘルヲ以テ本官ハ印度政府ノ執リタル關稅引上ケ等ノ措置ハ昨年ノ綿布輸入量カ多カリシカ爲ナリト言フヨリモ寧ロ將來更ニ之力增加ヲ見ルヘシトテ恐怖ノ念ニ驅ラレタル爲ナラスヤト諒解ス然ルニ我方ノ數量制限ハ輸入ノ最高數ヲ限定シタルモノニシテ同數量迄必ス輸入セラルモノトハ限ラス且將來ノ增加ヲ停止スルモノナレハ之ニ依リ右印度側ノ恐怖心ヲ取除クニ至ルヘシト信ススノ如ク我方カ印度側ノ立場ヲ諒トシ難キヲ忍シテ數量ノ制限ヲ爲サンツスル以上印度側ニ關稅引下ケヲ要求スルハ當然ノコトナリトテ繰返シ綿布關稅ノ引下ケカ我方ノ主要問題ナル點ヲ明瞭ニシタルニ結局「ボ」ハ印度側カ恐怖心ヲ抱キタル結果執レル措置ニ付右恐怖心ノ原因カ除去セラルレハ之力は正ヲ考慮スヘシト答ヘタリ次ニ本官ハ印綿買付ノ保障ニ關シテハ度々ノ申出ナルニ付兔毛角モ同僚トモ協議スヘキモ棉花ハ各地市場ニ於テ年ニ依リ價格ノ變動激シク事ノ性質上右保障ハ困難ナリ即チ本提案ハ印綿不買決議撤回ノ困難ナルニ更ニ買付ケ分量保障ノ困難ヲ課スルモノナリ前回ニ述ヘタル通本交渉ニ總テノ問題カ満足ナル協定ニ

544 昭和8年10月(6)日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

我が方のインド綿花買付問題および雜貨問題

などに關するインド側との協議について

シムラ 発

本省 10月6日着

◇ 移牒第六五號

往電（移牒第五八號參照）ニ關シ

五日第六回會合

(一) 本官ハ前回印度側要求ノ棉花買付問題ニ關シ本交渉圓満妥結ノ上ハ事實上之カ買付ヲ見ルニ至ルヘキモノナリトテ過去二十年以上毎年百萬「ペイ」以上ノ買付ヲ爲シ居タル事實ヲ擧ケ買付問題ヲ我方綿布統制問題ト結着ケントスルハ不必要ニシテ目下ノ場合當方トシテハ印度側ノ要求ニ應シ難ク既ニ我方ヨリハ綿布ニ關スル具體的提案ヲ爲シタルニ對シ數字的對策ヲ出サレタシト求メタルニ「ボ」ハ印棉買付問題ハ印度民間及議會方面ノ重視スル處日本トシテモ貴説明ノ如ク從來現實ニ多量ノ買付ヲ爲セルモノナレハ之カ約束ヲ爲スコト困難ニ非スト考フ而シテ右約束ハ總テノ問題ニ關スル兩國間ノ協定出來上ル際其ノ一項目トシテ之ヲ得タシト存スル次第ナリト言ヒ且本官ヨリ夫レニシテモ價格ノ問題モアリ買付ノ約束

(二) 本官ハ雜貨ニ綿布同様ノ主義ヲ適用スヘキヤノ點ニ關シテハ雜貨ハ何レモ組織不備ニシテ規模區々ナル小工業ヨリ成ルモノナレハ統制ノ至難ナルコト綿布ト同日ニ論スル能ハス綿布ニ統制ハ我方非常ニ犠牲ヲ忍ヒテ之ヲ行フモノナレハ他ノ我商品ニ對シテハ差別的待遇ヲ爲サラソコトヲ希望スト述ヘ且前回印度側ノ指摘シタル製造工業品ノ内ニハ必スシモ特ニ我方競爭ノ爲保護ヲ必要トスルモノニ非スト考ヘラルモノアリ果シテ印度政府ハ是等我商品ニ即時差別的待遇ヲ爲サンツスルモノナリヤ又其ノ保護力如何ナル事情ニ基キ必要トスルモノナリヤ尋ネタルニ「ボ」ハ保護ヲ必要ト認ムル品目及其ノ事由ノ設明書ヲ次回迄ニ調製シ當方ノ考慮ヲ仰度シト述フ(設カ)

(三) 次テ本官ハ爲替問題ニ關シ其ノ變動ノ將來ニ付何國ノ貨幣ニ付テモ豫斷ヲ（脱？）難シトスル處日本ハ爲替變動

防止ノ爲種々ナル措置ヲ執リ居ルニ付此ノ上大ナル變動ナシト信スルモ協定成立ノ際爲替ノ變動ニ關係少キ原則的事項ヲ長期ノ取極ト爲シ爲替ノ變動ニ關係深キ事項ニ關シテハ短期ノ取極トセハ爲替ニ關スル懸念ヲ除キ得ヘシト考ヘ居ル旨述ヘタルカ印度側ハ爲替問題ハ大ニ重要視シ居リ更ニ考慮ヲ加ヘ度キ所存ナリト述ヘタリ

次回ハ七日會合ノ豫定

545 昭和8年10月10日

沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛（電報）

雜貨問題に対するインド側意向とこれに對する  
我が方反駁について

別電一 十月十日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛（移牒第七七号）

インド側において産業保護法の適用を必要と  
考える我が方雜貨品目について

二 十月十日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛（移牒第七八号）

右雜貨品目リスト

シムラ 発  
本省 10月10日着  
◇ 移牒第六六號

往電（移牒第六五號參照）ニ關シ

九日第七回會合劈頭「ボア」ハ別電（移牒第七七號參照）

及同（移牒第七八號參照）各品目ハ完全ナル「リスト」ニ

アラス他ニ尙保護ヲ必要トスル多少ノ品目アルモ此ノ問題ヲ支配スル「プリンシブル」即チ産業保護法ニ基ク手段ニ代ル方法アラハ之ニ付討議シ度シト述ヘタルカ本代表ハ御送附ノ「リスト」ニ付研究セルカ印度側ニ於テ保護ヲ必要トセラル事情ノ説明無ク又印度生産額ノ記入セラレサルモノアリ從テ印度工業ノ現狀ニ付不可解ノ點アリ自分ハ印度政府ノ保護手段ヲ彼是言フニアラサルモ本件ニ付自分ノ打解ケタル意見ヲ述ヘ度シト前提シ右「リスト」記載ノ商品ヲ

一、品質ノ相違等ニ依リ日本ト競争ニナラサルモノ即チ莫大小、綿靴下、陶磁器  
二、日本ヨリノ輸入量少ク印度工業ニ多クノ影響ヲ與ヘサルモノ即チ石鹼、氷砂糖、毛編物、毛織物、紙、陶（磁器）、

ハ困難ナルヘシト言ヘルニ對シ之モ何トカ話合ヘハ協定出來得ルニ非スヤト答ヘ又綿布ニ關スル數字的對案ニ付テハ當業者會商モ開始セラレ居ルコトニモアリ其ノ結果ヲ參照シテ確定的ニ申出テ度シト答フ依テ綿布問題ハ之ニテ一先ツ預リ置クコトトシ

## 鐵管、革製鞆

三、日本ニ於テ自發的ニ工業ノ統制ヲ實行又ハ着手シツツアリテ將來印度ニ多クノ脅威ヲ與ヘサルヘキモノ即チ玻璃、鐵器、「セメント」「カンバス」靴（其ノ他鉛筆、鐵釘等ハ印度ヲ脅威セサル特殊事情アリ）

ノ三種ニ區分シテ各品目ニ付說明ヲ加ヘ更ニ工業組合法ノ趣旨及運用ノ實情並效果ヲ詳細説明シ更ニ別電（移牒第七號參照）中絹織物及人絹織物ヲ綿製品ニ關聯セシムルコトニ付テノ反対意見ヲ述ヘタリ

之ニ對シ「ボ」ハ右説明ハ頗ル有益ノモノト認ムルニ付之ヲ書物トシテ送付アリ度旨述ヘタル後

(一)印度生産ニ對スル詳シキ説明ハ頗ル困難ニテ右ハ小規模ノ村落工業ナレハ生産統計無ク產額大ナルコトヲ知レトモ其ノ數字ヲ<sup>(2)</sup>與ケ難シ

(二)輸入量少キ爲競争少シトノ論ハ承服シ難シ元來數量ノ少ナルコトハ必シシモ競争上脅威ヲ來ササルモノト言フヲ得ス商品價格力非經濟的タルニ於テハ數量少クトモ相場ヲ崩シ之カ爲賣價ノ切下ヲ餘儀無クセラルモノナリ「セメント」ノ如キハ其ノ適例ニテ日本ノ輸入量左迄大

ナラス而シテ印度モ既ニ生產制限ヲ實行シ居ルモ日本品ノ相場ニ依リ市價切下ヲ必要トシ其ノ結果收支償ハス(三)日本ノ統制方法ニ關シテハ政府ノ機關ナラサルモノニ對シ政府ハ強制シ得ルモノナリヤ又印度ニ對シ輸入又ハ其ノ價格ヲ統制スルコトニ付保障シ得ル次第（ナリ）ヤヲ承知シ度シ

四、品質異ル故ヲ以テ競爭トナラストノ論ニ付テモ價格ハ凡テヲ決定スルモノナリ即チ價格低廉ナル時ハ品質異ルモノニ代用シ得ルモノナリ殊ニ昨年中莫大小ニ付實例アリ莫大小業ハ印度ニ於テ非常ニ大切ナル工業ナルニ付特ニ重キヲ置キテ協定シ度シ

(五)絹織物ハ本年初め關稅調查會ノ議ニ附シ研究中ニ付右報告ヲ待ツコトトスヘシ人絹織物ハ綿製品トノ競爭強ク其ノ實例アリ人絹ハ價格ノ點ヨリ直接綿製品ノ代用品トシテ使用セラル從テ兩者ハ相關的ノモノナリ依テ綿布ト同シ方法ニ依リ統制セラレ度シトハ言ハサルモ綿製品ト同様ニ何等カノ方法ニ依ル統制力必要ナリ

要之雜工業ハ主トシテ村落工業ニ屬スルモノニシテ日本ヨリノ輸入數量ノ大小ニ拘ラス其ノ影響ヲ受クルモノナルカ

日本ノ統制ニ付更ニ一層ノ説明ヲ得ハ何等カノ協定ノ途ヲ發見スルニ難カラサルヘシト答ヘタリ

依テ本代表ハ右價格ノ點ニ關シ日本爲替ハ既ニ一定ノ程度ニ落着キ今後ハ爲替變動ニ伴フ大ナル影響無カルヘシ從テ或ハ單ニ昨年丈ケノ價格ヲ取り又或種ノ商品ヲ例ニ取りテ直ニ保護ニ關スル手段ニ出ツル必要無カルヘシト思考ス

且政府ハ統制ニ付凡ユル努力ヲ爲シ既ニ之力爲ニ商工省内

及各府縣ニ多數ノ官吏ヲ使用シ居ル實狀ナルヲ以テ工業組

合運用ノ結果必ス生產過剩ヲ防キ適當ナル價格標準維持上

充分ナル效果ヲ擧ケ得ヘシ而シテ是等組合ニ於テ統制力亂サレントスル場合ニハ省令ノ定ムル處ニ依リ政府ハ強制力ヲ

ヲ使用シ得ヘク更ニ商工省及府縣ノ官吏カ當業者ト協力ヲ密接ニスルコトニ依リ一層其ノ效果ヲ擧ケ得ヘシト確信シ居ルニ付印度側ニ於テハ暫ク是等日本側措置ノ結果ヲ觀ルコトシ此ノ際ハ日本ノ雜貨一切ニ對シ關稅引上ノ措置ニ

出テサル様希望スル旨ヲ述ヘタルカ「ボ」ハ十一月十日以後政府ハ非常ニ困難ナル立場トナル次第ナリ又日本ノ統制ニ關スル説明ヲ聞キ頗ル満足スル次第ナルモ唯其ノ結果ニ

關スル確實ナル保障カ缺ケ居ルコトヲ遺憾トス兔モ角書面

## (別電一)

シムラ

本省 10月10日着

移牒第七七號

往電（移牒第六五號參照）(二)末尾事由説明書調ヒ兼ネタリトノ理由ニ依リ印度側ヨリ第七回會議ヲ今九日ニ延期方申出アルト共ニ右説明書ヲ昨八日當方ニ送付越セリ該説明書中ニハ產業保護法ヲ適用セント目論見居レル日本品トシテ別電ノ十六品目ヲ指摘スルト共ニ夫々統計ヲ附シ絹織物及人絹織物（交織ヲ含ム）ノ二品ニ關シテハ綿織物ト關聯セシメ商議シ度ク生糸、絹糸、（「シルク、ヤーン」）人絹

系ニ關シテハ關稅調查會ニテ報告研究ノ上政府ノ議ヲ決定  
スル積リナル旨記載シ居レリ

(別電一)

シムラ 発

本省 10月10日着

◇  
移牒第七八號

- (1) Soap toilet
- (2) Soap-household and laundry
- (3) Pencils (excluding slate pencils)
- (4) Enamelled ironware
- (5) Cement
- (6) Sugar candy
- (7) Woolen hosiery
- (8) Knitting wool
- (9) Woolen piece-goods
- (10) Cotton socks and stockings
- (11) Cotton underwear
- (12) Paper-writing

(13) Earthern ware and porcelain

(14) Castiron pipe

(15) Wire Nails

(16) Boots and Shoes : -

(A) All leather

(B) With uppers of leather or other materials

(C) Rubber soled with canvas uppers

546 昭和8年10月(13)日 沢田日印会商代表より  
廣田外務大臣宛(電報)

雜貨問題および我が方インド綿花買付量と我  
が方綿布対印輸出量との関連主義に関するイ  
ハヌ側との協議について

シムラ 発

本省 10月13日着

◇  
移牒第八四號

第八回會議印度側希望ニ應シ一日延期シ本十二日開催印度  
側ヨリ我方ノ提出セル雜貨ニ關スル我覺書ノ第一項ニ云フ  
印中間競争品中品種相違セリト主張セルモノニ付莫大小ヲ

九 英連邦諸国との通商問題

例證トシ過去數年間ノ印度ニ於ケル日本品ノ價格ノ低落竝  
ニ其輸入量ノ増加セル事情ヲ數字ニ依リ説明シ且我價格ヲ  
印度ノ生産費ト比較シ日本品カ如何ニ印度品ノ競争品トナ  
レルカヲ説明シ第二我輸入小量ナリト主張セル品種ニ關シ  
テハ石鹼ヲ例トシテ前同様其輸入數量ノ増加及價格低落ヲ  
數字ニ付説明シ本年中特ニ去ル八月ノ輸入增加價格減少ヲ  
以テ日本側競争ノ激化ヲ指摘シ第三ノ我方力現ニ統制ヲ實  
行セル品種ニ付テモ特ニ紅茶器ヲ例トシテ日本價格力統制  
實行後高騰セリト云ハルモ印度ニ於ケル日本茶器ノC.I.  
F値段力却テ激落セシコト並ニ他ノ陶磁器ニ付テモ同様ノ  
價格低落ヲ見タルコトヲ例示シ何レモ日本品競争ニ對スル  
保護ノ必要ヲ主張シタル上印度側ハ自國ノ不便ヲ忍ヒテモ  
日本品ニ對シテハ其品種カ多種多様ナル爲從量稅ニ依リ難ク  
向ヲ以テ種々考慮シタル結果多數品目ニ對シ從量稅ヲ採用  
シ以テ適當ノ稅率引上ヲ行ハントスルモノナリ但シ數種ノ  
商品ニ對シテハ其品種カ多種多様ナル爲從量稅ニ依リ難ク  
自然產業保護法ヲ適用スルノ外無シ其品目ハ例ヘハ珙鄉鐵  
器、陶磁器及毛織物等ナリ尤モ之等品目ニ付テモ印度側ハ  
別ニ日本ニ對シ差別的待遇ヲ爲ス意志無キモ妙案無キ次第

ニ付日本側ヨリ差別稅適用ヲ避クル爲ノ何等カノ妙 (案)  
アラハ之ヲ提示セラレタシト述フ依テ本官ハ從來貴政府ハ  
常ニ友好的精神ヲ示シ來レルニ拘ラス右貴案ニ依リ假令一  
商品ト雖我商品ニ差別的待遇ヲ與フルニ至レハ日本ノ國民  
的感情ヲ刺戟シ會議ノ前途ニ惡影響ヲ與フル惧アリトテ極  
力產業保障法ヨリ適用ヲ翻スコトヲ求メタルニ「ボ」ハ本  
代表逐日來指摘ノ點ヲ考慮シタル結果適用品目ヲ極度ニ減  
少シ且日本側ノ對策ニ對シ充分ノ考慮ヲ拂フコトヲ約セん  
トスルモノナリトテ印度側ノ互讓的精神ヲ釋明スルニ努メ  
尙產業保障法ヲ適用セントスル品目ノ「コンブリート、リ  
スト」ハ來週早々呈示スベシト述ヘ彼我談合ノ結果雜貨ニ  
對シ双方ノ主張ヲ仔細ニ檢討スルト共ニ出來得ヘクンハ之  
ニ關シ何等カノ一致點ヲ發見セシムル爲不取敢彼我専門家  
ヲシテ意見ノ交換ヲ試マシムルコトトセリ次ニ綿布問題ニ  
關シ「ボ」ハ當業者會議物別レノ形トナリタルニ付日本ノ  
對案トシテ輸入數量等ヲ含ム具體案ヲ差出スヘキ筈ナルカ  
日本側ニ於テ印棉買付量ニ應シテ綿布輸入量ヲ加減スルノ  
主義ニ同意セラレ度ク即チ本年度ノ印棉買付量ニ對應シテ  
翌年度ノ綿布輸入量ヲ決定スルノ方法ヲ執ルコトシタク

印度側トシテハ印棉ノ買付ト輸入量ヲ關聯セシメスシテハ

數字的具體案ヲ作ルコト困難ナリト述ヘ尙種々問答中「ボ」ハ右ニ關聯シ日本政府ニ對シテハ勿論當業者ニ對シテモ一定量ノ買付保障ヲ求ムル趣旨ニ非サル旨説明シタルヲ以テ本官ハ我方ノ建前ハ綿布輸入量ノ問題ヲ關稅率引下ト關聯シテ提案シタルモノニシテ如何ナル形式ニスルモ之ヲ印棉買付量ト結付クル事ハ我方ノ考慮シ難キ事情ハ繰返シ説明ノ通リナリト遣り返シ種々押問答ノ結果當方ノ主張ニ基ク對策ヲ來週火曜日提出スヘシトノ事ナリシニ付之ヲ見タル上更ニ本問題ヲ考慮スルコトトセリ次回會議ハ來週火曜日専門家會合ハ明十三日ヨリ開催スルコトトセリ

547 昭和8年10月(14)日 沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方インド綿花買付量と我が方綿布対印輸出量との関連主義採用方意見具申  
シムラ 発  
本省 10月14日着  
移牒第八九號

往電(移牒第八一號參照)ニ關シ

綿布輸入量ト印棉買付量トノ關聯問題ニ付テノ先方ノ意思カ別ニ一定量ノ印棉買付ニ關聯問題ニ付テノ先方ノ意思ノニ非サルコト分明シタル次第ナルカ本問題ハ累次ノ電報ニテ御承知ノ通り當方トシテハ重々之ヲ撥附ケ來レルニ拘ラス先方ニ於テハ印棉不買ニ絡マル印度國內ノ複雜セル關係ヨリ再三、再四主張シ來リタルモノニシテ先方トシテハ到底此ノ主張ヲ拠棄スルコトアラサルヘント存ス而シテ難貨問題ノ解決案ニ付テハ別個ノ進展ヲ見ツツアルノミナラス先方ニ於テモ印棉買付問題ハ日印商議全部解決ヲ條件トスルコトハ既ニ了承シ居ル一方實際的見地ヨリ考察スルモ綿布輸入量ニ關スル先方要求ハ印度政府代表ノミナラス當業者ニ於テモ到底受諾シ難キ旨再三明言シ居ル次第ニ付我方從來ノ主張ノ通り印棉買付ヲ別個ノ問題トシテ押シ行クニ於テハ假リニ先方ニ於テ此ノ主張ヲ受諾スルニ至ルコトアリトスルモ其ノ際先方ノ受諾スヘキ綿布輸入量ハ頗ル少量タルヘキコトハ想像ニ難カラス就テハ此ノ際先方ノ主張ヲ容レ兩者關聯主義ノ下ニ兩者間ノ比率決定方ニ付出來得ル限り我方へ有利ナラシムル様努ムル方得策ニアラスヤト

思考セラル尤モ先方ノ希望スル兩者關聯ニ關スル主義ヲ認ムルニ付テハ當方トシテハ其ノ條件トシテ

(一)現行綿布關稅ヲ五割以下ニ引下ケ且最惠國待遇ヲ與フルコト  
(二)本件ハ日印商議ノ全般的解決ヲ前提トスルコト  
(三)兩者ノ比率ハ價格ニ依ラス數量ニ依ルコト

ヲ主張シ度キ積リナリ何レ先方ヨリ本件ニ付數字的具體案提出ノ際ハ必要ニ應シ改メテ請訓スヘキモ來ル十七日ノ會議ニ於テハ前顯ノ趣旨ヲ以テ應酬スルコト然ルヘキヤニ存スル處右様取計ヒ然ルヘキヤ十六日迄ニ至急何分ノ儀御回電相成度シ

貴電(移牒第八九號參照)ニ關シ

十七日ノ會議ニ於テ先方ヨリ提出スル數字的具體案内容力貴電(移牒第七二號)又ハ(移牒第八七號參照)ノ如キ法外ナルモノニアラス且ツ先方誠意ノ認ムヘキモノアリ貴官ヨリ御來示ノ條件ヲ示スコト我方ノ主張ヲ有利ニ導キ得ヘシトノ御見込ナルニ於テハ最初先ツ貴官限リノ案トシテ御請訓通り取計ハラレ差支ナキモ累次御電報ノ如ク印棉買付ハ先方カ内政上最モ重キヲ置キ居ルタケ我方トシテハ交渉上最有力ナル武器ナルニ付有效ニ之ヲ利用スルノ要アルハ申迄モナク貴電(移牒第四九號參照)ノ提案ニ對シ先方ノ具體的回答ヲ取付ケ論議ヲ戰ハセサルニ先チ更ニ其ノ要求ニヨリ印棉買付ト我綿布輸入量トヲ關聯セシムルカ如キハ之ヲ避クルコト致度ク先方關聯案ハ綿布關稅引下ノ對償トシテ既ニ數量統制ヲ申出居ル當方ニ對シ其ノ上更ニ先方關聯案ニ依リ消極的ニハ印棉不買解除ヲ勸メ積極的ニハ一定量ノ印棉買付ヲ約セシムルモノニ有之換言スレハ右三段ノ義務ヲ我方ニ負ハシメントスル次第ニシテ當方トシテハ異ニ最大ナル讓歩ナルニ付之ニ對シテハ最大限度ノ對償ヲ得ル様折角御盡力ヲ得度シ尙右貴電ノ(三)ハ當方トシテハ異

548 昭和8年10月16日 広田外務大臣より  
沢田日印会商代表宛(電報)

現状においては我が方インド綿花買付量と我が方綿布対印輸出量との関連主義採用は回避すべき旨訓令

議ナキモ貴地倉田ノ意見モ徵セラレ度シ

~~~~~

549

昭和8年10月(18)

沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

我が方インド綿花買付量と我が方綿布対印輸出
量との関連主義に基づくインデ側提案について

別電 十月十八日着沢田日印会商代表より広田外務
大臣宛(移牒第一〇一〇号)

右インデ側提案

シムラ 発
本省 10月18日着

移牒第一〇〇號

十七日日印會議第九回開催

印度側ヨリ雜貨ノ中從量稅ニ依リ難シトルモノハ前回提示セル三品目以外ニ無シ尙右三品モ從量稅品目ニ何トカ組入レ度ク關稅主任官「ハーデー」ヲ甲谷陀ニ右ノ爲調査ニ遣ルヘク從テ該調查ノ終ル迄ハ雜貨問題ハ暫ク商議ヲ延期シ度シト述ヘタル上(右三品ニ關スル調査ハ我方ニ於テモ

別ニ孟買及甲谷陀ノ邦商ニ調査方ヲ依頼セリ)綿布ニ關スル印度側對案ヲ提出セルカ「ボ」ハ數字ニ付昨年度ハ何レモ「アブノーマル」ノ狀態ナリシヲ以テ之ヲ一九三二年三月ニ至ル十年間ノ平均數字二億七千五百萬碼ヲ基本トシ之ニ別ニ二千五百萬ヲ加ヘテ三億碼ヲ採用セリトテ別電(移牒第一〇一〇號参照)ノ趣旨ヲ述ヘ人絹ニ付テハ印度内ニ種々事情アルモ過日來ノ日本側ノ主張モ考慮ノ末本日提案ノ結論ニ對シタル次第ヲ説明シタリ依テ本官ハ右對案ハ我方原案ト甚シキ隔リアリ我方ハ主義トシテ棉花買付ト綿布輸入量制限トヲ結付クルノ案ニ同意シ難シトテ貴電(移牒第九八號參照)御訓令ノ趣旨ヲ繰返シ説明シ印度側ニ於テ本日ノ提案ニ代フルニ當方主張ヲ基礎トセル別案ヲ提出センコトヲ求メタル處「ボ」ハ其ノ困難ナルコトヲ説述セル上七割五分關稅ト雖圓爲替下落ノ影響ヲ是正シ得ス印度當業者ハ多大ノ不滿ヲ感シ居リ又棉花ニ付テモ特ニ多量ノ買付ヲ強ヒントスルモノニアラシテ從來通ノ買付ヲ繼續スルコトヲ豫期セントスルニ過キスト述^(アマ)ベタルヲ以テ本官ハ右印度對策根本主義ハ我政府ノ受諾ヲ得ルコト困難ナルヘキカ差當リ本官一個ノ考トシテ印度對案ヲ檢討スルニ印度側

ノ綿布輸入量ニ關スル數字ハ我方數字ト多大ノ懸隔アルノミナラス爲替ノ變動ト關聯セシメ居ル點ニ於テ本邦ニ於テ

强硬ナル反對アルヘク又稅率引下ノ程度ニ付テモ我方ハ原案ノ數量ヲ基礎トシテ五割以下ヲ主張セルモノニテ貴案ノ數字ニ依レハ更ニ之カ低下ヲ求ムルノ要アルヘシ又其ノ他ノ點ニ付テモ到底我方ノ承認出來サルモノアリ印度案其ノ儘ニテハ我方トシテ到底受諾シ難キ旨縷々説明シ尙印度側カ一般ニ綿布關稅ヲ引下ケタル場合ハ我方ニ最惠國待遇ヲ與ヘントスルノ趣旨ナルヤノ點ヲ念フ押シタルニ對シ「ボ」ハ無論最惠國待遇ヲ與フヘシ但シ爲替ノ變動ニ對シテ特別ノ規定ヲ設クルコトハ最惠國條款ノ趣旨ニ反スルモノニ非ス現ニ加奈陀又ハ佛蘭西ノ條約ニ於テモ斯ル規定アリト答

度シト述ヘタリ依テ本官ハ更ニ印度側對案ハ其ノ儘ニテハ到底受諾出來サル旨聲明シタル上同僚トモ協議スヘキカ印度側ニ於テモ本官ノ指摘セル諸點ヲ特ニ考慮シ再考セラレ度シト述く「ボ」ハ之ヲ受諾シタリ

「デリー」ニテ開クコトトセリ

尙別電中綿布輸入量ニ最高限ヲ定メタル點及第四項「クオータ」ヲ四期ニ平分スル點トハ會議ノ席上「ボ」ハ別ニ述ヘサリン所ニシテ後文書ヲ以テ該案ヲ送附越ノ際附加ヘラレタルモノナリ更ニ會議終了後「ボ」ハ本官ニ對シ本件ニ付別ニ個人的ニ懇談スル方可然ト思考シ居ル處御同感ナラハ何時ニテモ御話シ度シト述ヘ居リタリ

(別電ハ先方ノ切ナル要求モアリ絕對外部ニ漏レサル様御取扱ヲ請フ)

(別電)

シムラ 発
本省 10月18日着

移牒第一百〇一號

度シト述ヘタリ依テ本官ハ更ニ印度側對案ハ其ノ儘ニテハ

到底受諾出來サル旨聲明シタル上同僚トモ協議スヘキカ印度側ニ於テモ本官ノ指摘セル諸點ヲ特ニ考慮シ再考セラレ度シト述く「ボ」ハ之ヲ受諾シタリ

次回ハ假ニ十九日開催ノコトトシ右不可能ノ時ハ一月十一日

every 10,000 bales by which Japan's purchases of cotton had fallen short of the minimum in the previous year. If, however, Japan's purchase of cotton in any year should exceed $1\frac{1}{2}$ million (1500000) bales, the quota for the next year would be increased at the rate of 2 million yards for every additional 10,000 bales subject to a maximum of 350 million yards.

3. The quota would be distributed in the following proportion.
- | |
|---------------------|
| Plain greys—45% |
| Bordered greys—13% |
| Bleached—8% |
| Dyed—9% |
| Printed—15% |
| Woven, coloured—10% |

4. The quota would also be distributed into four equal quarterly instalments.

5. In the event of agreement being reached on other matters the duty on plain greys would be reduced to

50% ad valorem or 50 1/4 annas per pound. The duty on other goods would be reduced to 50% ad valorem though it may be found necessary to impose minimum specific duties on other goods also.

6. In respect of art silk and art silk mixtures the Indian Delegation no longer wish to suggest a quota nor to discriminate, in respect of any duties which it may be found necessary to impose, between Japan and other foreign countries.

7. The quota will apply to the whole of India including Burma, and, in the event of separation of Burma, the quota of imports into India excluding Burma would be subject to a proportionate reduction.

8. Any agreement arrived at should provide for the imposition of special additional duties in accordance with, or to compensate for, any further depreciation in the exchange value of the yen relative to the rupee.
- ~~~~~

550 昭和8年10月19日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

綿花買付量と綿布輸出量との関連主義に基づいて
ハニ側提案にても回国首席代表と会談にひつ

シムハ

発

本省 10月19日着

◇移牒第一〇五號

十七日會議後往電(移牒第一〇一號參照)綿布問題ニ關スル印度側對策ヲ研究シタル結果同日會議中本官ノ指摘シ置ケル難點以外ニモ我方ノ同意シ難キ諸點ヲ説明シ我方カ印度側對案ヲ受諾シ得サル事情ヲ「イムアレス」スルト共ニ先方カ右案ヲ決定スルニ至レル内情ヲモ探知シ且ツ疑問トスル點ヲ質シ置ク事カ我方ニ於ケル問題考究上参考トナルヘシト思考シタル一方「ボーア」ニ於テモ亦本官トノ懇談ヲ希望セル事情モアリ旁十八日「ボ」ノ官邸ニ於テ兩人會合交換シタル談(話)ノ要領左ノ如シ

本官ハ先ツ印度側對案ニ關シ十七日ノ席上説明セル通り主義トシテ印棉ト綿布ヲ結着クル點ハ我政府ノ執ラサル處ニシテ既ニ之カ考慮ヲ求メタルモ贊同ヲ得ス次ニ數量ノ問題

コトニ付日本當業者ノ受諾ヲ困難トスル日本側ノ主張ハ充分了解セル處ナレトモ印度大衆ノ農民ハ現在窮乏ノ極ニ達シ居リ日本カ棉花買付ヲ實行セサレハ由々敷農村問題ヲ惹起スル惧アリ然ルニ日本當業者ニ於テ「ボイコット」ヲ行ヘル關係モアリ

何等力農業者ノ利益ヲ保障スル方法確立ノ要アルヲ痛感セシメタリ日本ノ事情モ先般來貴代表ノ説明ニ依リ漸次了解シタル處アルヲ以テ此ノ際相互ニ互讓ノ精神ヲ以テ妥結ニ達セサルヘカラスト存シ印度側ニ於テ充分考慮ヲ運ラシタル結果右精神ノ表象トシテ人絹ノ如キ當初主張セントセシ問題ヲモ除外シタル次第ナリト説明セル上兎ニ角印度案ニ對シ日本側ヨリ對案ヲ提出セラルレハ互讓ノ精神ヲ以テ歩寄リ度シト考ヘ居ル旨述ヘタリ依テ本官ハ右「ボ」ノ言分ニ對シ然ルヘク應酬ノ上昨十七日ノ會議ニ於テ印度側ノ提案説明中綿布最大輸入量及之ヲ四期ニ分ソコトハ聞カサリシ處ナリトテ其ノ説明ヲ求メタル處「ボ」ハ右ハ何レモ印度側ノ重大視セル處ニテ昨日モ説明シタリ抑々右輸入最大量ハ昨年ハ非常時ナレハ之ヲ除キ其ノ前三年間ノ輸入量ハ大體毎年三億五千萬ニテ之ハ決シテ「アンリーザナブル」

九 英連邦諸国との通商問題

理ナリト言ヘルニ「ボ」ハ緬甸ヨリ少量ノ輸出有リ但シ此ノ點ニ付テモ日本側案ヲ提出セラレタント答フ

次ニ第八爲替ノ問題ニ付本官ハ爲替下落ニ基ク不便ヲ防ク爲將來綿布輸入量制限ヲ爲サントスルモノナリ其ノ上貴案ノ如ク棉花ヲ結着クル場合ハ爲替安ケレハ棉花買付量ヲ減少セシメ從テ綿布輸入量ヲ制限スルヲ以テ自然ニ調節セラルル故強ヒテ爲替ニ關スル規定ヲ設クル必要無シト述ヘタルニ「ボ」ハ爲替問題ハ印度側ノ重大視スル處ナリ現ニ外國ニ於テモ智恵古、佛蘭西及加奈陀、佛蘭西間條約ニモ此ノ點ニ關スル協定條項ヲ含メリ從テ今後協定セラルヘキ條約ニハ如何ニシテモ爲替ニ對スル規定ヲ設ケ置カサルヘカ

間ヲ短キモノト爲シ置ケハ特ニ爲替ニ關スル規定ヲ設クル要無シト考フルモ印棉買付ト「クオーダ」ヲ結着ケントスル貴案ニ依レハ協定有效期間ハ相當長クセサルヘカラスノ調節力伸々困難ナリト述ヘタル處「ボ」ハ協定ノ期間ニ付未タ決定シ居ラサルモ自分一個ノ考トシテハ三年乃至五年ヲ可トスト存シ居レリト答ヘ尙双方歩寄ニ依リ何トカシテ相互ニ受諾出來ル協定ニ達シ度シト述ヘ居リタリ

551 昭和8年10月21日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

綿花買付量と綿布輸出量との関連主義に基づく

インド提案への我が方対案提示方訓令

別電一 十月二十一日発広田外務大臣より沢田日印会

商代表宛(移牒第一一二号)

右我が方第一次対案

二 十月二十一日発広田外務大臣より沢田日印会

商代表宛(移牒第一一二号)

本省 10月21日発

○ 移牒第一一〇號

暗 貴電(移牒第一〇六號参照)末尾ニ關シ

貴電(移牒第一〇二號参照)印度側提案ニ關シ關係省及當業者ト協議シタル處當業者側ハ(1)右印度案ノ綿布割當量ト印棉買付量トヲ金額ニ見積レハ夫々約五千萬圓ト一億五千萬圓トナリ右一對三ノ比率ハ餘リニ不合理ナルコト及(2)印棉買付停止ヲ終熄セシムルコトハ我方ノ最後ノ切札ニシテ

ノ數字ニアラストテ同數量ノ變更ニ付餘リ多キヲ期シ難キ口吻ヲ漏ラシ居リタリ次テ本官ハ印度案ノ内容ニ付我方ノ受諾シ難キ點ニシテ昨日以來指摘セルモノ以外尙數點アリ例へハ印度案第二項品種別割當ハ我方ニ對シ二重ノ制限ヲ附セントスルモノナルノミナラス其ノ實行困難ナル爲我方ノ統制ヲ不可能ナラシムル虞アリ且第四項ノ四期別平均數量割當ハ取引ヲ阻害シ商賣ノ實狀ニ合ハス共ニ削除セサルヘカラスト言ヘルニ「ボ」ハ品別割當ハ過去ノ實績ヲ基礎トシ當業者ノ意見ヲ加味シテ作成シタルモノニシテ右案ニテ取引出來サルコト無シ又期別割當ハ一時的多量ノ輸入力保護ノ實效ヲ薄クスルコトヲ避ケントスルモノナリ尤モ右ニ關シテモ貴案アラハ更ニ考慮スヘシト答フ本官ハ第五項ノ其ノ他綿布ニ付從價量ヲ併用セントスルモノナリヤ又從量稅ノ程度如何ト言ヘルニ「ボ」ハ此ノ點未決定ナルカ自分ノ個人的意見トシテハ兩稅ヲ選擇的ニ併用シ從量稅ハ從價五割ヲ換算セル稅率ノ程度トシ度キ考ナリト答フ

次ニ本官ハ第七ノ緬甸分離後ノ「クオーダ」ニ關シ本來綿花ハ印度本土ヨリ輸入シ同地方ヨリハ輸入無キ故之ニ引懸ヶ印度本土ヘ輸入ノ我綿布「クオーダ」ヲ減少スルハ不合

停止力漸ク其ノ效力ヲ現ハサントシツアル今日右ヲ安々ト讓歩シ難キコト等ヲ强硬ニ主張シ今直チニ綿布棉花ノ關聯ヲ認メ難キ旨固執シ居ルモ政府トシテハ御來示ノ次第等ニ鑑ミ大體別電（移牒第一一二號參照）及（移牒第一一二號參照）ノ通り我方對案ヲ作成シタルヲ以テ貴官ハ右趣旨ニ基キ貴電（移牒第一〇五號參照）ノ次第モアルニ付私交渉ヲ進メラル様折角御配慮煩度シ尙先方案記載ノ數字ニ付「ボア」ハ當業者ノ要求ヲ退ケテ作成シタルモノナリト稱シ居ルモ右ハ貴電（移牒第八七號參照）印度當業者ノ意嚮ヲ殆ソド其ノ儘取入レ特ニ手加減ヲ加ヘタル模様ナキ點モ可然說述セラレ先方ノ讓歩ヲ促ス様御盡力アリタシ

（別電一）

本省 10月21日発

移牒第一二一號

一、先方案第一項及第二項ニ關シ（1）先方カ貴電（移牒第五〇號參照）我方提案綿布輸入量五億七千八百五十二萬九千碼ヲ認ムル條件ノ下ニ我方ハ印棉買付數量百二十五萬俵ヲ認ムルコト（2）綿花買付ノ最高最低數量ヲ定メスシテ右

（別電二）

本省 10月21日発

移牒第一一二號

一、右別電ニ關シ若シ先方カ當方ノ主張スル綿布數量ヲ肯ンセス更ニ少量ヲ主張シ來ル場合ハ寧ロ棉花買付數量ニ付讓歩スル方針ニテ御交渉アリタシ

二、先方ガ綿布品種別割當ヲ飽ク迄主張シ來レル場合ハ右割

當ニ付テハ在貴地當業者代表ノ意見ヲ徵シ可然決定スルコト

三、英特惠トノ開キハ成ルヘクニ割五分ヲ超ヘシメサルコト追テ其ノ邊勿論御如才ナカルヘキモ今次日印問題ノ解決振りハ自然他國トノ此ノ種問題解決ノ先例トナルヘキ次第ニ鑑ミ萬事其ノ御含ニテ御措置アリタシ

（延着）

552 昭和8年10月26日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛（電報）

綿花買付量と綿布輸出量との関連主義に基づくインド案への我が方対案に関するインド首席代表との会談について

デリー 10月26日発 本省 着 移牒第一二三號

貴電（移牒第一一〇號參照）ニ關シ
廿三日午前「ボ」トノ私的會談ヲ行フ談話ノ要領左ノ通
本官ハ先ツ帝國政府ハ「クオータ」ニ關スル我方希望數量

百二十五萬俵ヲ基準數量トシ右數量ヨリ一萬俵ヲ増減スル毎ニ二百萬碼ノ割合ニテ増減セシムルコトヲ主張スルコト

二、先方案第三、四、七及八項ハ何レモ貴電（移牒第一〇五號參照）御説明ノ趣旨ニテ反対スルコト

先方ガ如何ニスルモ別電（移牒第一一二號參照）案ニ同意セサル場合ニハ左記ニヨリ步ミ寄ラレタシ（尙綿布輸入量ト印棉買付量トヲ關聯セシムルコトヲ往電（移牒第九八號參照）ノ趣旨ニ於テ認ムルコト今ヤ已ムヲ得スト存スルモ此ノ主義上ノ讓歩ハ本對案ノ達成ノ爲有利ニ利用セラレタシ

一、右別電ニ關シ若シ先方カ當方ノ主張スル綿布數量ヲ肯ンセス更ニ少量ヲ主張シ來ル場合ハ寧ロ棉花買付數量ニ付讓歩スル方針ニテ御交渉アリタシ

二、先方ガ綿布品種別割當ヲ飽ク迄主張シ來レル場合ハ右割

義容認ハ自分トシテモ亦印度政府トシテモ欣快トスル處ニシテ日本政府今回ノ御決定ハ之ヲ多トセサルヲ得スト述ヘタルヲ以テ本官ハ貴電（移牒第一一號參照）ノ我方第一案ノ英譯セルモノヲ讀上ケ更ニ之ヲ敷衍説明シ印度案ノ（三）及（五）付テハ我政府ハ過日申上ケタル自分ノcommentヲ承認セリ既ニ印棉買付關聯問題ニ於テ我方力讓歩セルニ更ニ商取引ノ實際上困難アル此ノ種ノ制限ヲ附セラルコトハ當業者ノ到底容認シ難キ處ナリトテ豫テ用意ノ統計表ヲモ示シタル上

本項ハ全然削除セラレタシト求メタル處「ボ」ハ前回ノ説明ヲ繰返シ品種ノ區分ハ實際數字ヲ基トシタルモノニテ前數年間ノ常例トナレルモノナレハ取引上障碍トナラス假令輸入總數量ヲ制限スルモ品種ニ於テ無制限ニ輸入セラルコトトナレハ保護ノ本義ヲ沒却スヘシ印度案ハ兩者ヲ調和シテ立案セラレタルモノニシテ之ヲ全然削除スルコトハ困難ナレトモ例ヘハ「パーセンテージ」ヲ多少變更スルナリシテ兎ニ角御説明ノ次第ヲ更ニ考慮スルコトトスヘシト云ヘリ次ニ本官ハ緬甸分離ノ「クオーダ」ニ關聯シ過日ノ批評ヲ繰返ヘセル上分離カ果シテ何年頃實現セラルルヤヲ質

問シタルニ「ボ」ハ來ルヘキ印度憲法改正實現スヘキ時期即チ大體今後二年ノ後ニハ實行セラルヘク豫想スルト言ヘルヲ以テ本官ハ二年ト云フカ如キ長期間後ニ豫定セラレ而モ目下ノ處今日ヨリ二ヶ年目ニ果シテ實現スヘキヤ多少ニテモ確實性ヲ缺ク問題ニ關シテ今ヨリ豫定中ニ規定ヲ設クルノ必要何レニアリヤ協定期間ハ餘リニ長期トナルトハ思ハレス假リニ三年トスレハ問題ノ起レル時期ニハ右豫定ノ繼續方ニ關スル商議開催セラルヘク就テハ其ノ際ニ當リ本問題ヲ議スルモ遼カラスト説明シタルニ「ボ」ハ之ヲ首肯セルモノノ如ク之ニ付テモ更ニ考慮スヘシト答ヘタルカ此ノ際協定ノ期間ニ付意見ヲ交換シ自分ハ未タ何等政府ノ訓令ヲ受ケタル譯ニ非サレ共私見トシテハ棉花綿布ヲ結着ケタル以上先物取引ノ關係上三年位ヲ適當ト思考スル旨ヲ述ヘタルニ「ボ」ハ未タ確定議ナラサレ共自分モ同様ニ考ヘ居ル旨ヲ答ヘタリ

次テ本官ハ第八項ノ爲替問題ニ關シテモ前會合ニ於ケル自分ノ批判ハ我方政府ノ容認スル所ナリトテ斯ノ如キ規定ノ方式決定ハ困難ナリ本來爲替問題アレハコソ我方ハ綿布輸入量制限ヲ行ヘルモノニシテ之ヲ棉花買付ニ結ヒ付ケタル

以上圓ノ下落ハ買付量ノ減（少）ヲ來シ二重ニ保障ヲ與フルコトトナリ然モ協定ヲ短期トスレハ斯ノ如キ規定ノ要ナシト說明スルト共ニ我方政府ノ爲替安定策ヲ述ヘ各國爲替相場最近ノ變動ハ圓ノ獎來^{（勝利）}ニ關スル單ナル悲觀的觀察ノ當ラサルヲ縷說シテ其ノ謂ナキヲ主張シタルニ「ボ」ハ本官ノ主張ニ尤モノ節アルハ認ムルモ印度ハ之ヲ獨リ日本ニノミ求メントスルモノニアラス印度政府トシテハ以後他各國ト條約ヲ結フ際ハ爲替ニ關スル規定ヲ設クルコトニ決意シ居ル外斯ノ如キハ近來ノ國際協定ノ新形式ナリト説明シタルヲ以テ本官ハ日印間ノ通商關係ハ非常ニ密接ニシテ日本ハ印度ノ外國貿易上特殊ノ地位ヲ有ス抑々日本程印度品ヲ買入レル國何レニアリヤ如何ニ他各國ト結フ可キ條約ニ爲替規定ヲ加フルコトニ決定セラレタリトテスル特殊ノ地位ニアル日本ヲ其他ノ國ト同一ニ遇セントスルコトハ妥當ヲ缺クモ甚タシキコトナリ況ヤ今回我方ハ印度ノ立場ヲモ篤ト考慮シ綿布輸入量ノ制限ヲ爲スト共ニ印棉買付トノ關聯ヲモ約セントスルモノニシテ之ニ單ナル他國ノ例證ヲ其儘適用シテ爲替ニ關スル規定ヲ強ヒントスルハ當ラスト反駁シタルカ「ボ」ハ爲替ノ同題ハ單ニ綿布ニノミ關スル譯ニ

ハアラス他ノ商品ニモ及ヒ然モ他商品ノ日本ヨリノ輸入ハ其ノ合計ニ於テ相當ノ多量ニ達シ政府ハ之ヲモ重要視シ居レルヲ以テ結局何等力一般的規定ニテモ附加シ置キタシト答ヘ最後ニ「クオーダ」ノ數量ニ立歸リ「ボ」ハ日本側ニ於テ關聯ノ主義ヲ容認セラレタルコトハ多トスル所ナルモ度々申上クル通り昨年ノ數字ハ全然異例ナルモノニシテ印度側トシテハ到底之ヲ受諾シ難ク殊ニ絹ニ關シ大ナル讓歩ヲナシタル今日益々之力受諾ヲ難カラシムル旨述ヘタルニ付本官ハ日本側當初提案ノ如ク單ニ關稅ト輸入量ヲ相對抗セシメタル場合ニハ或ハ右數量ヲ多少減スルコトヲ考慮シタルヤモ知レサレトモ所謂關聯主義ヲ認メタル以上我方要求數量ハ決シテ過當ノモノニ非ス何レニセヨ印度案ノ數量ハ餘リニ過少ニテ之ニテハ日本側ハ斷シテ承諾セサルヘキコトヲ充分顧念シ日本側要求數量ヲ承諾セラレタシト求メタル處「ボ」ハ本日ノ會談ハ頗ル重要ナルモノニテ自分獨斷ニテ確答シ兼ヌルニ付明二十四日朝閣議ヲ開キ態度決定ノ上回答スヘキコトヲ約シタリ最後ニ雜貨問題ニ付本官ヨリ専門家會議ヲ速ニ再開綿布問題ト併行シ何分ノ決定ヲ急ギ度キ旨述ヘタル處「ボ」ハ曩ニ「カルカツタ」ニ出

張セシメシ印度側顧問「ハーボー」昨夜歸來セシニ付早速其報告ヲ徵シ近日中専門委員會ヲ開カシムヘシト答へ尙本官ト「ボ」トノ私的會談ハ今後暫ク之ヲ繼續シ何ト力段落ノ付キタル際必要ニ應シ本會議ヲ開クコトニ打合セタリ

553 昭和8年10月26日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

綿花・綿布関連主義に基づく我が方対案への

インド側再対案提議について

デリー 発

本省 10月26日着

移牒第二三〇號

(至急)

往電(移牒第一二三號参照)ニ關シ

二十五日商務長官本官ヲ來訪シ貴電(移牒第一一號参照)

我方ノ案ニ關シ印度側對案ヲ提出會談ス其ノ要領左ノ如シ

(一)日本綿布「クオータ」問題、印度側對案ノ提出ニ先立チ

「ボ」ハ本日ハ特ニ打チ解ケテ會談シタシト前置シ印度

政府ハ閣議ニ於テ日本案ニ對應スヘキ代表部ヘノ訓令ヲ

決定シ代表部ハ之ニ基キ印度工業保護ノ要望ト日印間ノ經濟並ニ政治關係トヲ考察シ兩者ノ調和ヲ計ル見地ヨリ日本案ヲ慎重ニ研究シタル結果世上ノ何人ヨリ見ルモ公正ニシテ且ツ好ク國內ノ反對ヲ抑ヘ實行シ得ヘキ基礎ヲ有スル對案ヲ作成シタル次第ナリ

扱テ日本政府力當業者ノ反對ヲ斥ケテ關聯主義ニ同意セラレタル誠意ニハ深ク之ヲ感謝スルモ一九三二年度ノ數字ハ例外的ニシテ閣議ニ於テモ全然問題トサレス依テ一九三二年ヲ除ケル一〇ヶ年平均量ヲ捨テ同年ヲ除ケル五ヶ年間平均量ニ變更スルノ案ヲ作成シタリ即チ綿布輸入量ヲ三億二千五百萬碼トシ最高量ハ三億七千五百萬碼トス同様五ヶ年平均ヲ採レハ日本ノ棉花買付量モ略百五十萬俵ヲ示シ兩者相對照シ居リ之コソ何人モ反對シ得サル合理的數字ナリト說明シ且極祕ナリトテ印度紡績業者ノ要望ハ最高量二億五千萬碼ニ過キサリシカ棉花買付ト關聯セシムルコトシテ印度側回答原案ヲ三億碼三增加シタル次第ナルカ印度側ニ於テハ既ニ日本側ニ於ケル綿布ノ價格調節及入網統制要求ヲ放擲シ關稅ハ當業者ノ不満アリシニ不拘五割ニ引下ケ更ニ產業保護法ヲ適用スルノ必

要アリタル雜貨ニ對シテモ從量稅適用ノ方法ニ依リ最惠國待遇ヲ與フルコトニ讓歩セリ

(二)雜貨問題殊ニ雜貨中例ノ三品即チ陶磁器「エナメル」器及毛織物ニ付「ハーディト」調査ノ結果ハ品種ノ細別ヲ

爲スモ尙從量稅適用ノ困難ナルコト判明シタルモ今回會

商ノ顧慮シタル重要問題ニ付合意成立スレハ雜貨ニ關ス

ル產業保護法適用ノ主張ハ放棄スルモ可ナリトノ決意ヲ

有スル次第ナレハ日本側ニ於テモ特ニ考慮ノ上印度側案

ノ受諾ヲ得度シト述ヘタル上綿布ノ種別及期別輸入量割

當ニ付テモ前回同様ノ説明ヲ加ヘタリ依テ本官ハ印度案

數字ハ果シテ最後的ノモノナリヤト駄目ヲ押シタル處

「ボ」ハ稍々躊躇ノ色ヲ現ハシタル上閣議ハ三億七千五

百萬碼ヲ最高ト定メタリ而シテ印度代表部ニ於テハ協議

ノ結果結果如何ニ依リ數量ニ關シテハ會議決定ト雖モ再

考ヲ促ス考ナリシモ公正ナル數量トシテ代表部ハ本案數

字ニ依ルノ外ナシトノ結論ニ達シタル次第ナリト答ヘタ

リ茲ニ於テ本官ハ

(三)綿布輸入量細目割當問題

前回會合ノ説明ヲ詳述シ斯ル細目割當ハ統制ヲ困難ナラ

ラレタルモノニシテ將來ノ大ナル爲替ノ變動ニ對シ本項ノ規定ヲ是非必要ト認メタルモノニシテ「ルピー」價ノ下落スル場合日本ニ於テモ印度品ノ關稅ヲ引上ケ又印度ハ日本品輸入稅ヲ引下ケル事トスル如キ相互主義ノ下ニ何等力規定シ度ト主張シタリ

依テ本官ハ既ニ前回縷述セル如ク本問題ノ受諾シ難キコトハ我政府ノ確定議ナリトテ重ネテ巨細ニ其ノ難點ヲ舉ケタル上今回ノ協定ハ一ノ試驗的ノモノニシテ其ノ結果ニシテ良好ナレハ將來永ク兩國ノ親善關係ヲ確保シ得ヘシ近々三年間位ノ協定ヲナサントスル此ノ場合印度ニトリ特殊ノ地位ニアル日本ニ對シ斯ノ如キ難件ヲ強ヒントスルハ印度ノ爲ニトラサル處ナリト懇談セル處「ボ」ハ綿布ト棉花ノ關係ニ於テ爲替ハ兩様ニ動ク次第ニ付特ニ是カ爲爲替ニ關スル規定ヲ設クル要ナシトノ御說ハ之ヲ首肯スルモ本問題ハ綿布問題ノミナラス雜貨ニモ重大ナル關係アリ雜貨ハ寧ロ綿布ヨリモ輸入額大ナリ此ノ雜貨ニ對シ爲替ノ變動ヲ看過スルコトハ忍セ難キ處ナリト云ヒ繰リ返シ本項規定ノ必要ヲ主張シ本項削除方ニ關スル當方ノ要求ヲ承諾セス

(八) 從量稅率問題
減方ヲ考慮スヘシト約言シタルモ私見ニ依レハ印度財政ノ現狀ヨリ見テ右ハ近キ將來ニハ到底實現困難ナレハ日印間協定期間中ハ右附加稅ノ除去サルルコトナカルヘシト信シ居リ從テ對日綿布關稅ヲ五割トセハ兩國綿布ノ間ニ二割五分ノ開キ差當リハ維持セラルコトナラント答ヘタリ

(九) 尚雜貨專門委員會ニ關シ「ボ」ハ前述説明ノ通重要事項ニ關スル兩者間ノ協定出來上レハ雜貨ハ全部ニ付差別待遇ヲナスコトヲ差控フルコトセル關係上其ノ開催ノ必要ナカルヘシト述ヘ尚雜貨問題ノ細目ニ關シ質疑アラハ直接係官ノ間ニテ會議ヲ遂ケラレ度シト云ヒ又本會議開催方ニ付「ボ」ヨリ久シク私的會合ノミヲ續ケ來レルモ斯クテハ一般ノ思惑モ懸念セラル節モアリ旁適當ノ時期ニ之ヲ開催シ度シト申出アリタルヲ以テ本官ハ右ハ協

(六) 最後ニ本官ハ印度案ノ全貌ヲ要約シテ印度側ノ互讓的態度ハ之ヲ認メサルニ非サルモ印度對案ト我政府訓令案ニハ尙多大ノ開キアリ昨年度ヲ以テ異例ナリトスル印度側見解ニ付既ニ我政府ニ報告シタルモ我方ノ數字ハ關聯問題受諾以前ノ確定案ニシテ非常ノ困難ヲ排シ同主義ヲ承認シタル上ハ之ヲ固執スルコト又當然ニシテ印度側カ餘リニ自案ヲ株守スレハ我政府ハ關聯主義ノ受諾ヲモ放棄セサルヘカラサル破目ニ至ルヤモ知レス印度側ニ於テハ右數量增加セサルヘキヤト押シタルモ「ボ」承知セス依テ本官ハ印度側數量ニテハ日本ハ之ヲ受諾シ得ス併シ本日印度側提案全体ニ付更ニ同僚トモ篤ト協議シタシト答ヘタリ

(七) 英印特惠問題

本官ハ聞ク處ニ依レハ英國ハ他國綿布關稅ヲ二割ニ引キ下ケ方ノ要求ヲナシ居ル趣ナルモ現行率ハ之ヲ維持セラレシト云ヘルニ對シ「ボ」ハ本來英國綿布ニ對シテハ基本關稅トシテ一割五分ヲ規定セラレ其ノ後稅收ノ目的ニテ二回附加稅ノ增徵アリシタメ現行率トナレルモノニテ財務長官ハ當時議會ニ於テ財政ノ餘裕付キ次第是カ輕

議ノ上決定シ度シト答ヘ置ケリ

(十) 尚貴電（移牒第一一〇號參照）別電（移牒第一一二號參照）記載ノ印棉買付ケノ基準量ヲ增加シテ綿布輸入量ヲ增加セシメムトスルノ案ニ付倉田等ニ於テモ印棉買付ケ數量ノ增加ヲ當方ヨリ「コンミット」スルコトハ將來ノ爲結果面白カラサルヘシトノ懸念ヲ抱キ居リ且先方原案ニ依レハ既二百二十五萬俵ヲ百五十萬俵トルモ綿布輸入量ノ基準ヲ變更セサル建前ニアルヲ以テ之上ヲ持チ出スハ危險ナルヘシト考ヘ本日ハ之ヲ差控ヘ置キタリ且品種別等ノ問題ニ付往電（移牒第一二四號參照）第二項申進ノ次第アリタルモ當方當業者ニテハ其ノ後聯合會ヨリ之ニ反對ノ電報ヲ受ケテ益々躊躇セル様ノ事情モアリタレハ本日ノ印度側申出ニ付全般的ニ御指圖ヲ仰キタル上善處方然ルヘシト存シ上記ノ點モ當方ヨリハ特ニ申出ササリシ次第ナリ

訓令

別電 十月二十七日発広田外務大臣より沢田日印

会商代表宛（移牒第一三四号）

右譲歩案

本省 10月27日発

本省 10月27日発

（別電）

移牒第一三四號

往電（移牒第一三三號）ニ關シ

極秘至急

貴電（移牒第一三一號）冒頭御來示ノ諸點モ考慮ノ上左ノ通リ譲歩案ヲ作成シタルニ付右ニテ本件妥結方折角御配意煩度シ

本件交渉開始以來貴代表初メ代表部各員カ月余連日ノ御奮闘ハ當方ノ頗ル多トル所ニシテ貴代表力會議ノ内外ニ於テ當方ノ主張ヲ遺憾ナク強調セラレ今日迄會商ヲ進メ來ラレタル御努力ハ本大臣ノ極メテ満足トシ居ル處ナリ然ルニ棉花ヲ買付クル當ノ本尊タル當業者ハ關聯案ニ付キ今尙強硬ナル反對ヲ稱ヘ其ノ後右ニ關スル協議ノ爲メ上京ヲ促スモ夫レスラ滙リ居ル形勢ニアリ旁一兩日中ニ通商局長商工次官ト同道大阪へ西下シ別電（移牒第一三四號）ノ案ニテ極力彼等ノ說得ニ努ムルコトニ定メ居ル次第ナルニ付其ノ邊ノ事情充分印度側ニ徹底セシメタル上此ノ上トモ本件妥結ノ爲メ折角御努力煩度シ

(一)綿布數量ニ關シ先方ハ最近五ヶ年ノ平均數ヲ引用シ來ル處昨年度ヲ包含セシメタル場合トセシメサル場合トヨ比較スルニ大體四億碼前後トナル次第ニ付右數字ヲ當方妥協案トシテ提出スルト共ニ右ニ對應スヘキ印棉數量ヲ百萬俵ト申出テラレ度ク右百萬俵申出ニ關シテハ前記往電ノ事情ヲ充分印度側ニ説明方御盡力ノ上若シ先方ニ於テ最初ノ數字タル百二十五萬俵ヲ固執スルニ於テハ當方トシテモ前記事情ニ鑑ミ勢ヒ四億五千萬碼ヲ主張シ出來得ル限り大體右基準ニ依リ妥結セラルル様致^(度々)共シ

(二)最高量ニ付テハ其ノ設定ハ自然當方ノ棉花買付ヲ其限度ニ固定スル次第ニシテ寧ロ先方ニトリ不利ナルコトニモ

アリ當方トシテハ右設定ニ同意シ難キ次第ナルモ先方強テノ希望トアラハ依然トシテ五億七千八百五十二萬九千碼ヲ主張スルノ外ナキノミナラス先方ニ於テ昨年度ヲ以テ異例ナリト云フニ對シテハ一九二九年度ニ於テ右年度ト近似セル輸入量ヲ示シ居ル關係上右先方ノ主張ヲ反駁シ得ル次第ナルカ狀勢ニ依リ此際特ニ五億碼程度ニ譲歩スヘシ

(三)品種別割當ニ付我方當業者各自カ輸出ノ品種ヲ異ニシ居ルト共ニ印棉買付量ニモ多大ノ相違アル關係上其ノ利害一致セス到底右比率ニ付議ヲ纏メ得サル事情モ有之ニ付品種分配案ニハ飽迄反對スルコト致度キモ已ムヲ得スノハ政府トシテハ貴電（移牒第一二四號）在貴地當業者案ヲ採用シ右割當比率ヲ各々五割トシ兩者間ノ「アラウワンス」ヲ一割程度ニナシ右ヲ以テ當業者ヲ說得シ度キ

考ナリ

四四期區分案ニ付テハ右貴電記載貴地當業者案ヲ主張セラレタシ

尙貴電（移牒第一三二號）(三)及四ノ二點ニ付テハ先ツ右各點カ妥結ヲ見タル上ニテ回訓スルコトトスヘキモ四ニ付テ

移牒第一三九號

本省 10月29日発

着

貴電（移牒第一三三號參照）ニ關シ

往電（移牒第一二三號參照）ノ通先方ニテハ本會議開催ノ希望有リタルモ御訓令ノ内容ニ鑑ミ矢張私的會談ヲ開ク方

適當ト認メタルヲ以テ廿八日本官商務長官ヲ往訪シ貴電ニ

基キ我方對案ヲ提出會談ス其ノ要領左ノ如シ

(一)綿布數量問題ニ關スル我方對案

本官ヨリ前回印度側提出ノ數量ハ日本側トシテハ到底應諾シ難キモノナレトモ重要問題故考慮ノ末兎ニ角東京ニ取次ク事トシタル處日本ニ於テハ政府ノ印棉買付ケ關聯主義應諾以來當業者ノ反對顯著トナリタルヲ以テ政府ハ最善ヲ盡シ協定ニ達シ度キ希望ヨリ本官力今ヨリ貴代表ニ示サントスル案ヲ携ヘ從來ノ例ヲ破ツテ當業者說服ノ爲商工次官及通商局長ヲ大阪ニ派遣ノコトニ決定シタル様ニ次第二テ印度政府カ當業者ノ態度ニ付經驗セラルト同様日本政府ニ於テモ種々苦心ヲ經テ右對案ヲ作成シタル次第ナリトテ貴電（移牒第一三四號參照）御訓令ニ基キ棉花買付量ヲ百萬俵トシ之ニ對スル規準綿布輸入量ヲ四億碼ト定メ且從來ノ我方針ヨリ讓歩シテ最高限度ヲ定メ之ヲ五億碼トスルノ案ヲ説明シタル上我政府ハ印度側事情ヲ特ニ考慮シタル結果前回ノ提案ヨリ多大ノ讓歩ヲ爲シ基準量ヲ引下ケタルノミナラス最高限度ノ設定ヲモ承認シタル上當業者ノ反對ヲ押シ切ツテ提案スルモノナレハ印度側ニ於テモ篤ト御再考ヲ

度政府カ當業者ノ態度ニ付經驗セラルト同様日本政府ニ

於テモ種々苦心ヲ經テ右對案ヲ作成シタル次第ナリトテ貴

電（移牒第一三四號參照）御訓令ニ基キ棉花買付量ヲ百萬

俵トシ之ニ對スル規準綿布輸入量ヲ四億碼ト定メ且從來ノ

我方針ヨリ讓歩シテ最高限度ヲ定メ之ヲ五億碼トスルノ案

ヲ説明シタル上我政府ハ印度側事情ヲ特ニ考慮シタル結果

前回ノ提案ヨリ多大ノ讓歩ヲ爲シ基準量ヲ引下ケタルノミ

ナラス最高限度ノ設定ヲモ承認シタル上當業者ノ反對ヲ押

シ切ツテ提案スルモノナレハ印度側ニ於テモ篤ト御再考ヲ

促シ度ト述ヘタリ（上記最高限度ノ數字ニ關シテハ御訓令ニ依レハ先ツ昨年ノ數量ヲ主張シ情勢ニ依リ五億碼迄讓歩スヘシトノコトナレ共續返シ電報ノ通今日迄印度側ハ昨年

五億七千八百萬碼ヲ持出シタリトテ到底先方ノ承諾ヲ得サ

ルコト明カナルヲ以テ初メヨリ五億ヲ持出シタルナリ）

右ニ對シ「ボ」ハ貴案ハ重大ナル提案ニシテ自分一已ニテ

ハ回答シ難キヲ以テ閣議ニ諮ルコト致シ度シ但シ内閣ノ

一員トシテ考フルモ右日本案ニ付到底閣議ノ承認ヲ取付ケ

難シト感シ居レリ

既ニ前回ノ印度案數字ニ對シ商務長官ノ强硬ナル反對アリ

シモノニシテ該數字ヲ日本ニ提出シタル丈ケノ事情ニ付テ

モ當業者其他ハ不滿ニテ彼等ニシテ之ヲ知ランカ强硬ナル

反對ヲ受ケ政府ハ窮地ニ陥ル惧アリ然レ共五ヶ年平均ト云

フ公平妥當ノ基礎ニ依レル數字ナレハ如何（ニ）攻撃アリ

トモ政府ハ押切テ其立場ヲ援護シ能ク日印關係ヲ正常ニ復

シ得ル確信ヲ以テ提案シタルモノナリ然ルニ本日提出ノ日

本側ノ數字ハ根據必ス（シモ）妥當ナラス閣議ニ於テモ考

慮ノ餘地ナカルヘク特ニ印棉買付量ヲ百萬俵ニ引下クル點

難シト感シ居レリ

既ニ前回ノ印度案數字ニ對シ商務長官ノ强硬ナル反對アリ

シモノニシテ該數字ヲ日本ニ提出シタル丈ケノ事情ニ付テ

モ當業者其他ハ不滿ニテ彼等ニシテ之ヲ知ランカ强硬ナル

反對ヲ受ケ政府ハ窮地ニ陥ル惧アリ然レ共五ヶ年平均ト云

フ公平妥當ノ基礎ニ依レル數字ナレハ如何（ニ）攻撃アリ

トモ政府ハ押切テ其立場ヲ援護シ能ク日印關係ヲ正常ニ復

シ得ル確信ヲ以テ提案シタルモノナリ然ルニ本日提出ノ日

本側ノ數字ハ根據必ス（シモ）妥當ナラス閣議ニ於テモ考

慮ノ餘地ナカルヘク特ニ印棉買付量ヲ百萬俵ニ引下クル點

難シト感シ居レリ

既ニ前回ノ印度案數字ニ對シ商務長官ノ强硬ナル反對アリ

シモノニシテ該數字ヲ日本ニ提出シタル丈ケノ事情ニ付テ

モ當業者其他ハ不滿ニテ彼等ニシテ之ヲ知ランカ强硬ナル

反對ヲ受ケ政府ハ窮地ニ陥ル惧アリ然レ共五ヶ年平均ト云

フ公平妥當ノ基礎ニ依レル數字ナレハ如何（ニ）攻撃アリ

トモ政府ハ押切テ其立場ヲ援護シ能ク日印關係ヲ正常ニ復

シ得ル確信ヲ以テ提案シタルモノナリ然ルニ本日提出ノ日

本側ノ數字ハ根據必ス（シモ）妥當ナラス閣議ニ於テモ考

慮ノ餘地ナカルヘク特ニ印棉買付量ヲ百萬俵ニ引下クル點

難シト感シ居レリ

既ニ前回ノ印度案數字ニ對シ商務長官ノ强硬ナル反對アリ

シモノニシテ該數字ヲ日本ニ提出シタル丈ケノ事情ニ付テ

モ當業者其他ハ不滿ニテ彼等ニシテ之ヲ知ランカ强硬ナル

反對ヲ受ケ政府ハ窮地ニ陥ル惧アリ然レ共五ヶ年平均ト云

フ公平妥當ノ基礎ニ依レル數字ナレハ如何（ニ）攻撃アリ

トモ政府ハ押切テ其立場ヲ援護シ能ク日印關係ヲ正常ニ復

シ得ル確信ヲ以テ提案シタルモノナリ然ルニ本日提出ノ日

本側ノ數字ハ根據必ス（シモ）妥當ナラス閣議ニ於テモ考

慮ノ餘地ナカルヘク特ニ印棉買付量ヲ百萬俵ニ引下クル點

貨ニモ關係アリトテ種々述フル所有リタルヲ以テ本官ハ之
カ規定ニ付テハ何等力案有リヤト尋ネタル處「ボ」ハ大體
伊國佛國間條約ノ關係項ニ依ルヲ可トスヘント考ヘ居ル
旨ヲ述ヘ日本側ニ於テ何等カノ案有リヤト問ヘルヲ以テ本
官ハ右ハ政府ノ訓令ヲ待テ更ニ討議スル事トシタク差當リ
貴方ノ草案出來上リ居レハ御参考ノ爲之ヲ示サレ度シト求
メタルニ「ボ」ハ前記諸國ノ採用セル形式ハ可ナルモ稍暖
昧ナル點モアリ今少シク具體的ニ表示スルヲ可トスヘク考
慮ノ上提示スルコトアルヘシト答ヘタリ

(五)本會議開催、最後ニ本官ハ我提案ノ前半ニ付テ日本政府
モ最善ヲ盡クシ協定ヲ遂ケントシ種々努力シ居ル次第ナレ
ハ印度側ニ於テモ種々困難ナル事情アルヘキモ相互ニ難キ
ヲ忍ソテ妥結ニ達シ度我方ノ事情アル所モ良ク諒トセラレ
閣議ニ於テモ慎重ニ再考セラルル様取計ハレタシト述ヘタ
ル處「ボ」ハ今夕ニモ閣議ヲ招集シ審議ノコト致度ト答
ヘ尙本會議ヲ餘リ永ク開カサルトキハ如何ニモ兩代表部力
別レ別ニナリ居ルカ如キ感觸ヲ外部ニ與ヘ面白ガラサル
ニ付來週早々兩代表部ノ本會議ヲ開催シ度シト述ヘタルヲ

(三) 關聯問題承認ノ三條件
ルルモノハ元ヨリ今日私見トシテ御話シタル數量ト雖モ到底民間ノ承認セサルコトハ承知シ居レリ此ノ事情篤ト御諒察ヲ請フト述ヘタリ依テ本官ハ右貴私案ハ四億ヲ最高限度トスル處本來今回ノ輸入制限問題ノ基因ハ多量ノ日本綿布シメ然ルヘシテセラルナラハ四億ナル數量ハ印度産業ヲ脅威セサルモノト認メラレ居ルト解セラレサルニ非ス然ラハ之ヲ基準トシ棉花買付量ニ準シ綿布輸入量増加ヲ認メ輸入量ノ最高限ヲ定メ得ラレサルニ非スマト反問シタルニ「ボ」ハ三億二千五百萬碼ノ基準量算出ノ基礎タル百五十萬俵對三億七千五百萬碼カ五ヶ年間ノ平均ニシテ過去ノ實際數字ニ基礎ヲ置ケルモノナレハ單ニ棉花買付量ノ増加ヲ見タリトテ右制限量ヲ増加シ難シト答ヘタリ仍テ本官ハ貴方ノ事情モ能ク諒解スルモ貴案ハ到底我方ノ満足シ難キ所ナレハ前陳我方事情ヲ篤ト閥議ニ於テ説明セラレ再考ヲ求メラレ度ント述ヘ「ボ」之ヲ諒トス

(移牒第八九號) 記載ノ本件三條件ニ付既ニ累次ノ會商議事中報告ノ通先方ニテ繰返シ容認シ來レル所ナルヲ以テ特ニ此ノ際之ヲ持チ出ス必要無シト考ヘタルモ折角ノ御注意ニモアリ旁前項詰合ノ序ヲ以テ「ボ」ノ再認ヲ促シタル處「ボ」ハ右各條件トモ承認ノ旨ヲ再言シタリ

四種別割當問題其ノ他、次イテ本官ハ種別及四期別割當問題ニ關シテハ我政府ニ於テ其ノ反對ノ態度ヲ堅持シ居ル次第ナルカ如何ニシテモ之力削除出來サルヘキヤト尋不タル處「ボ」ハ印度側トシテモ全然之ヲ削除スルコトハ不可能ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ會議ノ進捗ヲ計リタキ見地ヨリ代表部限リノ意見ヲ以テ作成シタル案アリ但シ右ハ何等政府ノ承認ヲ得タル次第ニアラサルヲ以テ其ノ積リニテ聞キトメラレタント前置シテ貴電(移牒第一三四號參照)(三)及四項ニ依ル我方案ヲ説明シタル處「ボ」ハ本件ハ専門家ノ問題ナレハ自分丈ニテハ回答シ兼ネルニ付協議ノ上確答スヘシト答ヘタリ次テ本官ヨリ緬甸分離後ノ問題及爲替問題ニ付テハ前記ノ問題妥結ニ達シタル上政府ヨリ改メテ訓令スヘシトノ事ニ付テハ此ノ二問題ハ暫ク後廻シトセラレ度シト述ヘタル處「ボ」ハ之ヲ承認シタル上爲替問題ハ雜

シクナリテ場合ニ依リテハ意見ノ衝突ヲ起ス虞無シトセサ
ル處目下相互ノ交渉頗ル機微ノ關係ニ入り居ル次第ニ付會
談ノ圓滑ヲ期スル様兩人ニテ充分善處シ度シト述ヘタルニ
「ボ」モ同感ノ意ヲ表シ來ル三十日午前本會議開催ノコト
ニ決定セリ

昭和8年10月(30)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

オブザーバーとして会商参加中の在本邦英國
大使館サンソム商務官より綿布問題に関する
インド政府閣議の討議状況内報について

556
昭和8年10月30日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)
オブザーバーとして会商参加中の在本邦英國
大使館サンソム商務官より綿布問題に関する
インド政府閣議の討議状況内報について
デリー
本省 10月30日着 発

往電（移牒第一三九號參照）二關シ

二十九日〔サソツム〕本官ヲ來訪昨

府閣議二關シ内報セレ要頼左ノ如シ

今回ノ日印會商ニ關スル印度政府ノ態度ヲ達觀スルニ自分

力來印當時ニ於テハ政府主腦部ノ日本ノ實情ニ關スル認識不充分ニシテ自分トシテモ驚ク程ノ硬論行ハレ其ノ後會商ノ進行ニ從ヒ印度側ノ示シ來レル互讓的態度ノ如キ當初ハ到底思ヒモ及ハサルカ如キ狀勢ニテ綿布輸入量ノ如キモ頗ル少額ヲ豫定シ居リタルカ如シ印度側ノ態度斯ク緩和セラレタル原因ニ付テハ多々アルヘキモ貴代表カ印度側トノ接觸ヲ繁クシ會議ノ内外ニ於テ宜シク日本側ノ態度ヲ説明セラレタルト自分モ及ハス乍ラ總督初メ政府主腦部ニ日本ノ事情ヲ詳細話シ續ケ其ノ結果印度側ニ於テ日本ニ關スル認識ヲ増シ來レルコトハ確ニ右原因ノ一タルヲ失ハスト信シ居レリ

今回會商ニ於ケル代表部ノ努力ハ印度側各方面ノ等シク容認スル處ニシテ自分ノ印象ニテハ印度側ノ對日感情ハ著シク和ケラルニ至リ今ヤ結局數字ノ問題如何ニ依リ會商ノ成否ヲ決定スル處迄漕著ケラタリ而シテ自分ハ數字ノ問題モ此際日印間ノ協定サヘ成立スレハ今後世界的不況恢復ノ際ニハ兩國貿易ノ全般的好轉ニ依リ又何トカ調節ノ機會モアルヘク折角此處迄來レルコトナレハ何トカシテ是非協定ニ到達セラレ度ク右ハ將ニ日英印三國ノ親善關係增進上

昨朝貴代表カ同氏ニ説明セラレタル各般ノ事情ヲ詳述シテ妥協ノ要ヲ反覆力説シ傍聽者タル自分トシテ發言ノ權限アリタリトセハ夫程日本ト妥協セントスル商務長官ハ何故「ランカシャ」ト今少シ歩ミ寄ラサリンシャト論シタカリシ程ナリ兎ニ角種々激論ノ結果閣議ハ大體「ボ」ノ所論ニ傾キ結局之ニ基キ本日印度代表部ニ於テ協議ノ上明三十日ノ本會議ニ日本提案ニ對スル回答提出セラルル事トナルヘキカ自分ノ見ル所ニテハ同回答ハ印度側ノ最後案タルヘク日本側ノ事情モ去ル事乍ラ印度トシテハ最早は以上ノ讓歩ヲ爲スコト絶対之ナカルヘシト信シ居レリ（右印度側回答案ノ内容ニ關シ本官ノ問ニ答ヘ「サンソム」ハ右ハ大體二十日提案ノ「ボ」ノ私案（移牒第一三九號報告）ノ「ライ」ニ依ルモノト考ヘル旨ヲ漏セリ）將又自分ハ總督及商務長官ニ對シ豫テヨリ日印間ノ問題ハ綿布及棉花ノ數量以上ノ重要ナル問題ヲ包含スルモノニシテ數字問題ニテ會議ヲ破裂ニ導クノ絶対不可ナルヲ力説シ置キタルカ總督ハ本閣議中閥員ニ對シ餘り數字ニ拘泥シ大局ヲ誤ルコトナキ様注意スル處アリタリ

頗ル望マシキコトナリト思考シ居タル失先二十五日「ボ」ハ印度側第二回對案（移牒第一三〇號報告）ヲ貴代表ニ提示後自分ヲ來訪同案ヲ説明セル後日本ノ事情ヲモ知リ居ル第三者トシテ同案ニ對スル意見ヲ求メラレタルヲ以テ數字ノ點ニ付確的ノコトハ申兼ヌルモ結局同案ノ見當ニテ多少歩寄リスルコトトセハ大體適當ナラスヤ少クトモ同案ノ基礎タル主義主張ハ正ニ公正妥當ト信スル旨ヲ答ヘ其ノ趣東京及倫敦ニ電報シ置ケル次第ナリ

然ルニ昨二十八日貴官カ日本案ヲ「ボア」ニ提議セラレタル後閣議開催セラルルコトナリタル趣ニテ印度側ヨリ自分ニモ同閣議ニ列席方求メ來レルカ自分ノ如キ門外漢カ當國ノ閣議ニ列スルコトハ全然先例ノナキコトナル由ナルモ兎ニ角求メニ應シ參席シタルニ閣議ハ三時間餘ニ亘リ貴代表ノ昨二十八日提案ノミヲ審議シ論議行ハレタリ席上財務及農務長官初メ閣員ノ多數ハ印度側第二回提案ニ於テ既ニ印度トシテ行キ得ル極限ニ對シ居ル次第ニ付最早此ノ上讓歩ノ餘地無シトテ種々強硬ナル議論ヲ爲シ居リタルカ「ボア」及「ノイス」ハ協定達成ノ大局ヨリ立論シ互讓ノ精神ヲ以テ今少シ日本ト歩ミ寄ルヘキ必要ヲ説キ殊ニ「ボ」ハ

往電（移牒第一四〇號參照）ニ對スル御審議ニ當リテハ絞上ノ情勢篤ト御考慮ニ加ヘラレンコトヲ切望ス

557 昭和8年10月(31)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛電報

綿布問題に關する我が方讓歩案へのインド側
対案提議について

デリー

本省 10月31日着 発

移牒第一四八號

（至急）

三十日第十回本會議開催

先ツ「ボア」ヨリ先日貴代表ハ印度側最終提案ニ對シ日本政府ニ於テ考慮ノ結果從來日本側主張ノ數字ヲ減額シタル對案ヲ提示セラレ自分ハ該案ニ對シ閣議ニ附議シタル上回答ス可キ旨ヲ約シタル次第ナルカ本日ハ閣議ニ於テ審議決定ノ次第ヲ披露シ度シ即チ前回ノ印度案ハ印度側讓歩ノ最大限度ヲ示セルモノナレトモ會商妥結ノ爲最善ヲ盡シ度キ精神ヨリ更ニ考量ヲ加ヘタル結果原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ云々

茲ニ對案ヲ提示シ度シト存スル處特ニ日本側ノ考慮ヲ促シ
度キハ印度政府ハ綿花業者ト綿布業者ヨリ兩面ノ强硬ナル
反對ニ直面スル苦境ニ立チ居ルモノニテ本案提示ノ數字ハ
是等ノ反對論ヲ押切ル覺悟ニシテ最大ノ犠牲ヲ拂ヒ作成セ
ラレタル事情ナリト前置シタル上棉花買付量ヲ百二十五萬
俵ヨリ百萬俵ニ引下ケ之ヲ綿布輸入量三億二千五百萬碼ニ
結着ケ量力百二十五萬俵以上ニ増加スルトキハ一萬俵ニ付
テハ二百萬碼ノ割合ヲ以テ綿布輸入量ヲ遞増シ四億碼ヲ其
ノ最大限ト定ム尙棉花買付量カ百萬俵以下ニ遞
同様ノ比率ヲ以テ綿布輸入量ヲ三億二千五百萬碼以下ニ遞
減セシムルモノトス

而シテ右數量ハ印度側ニ於テ讓歩シ得ル最大限度ノモノニ
付日本側ニ於テモ如上ノ事情御考慮ノ上同案ニ同意願度シ
次ニ右數量問題以外最モ重要ナル問題タル綿布ノ種別割當
量ニ關シ貴代表ヨリ提示ノ「グレイ」及其他ニ二大別シ
テ兩種別間一割ノ移讓ヲ許スノ案ニ付テモ充分ナル攻究ヲ
加ヘタルカ二大種別ノ設定ニハ根本ニ難點アリ依テ印度側
案ノ六種別ヲ特ニ四種別ニ修正シ左ノ百分比ニ依ル割當量
ヲ決定セントス

Plain greys	45%
Bordered greys	13%
Bleached	8%
Colored	34%

右ハ最モ自然的區分ニシテ最近三箇年間ノ實數ヲ平均シ之

ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノニテ日本案ノ如キ簡單ナル區
分ニハ同意シ難シ最モ右ノ百分比ニ付理由アル修正ニ對シ
テハ之ヲ考慮スル用意アリ

尙期別割當ニ關シ日本側ノ提案セル二期ヲ分チ兩期間三割
ノ移讓ヲ許スノ案ニ付テハ此ノ上 course of shipment ^(shipment) ハ
實情ヲ精査シタル上確答スルコトトシ度シト存シ居レルカ
之ニ付出來得ル限り日本案ニ近似セル案ヲ作成御希望ニ副
フ様努力シ度シト思料シ居ル旨ヲ述ヘタリ然ル處右數量ニ
對シ印度提案ハ過日電報ノ「ボア」私案ニ多少ノ變更ヲ加
ヘタルモノニシテ同案ニ對シ當方ノ採ルヘキ態度ニ付テハ
未タ御回訓ニ接セス且ツ目下ノ時期ニ於テ本會議ニ於テ議
論ヲ戰ハスモ徒ニ事態ヲ紛糾スル懸念無キニ非サルヲ以テ
本官ハ印度側カ我方案ニ付能ク考慮ヲ加ヘラレタル點ハ之
ヲ多トスルモ印度政府カ我提案ノ數字ヲ受諾シ得サリシハ

自分ノ甚タ遺憾トスル所ニシテ貴案ニ對シテハ尙議論ヲ爲
スノ餘地有リト雖最早會議カ慎重ナル考察ヲ必要トスル機
微ナル時期ニ達セルコトハ貴代表モ充分了知セラル通ナ
ルニ付今日ハ別ニ議論ヲ述フルコト無ク印度案ニ對シ同
(僚)トモ能ク協議スルコトシ度シト答へ置キタリ

尙「ボ」ハ今後ノ本會議開催方ニ關シ成ル可ク隔日會合ノ
コトニ定メ度キ希望ヲ開陳シタルカ今日ト成リテハ當方ト
シテハ各案件ニ對スル回訓ヲ待タスシテ徒ニ會合スルモ却
テ有害無益ノコトト存シタルヲ以テ本代表ヨリ右ハ當方ニ
於テ篤ト考慮ノ上双方打合セ決定シ度シト述ヘ差當リ右様
取計フコトニ決定セリ

(一)三十、三十一ノ兩日大阪ニ於ケル當業者トノ協議會ニ於

テ政府側ハ綿布、棉花問題ニ關スル貴電（移牒第一五一
號參照）印度側最後案ニ付極力當業者側ノ說得ニ努メ關
聯案ハ認メシメタルモ數量ノ點ニテ依然强硬ナル反對論
アルニシキ近日中ニ當業者代表ノ上京ヲ命シ最後ノ說得
ヲ試ムル心組ナル處前記協議會ニ於ケル比較的穩和分子
ノ反對意見ハ綿布輸入最高限度ヲ四億碼ニ止ムト云フモ
品種別及割當率ノ制限ヲ設ケ更ニ輸入時期ノ區分ヲ設ク
ルノ結果ハ綿布從量稅五安 $1\frac{1}{4}$ ノ賦課ト相俟チ輸入ノ
減少ヲ招來シ爲ニ四億ニ達スルコトハ技術的ニ到底不可
能ナリ從テ先方ニ於テハ最高四億ト云フモ現實ハ三億内
外ニ制限スル底意ナルヘシト云フニ存シ且又印度側ニ於
テ通過貿易ノ分ヲモ右制限數量内ニ含マシムルコトナキ
ヤニ付テモ懸念シ居ル次第ナリ將又三億二千五百萬碼ノ
基準量ニ付及棉花買付量ニ關スル百萬ヨリ百二十五萬俵
迄ノ据置方等ニ付テモ同様强硬ナル反對意見アリ右等ノ
點ニ付テハ追テ回訓ニ及フヘキモ此際所謂最高四億ナル
數字ハ現實ニ印度自体ニ輸入ヲ制限スルカ如キ諸種ノ條

558 昭和8年11月1日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

我が方綿業當業者説得のため我が方対イン

綿布輸出量実質四億ヤード確保方訓令

本省 11月1日発

移牒第一五七號
往電(移牒第一四六號參照)ニ關シ

件ヲ撤去スルコトヲ確保シ得ル見込付カハ當業者ヲ抑へ

大体印度案程度ノ數量ヲ認ムルコトヲ敢行シ得ヘシ

(二)就テハ貴代表ハ右事情御含ノ上至急「ボア」ニ會見政府

トシテハ若シ先方ニ於テ前記品種別、割當率、四期區分

案及綿布從量稅ヲ撤回スルカ又ハ前記現實四億碼ノ輸入

ヲ確保シ得ル何等カノ措置ヲ講シ前顯本邦當業者ノ危惧

ヲ除去スルニ於テハ當業者ノ强硬論ヲ抑ヘ必ス彼等ヲシ

テ可成先方希望ニ近キ讓歩ヲナサシメ以テ本件妥結ニ導

クヘキ意向ナル旨内話セラレ先方ノ意図御確メ相成度シ

(三)尙御承知ノ通り最近各國ニ於ケル貿易均衡主義ニ對處ス

ル爲本邦輸入ノ棉花ヲ印度以外ニ求ムル必要ニ逼ラル

場合ナキヲ保セス旁々先方ニ於テ綿布輸入量ニ最高限ヲ

置ク以上自然當方ニ於テモ綿布最高限度ニ相當スル印棉

買付量以上ノ買付ニ關シ適當ナル阻止手段ヲトリ得ルコ

トトナシ置キ度ニ付此ノ點ニ付テモ此ノ際先方ノ諒解ヲ

取付ケ置カルル様致度シ

559 昭和8年11月3日 広田外務大臣より

沢田日印会商代表宛(電報)

我が方対インド綿布輸出量實質四億ヤード確
保のための具体的措置につき訓令

本省 11月3日発

△ 移牒第一六五號

極秘(至急)

貴電(移牒第一五八號)ニ關シ

(一)往電(移牒第一五七號)申進ノ次第ハ要スルニ此際先ツ
右關聯問題ヲ纏メ得レハ自然双方ノ空氣モ緩和スルト共
ニ貴電(移牒第一二〇號)取極延長問題モ好都合ニ取連

ヒ其間ニ餘裕ヲ生スヘク旁々先方力誠意ヲ以テ最高限四
億碼ヲ現實ニ輸入スル腹ナルニ於テハ當方トシテモ當業
者ヲ説服シ得ル大體ノ見据付キタルト共ニ若シ先方ニ於

テ種々ノ附帶條件ヲ以テ右四億ノ現實輸入ヲモ妨ケント
スルニ於テハ我當業者ヲ到底納得セシメ難キ次第鑑ミ、
右現實四億碼確保ノ爲ノ措置ニ付極力交渉セントスル趣

旨外ナラス而シテ右確保ノ爲ニハ前記往電ノ通り品種
別四期別及從量稅等ノ撤廢ヲ必要ト認メタル次第ナリ
(此ノ以外ニ於テモ或ハ(A)四億碼ヲ今少シク高クシテ現
實四億ヲ輸入スル爲ノ裕取ヲ設クルナリ(B)前年度ニ於テ

存シタル餘剩ヲ次年度ニ繰越ス等ノ措置モ考へ得ヘク將
又先方ニ於テ現實四億ヲ許スノ原則ヲ認ムルニ於テハ右
品種別等ノ細目ニ付或ハ専門家ノ研究ニ委シ以テ双方ノ
満足スヘキ妥協點ニ達スルコト必シシモ困難ニハ非サル
ヘシト存セラル

(二)右(一)ノ點ニ付テ満足ヲ得ラルニ於テハ當方トシテハ貴
電(移牒第一五八號)ノ(一)(ノイ)基準量及最高限ニ付大體
之ヲ認メ得ヘキモ棉花買付基準量百萬俵ヨリ百二十五萬
俵迄ノ据置ハ撤回方主張セラレ度シ(其ノ結果四億ニ對
スル棉花量ハ貴電(移牒第一三九號)「ボア」私案ヨリ
モ十二萬五千俵少キ譯ナリ)又同電(印棉買付最高量ニ
付申入方ノ點ハ本電(一)ノ問題ノ解決模様ヲ見ルコト致
スヘシ

(三)(イ)爲替問題ニ付テハ先方モ述ヘ居ル通り綿布問題ノミナ

ラス雜貨トモ重大ナル關係アリ旁、引續キ關係省トノ間

ニ慎重商議中ニテ近日中決定的ノ回訓ニ及フヘキニ付此

ノ點ハ今暫ク後廻ハシト致度ク又(ロ)「ビルマ」問題ニ付

テハ貴電(移牒第一二三號)ノ二ノ趣旨ニテ措置セラレ

差支ナシ

560 昭和8年11月(5)日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

対インド綿布輸出量實質四億ヤード確保のた
め綿布の品種別輸入割当等インド側付帯要求
撤回方申入れについて

デリー

發

本省 11月5日着

△ 移牒第一六九號

貴電(移牒第一六五號參照)ニ關シ

本官引籠中ノ爲四日午後商務長官ノ來訪ヲ求メ會談ス其ノ

要領左ノ如シ

先ツ本官ヨリ印（度）側提案ニ對シ我方回答ノ遲延シタルハ我當業者中同案ニ對シ特ニ强硬ナル反對論者有リタルニ拘ラス政府ハ會商妥結ノ精神ヨリ日本側ノ議ヲ纏メントシテ多大ノ努力ヲ盡シ居タル爲ナリトテ其ノ事情ヲ詳細説明シタル上政府ハ遂ニ印度側ノ事情ヲ諒トシ種々ノ反對ヲ押切リ難キヲ忍ヒ四億碼ノ輸入量ヲ以テ當業者ヲ納得セムトノ決意ヲ爲セルカ之カ爲ニハ事實上輸入數量ヲシテ現實四億碼ニ達シ得ラル確實性ヲ有スル仕組ヲ爲スコトヲ條件トス此ノ見地ヨリシテ當業者中比較的穩健ナル分子スラ現在ノ印度側提案ノ仕組ニテハ如何ニスルモ現實四億ノ輸入ヲ確保シ得ス勢ヒ三億碼程度ノ輸入ヲ爲シ得ルニ過キストノ見解ヲ有スルモノ多ク即チ印度案ニテハ四億碼ノ輸入ヲ許スト爲シ乍ラ他方ニハ

(一)品種別割當

(二)輸入量ノ四期別

(三)更ニ關稅ニハ從量稅ノ併用

等諸條件ヲ附セラレ事實右四億碼ノ輸入ヲ不自由ナラシムルカ如キ仕組ト爲サレ居ルモノト考ヘ居レリ抑々第一ハ品

控除ノ點ハ未タ同僚トモ話合ヒタルコトナキモ自分モ其ノ意味ニ解釋シ居タル次第ナリト述ヘ簡單ニ當方ノ主張ヲ認メタルモ品種別割當ノ問題ニ付テハ前回縷述ノ理由ヲ繰返シ其ノ削除ハ到底不可能ナリトシ特ニ無差別トシテ輸入サル時ハ產業保護ノ目的ヲ達セス且ツ右種別率ハ過去ノ實績ヲ其ノ儘移シタルモノナルコトヲ強調シタルヲ以テ本官ハ貴案カ過去ノ實績ニ基キ立案セラレタリト云フ以上斯ノ如キ種別率ヲ設ケストモ特定ノ日本品カ或年度ニ急ニ輸入ヲ激増スルカ如キコトヲ懸念スルノ要ナカルヘク從テ斯ル仕組ヲ設クルコトナク放任シ置キ然ルヘシト述ヘタルカ「ボ」ハ事實或ハ然ラント考フルモ當業者ハ此ノ點ヲ最モ重視シ居リ印度側トシテハ數字同様之ヲ以テ基本的問題ト考ヘ居ル次第ナリト考ヘタリ依テ本官ハ日本當業者ハ品種別ノ存スル限り實際輸入ハ豫定量ニ達セシムルコトヲ得ス本來商品ノ需要ハ年ニ依リ變遷アリ之ニ對應シテ商人ハ其ノ輸入ヲ律セントスルモノナレハ豫メ品種別輸入量ヲ限定スレハ實際取引ハ多大ノ制限ヲ受クヘシト説明シタル
「ボ」ハ其ノ點ハ尤モナリ故ニ前回會合ニテ割當率修正ニ應スヘシト提案セル次第ニシテ若シ提案アラハ欣然考慮ス

種別割當ヲ設クルコトハ實際四億碼ノ輸入ニ鮮カラサル制限ヲ置カントスルモノニシテ又四期別ニ付テモ同様ノ結果ヲ生ス更ニ棉花ト綿布ノ關聯主義ヲ提案シ而モ輸入量ヲ四億碼ノ如キ少量ニ減額セラレ我第一次案當時ノ事態ト著シク趣ヲ異ニセル今日ニ於テハ關稅率ヲ從價五割ニ止メントスルコトニモ多大ノ反對アリ況ヤ右從價稅ヲ配セントスルコトニハ眞向ヨリ反對非難シ居レリ蓋シ現實ノ從量稅率ハ從價稅率ヨリモ割高ニシテ我輸入ハ又夫レ丈ケ前記二條件同様現實四億碼ノ輸入ニ障碍ヲ與フルコトトナル
次ニ四本來茲ニ指摘スル迄モ無ク恐ラク貴代表モ同様ノ意見ト考ヘ居リタル點ナルカ右輸入量ハ現實印度内ノ消費ヲ意味シ再輸出ノ數量ハ當然之ニ含マレ居ラサルコト了解シ來レルカ政府ヨリノ注意モアリ此ノ際之ヲ明瞭ニシ置キ度シ而シテ印度側ニ於テ(一)、(二)、(三)ノ各條件ヲ削除シ且四ニ對スル當方ノ了解ヲ確認セラルニ於テハ我政府ハ國內ノ反對ヲ押切リ最高量ヲ四億碼トスルコトニ付當業者說得ヲ約シ得ヘシ就テハ印度側ニ於テ我政府力各般ノ困難ヲ排シ遂ニ右ノ數字迄ニ譲り來レル事情ヲ諒トシ本日提出ノ我對案ヲ受諾セラレタシト述ヘタル處「ボ」ハ先ツ再輸出量

ヘク若シナケレハ各品種割當量ノ間ニ一定ノ割合迄移讓ヲ許ス案ヲ作成スルコトシタシト答ヘタリ
之ニ對シ本官ハ我政府ニ於テハスル小細工釜敷キコトヲ求ムルモノニ非ス全然本項ノ削除ヲ主張シ居ルモノナリト繰返シ人爲的割當設定力年當「クオーラ」決定ノ趣旨ニ重複シニ重ノ制限ヲ加ヘントスルモノナル點ヲ強調シタルモ「ボ」ハ前言ヲ繰返シテ讓歩セス從テ本官ヨリ然ラハ數字ニ付假リニ兩政府間意見ノ一致ヲ見タル場合ト雖決裂ヲ賭シテモ貴案品種別ヲ固執スルノ意ナリヤト詰レルニ「ボ」ハ印度側ニ於テハ品種別ニ「クオーラ」ノ數字ト同程度ノ重要サヲ置キ居ルモノナリトテ其ノ主張ヲ翻サス
次ニ「ボ」ハ期別割當ニ付裏ニ我方ヨリ代表部限リノ私案トシテ示シタル二期別トスル案ヲ目下考慮中ナルカ大體兩期ノ數量ヲ均分シ之ニ各期一割ノ「アラウワーンズ」ヲ認ムルコトシ尙次年度ヘモ年割當量ノ五分ノ「アラウワーンズ」ヲ置クコトヲ適當ナラスヤト考ヘ居レリ尙右季節別數量ノ算定ハ印度ニ輸入セラレタル數量ニ依ラス其ノ期間實際邦ヨリ輸出セラレタル數量ニ依リ計算スルコトスルコト便宜ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本官ハ日本政府ノ意囑ハ此

ノ季節別割當ノ條項ヲモ削除スルニアル旨説明シタルモノ「ボ」ハ前言ヲ繰返シ其ノ程度ニテ日本側ノ承諾ヲ得タシトテ之モ讓ラス從量稅ニ關シテハ本官ハ我方原案ニ於テハ關稅ハ五割以下ヲ主張シ居リ且印度側第一回ノ提案アリシ際關聯主義ヲ容認スルコトトナレハ關稅問題ニ付テモ我方ヨリ更ニ何等カノ提案アルヘシト語リタルコトアリタルカ今回政府ヨリ四億ノ數字ニ讓ラントスル以上從量稅ハ一切之力撤廢ヲ求メサルヘカラスト提言シ來レルモノナリト說明シタルニ「ボ」ハ現在適用ノ從量稅ニ付「コンフィデンシャル」ノコトナルカ實ハ英國ヨリ之カ撤廢ヲ求メ來レルモ之ヲ拒絕セル經緯モアリ現行ノモノヲ撤廢スルコトハ絶對ニ不可能ナリ而シテ將來「グレイ」以外ノ綿布ニ對シテ課セントスル從量稅モ目下ノ所別段之ヲ課セントスル意嚮ナシ唯日本側ニ於テ價格ノ統制ヲ爲シ得スト言ハレタルニ付將來價格カ著シク下リタル時ニ備フル爲此ノ方法ヲ考ヘタルモノナルニ付將來若シ是等綿布ニ從量稅ヲ課スルコトアリタルモ其ノ程度ハ從價五割ニ相當スル稅率以上ヲ課スルコトナカルヘキニ付此ノ程度ヲ以テ滿足サレタシトテ同意ヲ求メタリ依テ本官ハ貴代表ノ言ノ如ク現ニ從量稅ヲセサルコトトナリ居レルモ過去ノ實蹟^(脚注)ニ於テモ昨年ヲ除キタル五ヶ年平均スラ百四十四萬俵ニ過キサルヲ以テ印度案ノ如ク百五十萬俵ニテモ尙四億ニ達シ得サル如キ仕組ニテハ前述各種條件同様事實四億碼輸入ヲ阻止スルモノトナリ得ヘシトテ右我案ニ同意方ヲ主張セリ

右ニ對シ「ボ」ハ右計算ニテハ綿布四億碼ニ對スル棉花買付量ハ百三十七萬五千俵ニ過キス夫レニハ閣員中非常ニ强硬ナル反對論アリト言ヘルヲ以テ本官ハ年ニ依リテハ凶作ノ爲日本側力買付度キ意思アリテモ供給無ク從テ又綿布輸入ヲ爲シ得サル場合ヲモ豫想セラルルヲ以テ百三十七萬五千俵ノ數字ハ決シテ少額ナリト言フヘキニ非スト述ヘタル處「ボ」ハ印度ノ農村問題ハ政府ノ立場ニ關スル重要問題ナレハ貴案ノ如キ棉花買付量ヲ以テシテハ强硬ナル國論ノ反対ニ遭遇スヘシト答ヘ直ニ當方ノ主張ヲ承諾セス依テ本官ハ本件交渉此處迄進行シ來レル以上何トカシテ之ヲ取

課スル意思ナキモノナレハ全然之ヲ撤廢スルモ可ナラスマ協定期間モ短期ナル上分量ノ制限ハ價格統制ノ實ヲ舉ケルモノナリト說キタルニ「ボ」ハ此ノ點ニ付財務長官ニ於テモ相當強硬ナル意見アリ自分一存ニテハ確言シ難キモ大體適用スルノ意ナカルヘシト述ヘタルニ付本官ハ前述ノ如ク我方ノ數量統制ニ依リテ價格統制ノ目的ハ自然ニ達セラルヘク特ニ綿布數量カ棉花買付量ト關聯セシメラレ且其ノ額著シク低下セラレタル上ハ價格ハ一層自然ニ調節セラルヘクシ現行從量稅ノ撤廢絕對不可能ナリトスルモ今後實行ノ意思無ク且我方ニ強硬ナル反對論アル以上粗布以外ノ品種ニハ將來從量稅ハ之ヲ適用セサルコトセラレタシト强硬ニ主張シタルニ「ボ」ハ他ノ諸點ニ付協定成立ヲ見ルコトトナレハ此ノ點ニ付テハ貴意ニ副フ様努力シ度シト答ヘタリ

以上諸點ヲ要約シテ本官ハ我方カ四億ノ最高量ヲ受諾セントスルハ上述ノ諸條項カ撤廢セラレタル上ノ事ナル點ヲ重ねテ説明シタルニ次テ本官ハ綿布ノ數字ニ關シ綿布三億二千五百萬碼ヲ基準トシ四億ヲ最高制限量ト定メ棉花買付量一萬俵ニ對シ綿布セシムトナリ

纏ムルコトハ日印兩國ノ爲最モ望マシキ次第ナル旨ヲ高唱シ情ヲ盡シテ我方提案ノ慎重ナル考慮ヲ求メタル處「ボ」ハ明五日ノ閣議ニ於テ充分日本側提案ヲ審議シ六日中ニ何分ノ回答ニ及フヘキ旨答ヘタリ

~~~~~

561 昭和8年11月6日 広田外務大臣より  
沢田日印会商代表宛(電報)

為替問題に關する我が方交渉方針につき訓令

別電 一一月六日発広田外務大臣より沢田日印会商  
代表宛(移牒第一七四号)

為替問題に對する我が方基本方針

代表宛(移牒第一七三号)  
為替問題に對する我が方交渉具体案

本省 11月6日發

移牒第一七二號

往電(移牒第一六五號)ニ關シ  
同電(イ)ニ關シ大體別電(移牒第一七三號及第一七四號)  
ノ趣旨ニテ可然本件交渉ヲ進メラルル様致度シ

(別電一)

本省 11月6日発

移牒第一七三號

先方ニ於テハ飽迄爲替問題ヲ重要視シ居ルモ本件交渉開始以來當方ハ(1)最モ重大視セル綿布印棉關聯主義ノ容認ヲ始メ其ノ數量等ニ付テモ難ヲ忍ソデ讓歩シ其最高量ヲ認メタル以上爲替ノ動搖ハ全然度外視シ得ヘキ筋合ナルノミナラス(2)雜貨ニ付テモ大體從量稅主義ヲ採用スルコトナルニ於テハ本邦ニ於ケル爲替安定策ト相俟チ貴電(移牒第一二三號參照)ノ三及(移牒第一三〇號參照)(5)先方ヘノ御説明通り爲替ニ關スル條項設定ノ要ナキ次第ニ鑑ミ當方トシテハ先方ノ主張ヲ應諾スルコト困難ナル旨ヲ再應主張シ極力本項削除方ニ努メラレタシ

(別電二)

本省 11月6日発

移牒第一七四號

極秘

若シ先方カ如何ニスルモ別電(移牒第一七三號)我方主張

ニ同意セス其ノ結果今次交渉ヲ決裂セシムルカ如キ事態ニ立至リタル場合ハ已ムヲ得ス綿布人絹及從量稅ニ依ル雜貨ノ三者ヲ除ケル「從價稅ニ依ルモノ」ノミニ關シ本項規定ノ通リ「留比價ノ上下ニ應シ日本ニ於テ印度品ニ對スル關稅ノ引上又ハ引下ヲ約ス」トモ我方トシテハ事實上一々右引上特ニ引下ヲ實行スルコト困難ナル關係モ有之ニ付圓對「ルピー」比率カ協定成立當日ノ率ヲ基礎トシ二割以上ノ變動ヲ見且相當間繼續シタル場合ハ「右二割ヲ超エタル部分ノミニ對シ印度側ニ於テ稅率ノ引上又ハ引下ヲナスコトニ付兩國間ニ商議スルコト」ト致度シ(尤モ當方最後ノ腹ハ右括弧内ニ代フルニ右ノ場合「印度側カ一方的ニ其ノ關稅率ノ引上又ハ引下ヲ爲スコトヲ認ムルコト」トナルモ不得已ルヘシト考ヘ居レリ此ノ點貴官限リノ御含迄)

~~~~~

562 昭和8年11月(7)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

インド側の綿花・綿布関連比率に関する讓歩
と綿布の品種別輸入割当案等付帶要求撤回拒

否について

デリ一 発

本省 11月7日着

移牒第一七五號

六日第十一回本會議開催
往電(移牒第一六九號參照)ニ關シ

九 英連邦諸国との通商問題

「ボア」ヨリ日本代表側提案(貴電(移牒第一六五號)(一)ノ案)ハ直ニ印度政府ノ議ニ附シタル處本來前回ノ印度案ハ公正安當ノ見地ニ立脚セル最終案ナレハ日本ノ對案ニ依リ變更ハ到底困難ナリトスル所ナレトモ種々審議ヲ重ねタル結果在ケテ尙一段ノ讓歩ヲ爲スコトニ決定セルカラ右決定ハ印度側ノ最後ノ提案ナリト御承知アリタント前置シタル上先ツ數字ノ點ニ付日本政府ハ綿布輸入量基準三億二千五百萬碼ニ最高ノ制限量四億碼ヲ受諾セラレタルモ棉花買付量ニ付百萬俵乃至百二十五萬俵ノ間ノ据置ヲ撤廢シ且増減比率一萬俵對二百萬碼ヲ百萬俵ヨリ上下ニ適用シ結局綿布最高輸入量四億ニ對シ棉花百六十二萬五千俵ニ達セシメントスルモノナル處今回ノ印度案ニ於テハ前回提案セル綿

百五十萬俵ノ標準ニ引下ケ且前述ノ据置ヲ撤廢シ百萬俵以上ノ增加比率ヲ一萬俵ニ對シ百五十萬碼ト定メ百五十萬俵ニテ四億碼ニ達セシメントスルモノナリ、右ハ印度側トシテハ極度ノ讓歩ニシテ棉花買付量百萬俵以下トナレル場合ノ減少比率ハ一萬俵ニ對シ二百萬碼ト定メントス次ニ主要條件タル品種別割當ニ付慎重審議シタルカ本來此ノ點ハ印度側力主義上基本的條件トスル所ナルニ不拘特ニ六品種ヲ四種別ニ變更シ百分比ハ日本側提案アラハ考慮スヘキモ本項削除ニ關スル日本側ノ提案ハ絕對ニ受諾出來斯然シテ期別割當ハ二期別トシ前期ヨリ後期ヘノ移讓率ヲ一割ヲ許容シ一年末ニハ其ノ期ノ五分丈ヲ後年期ニ移讓ヲ認ムヘキモ之ヲ削除スル能ハス唯右綿布期別割當量ノ計算ニ當リ日本側ノ希望トアラハ日本ヨリ輸出ノ時ニ依ツテ期間ノ區別ヲ定ムルコトトシ然ルヘシ將又綿布再輸出量ハ其ノ輸入ノ「クオータ」ヨリ控除スヘキカ棉花ノ場合モ同様日本ヨリノ再輸出ハ之ヲ買付量ヨリ差引クモノトス又「グレイ」以外ノ綿布ニ從量稅ヲ賦課スル權限ヲ保留スヘシト云フ條件ハ今日本稅ヲ設定セント云フニ非サレトモ政府トシテ將來ニ對シ行動ノ自由ヲ留保シタシ其ノ際從量稅ハ五安三

「パイ」以上ヲ賦課セサルコトセリ即チ其ノ最高ヲ「グレイ」ニ對シ現行從量稅率ト同率ニ定ムヘシト云フニアリト說明シタリ依テ本官ハ過日貴代表ニ縷說セル通リ日本側力印度案四億ノ數字ヲ受諾セントスルハ印度政府力他ノ諸條件ヲ容認スルコトヲ前提トスルモノナリ然ルニ唯今ノ御提案ハ原案ニ些少ノ變更ヲ加ヘタルコトハ之ヲ認ムルモ品種別期別及從量稅ニ付テ我方對案ヲ拒否セルモノニシテ右ハ我政府ニ於テ不満ノ感ヲ禁シ得サル處ナルヘン日本政府力當業者ノ强硬ナル反對ヲ抑ヘテ關聯主義ヲ認メ致セルコトハ繰返シ説明ノ通ニシテ印度政府ノ諒トセラル處勿論印度政府同様種々困難アルコトハ之ヲ認ム我政府ニ於テ右印度側ノ困難ヲ諒シタレハコソ讓歩ニ讓歩ヲ重ネ

今日ニ至レル次第ニ付印度政府ニ於テモ我方ノ困難ナル立場ヲモ考慮セラレ我對案ニ付再考セラルコトト致度ト述ヘタル處「ボ」ハ印度政府ニ於テモ日本側カ幾多ノ困難ヲ冒シ多大ノ努力ヲ拂ヘル事情ハ萬々諒察シ居ル所ナルモ印度側ニモ數々ノ反對論アリ印度側今日ノ提案ハ日本對案ヲ審議シ日本側ノ困難ナル點ヲ考慮シタル結果印度政府力合

理的トシテ説明シ得ル限度ヲ超エ印度側最終案ヲ更ニ讓リテ此處迄來リタルモノニシテ遺憾乍ラ主要條件ニ付テハ再考ノ餘地ナシ但シ品種別等ノ細目ノ點ニ付テハ尙之ヲ考究スルノ用意アリヤト答ヘタリ茲ニ於テ本官ハ印度側ニ於テハ品種別問題ニ關シ比率ノ修正ノミナラス種別區分ノ數ヲ減少スル準備アリヤト質シタルニ「ボ」ハ自分ノ考ハ印度案ニ依ル品種ハ現ニ認メラレタル種別ニシテ且自然的ノ區分ナリト信スルモ尙技術家ノ意見モ微シ度シト思フカ日本側ハ如何ナル提案ヲ爲サントスルモノナリヤト言ヘルヲ以テ本官ハ今日茲ニ具體案ヲ有スルモノニ非サルカ印度側ハ此ノ點ヨリ修正ヲ許スノ意アリヤト念ヲ押シタルニ「ボ」ハ非常ニ困難ナリト思フカ兎ニ角日本側提案アラハ之ヲ考究スヘシト答ヘタリ

次二期別割當ニ付二三應酬ヲ重ネタル後本官ハ他ノ主要條件ニ付合意ヲ見タル際ニハ從量稅ヲ撤回シ得サルヤト質問セル處「ボ」ハ印度側カ之ヲ主張スル理由ニアリ其ノハ日本品價格ノ低落ニシテ現在ニ於テハ圓爲替相場ノ下落ハ停止シ居ルモ將來現在以上ニ圓爲替低落シ從テ日本品相場下落スル場合ニハ從量稅ヲ適用スルノ要アリ殊ニ日本側ニスヘシト答ヘタリ

テ價格調節ニ同意セサル以上必要ノ措置ナリ第二ノ理由ハ政府トシテ財政ノ均衡ヲ計ル爲稅收ヲ確保シ度キ故ナリト

答ヘタルヲ以テ本官ハ爲替ノ問題ハ何レ他日ノ討議ニ讓ル可キ力四億ノ最高制限量ヲ受諾セントスルハ此等各種條件ヲ削除スルコトカ容認セラレタル上ノコトニシテ此等ノ條件依然存續スルトセハ我當業者ハ協定量ノ棉花ヲ買付ケ乍ラモ現實ニハ綿布輸入ヲ四億碼ニ達セシメ得サル如キ破目トナルコト殆ト明カナリ本稅ノ削除要求モ現實四億碼確保ノ趣旨ニ出ツルモノナリト説明シ尙「グレイ」ニ對スル現行從量稅力價格ノ關係上從價五割以上ニ相當スル點ヲ擧ケテ從量稅適用ノ不可ナルヲ指摘シタル上過日貴代表説明ノ如ク現行從量稅ヲ廢止出來ストセハ一方之ヲ從價五割相當程度ニ引下ケルト共ニ他方「グレイ」以外ノモノニモ從量稅ヲ課セントスル留保ヲ撤廢セラレ度シト再應迫リタル力

「ボ」ハ「グレイ」以外ノ綿布ニ付テ五安三杯以下ノ從量稅ヲ課スルコトハ大體從價五割以下ニ相當スルモノト考フル旨ヲ答ヘタリ依テ本官ハ今日ニ於テ交渉ハ最モ慎重ナル取扱ヲ要スル時期ニ達セルモノト思量セラルル事情ヲ述ヘ本日ノ印度側提

案ハ同僚トモ篤ト協議スルコトシ度シト述ヘ散會ス
563 昭和8年11月(7)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)
インド側綿布品種別輸入割当案および輸出期
年間二期区分案などに対する我が方対処方に
つき意見具申
デリー 発
本省 11月7日着
移牒第一七七號
(大至急)
往電(移牒第一七五號參照)ニ關シ
現實四億碼確保ノ目的達成ノ爲出來得ル限りノ努力ヲ盡シ居ル次第ナル處

(一)品種別ニ付之ヲ撤回セシムルコト最早不可能ト思考セラルルノミナラス二個ニ區別スル案モ先方之ニ同意セス但シ先方ニ於テハ本件ニ關スル當方提案ハ之ヲ考慮スヘシト云ヒ居ル次第ニ付此ノ上ハ我方ヨリ何等カノ提案ヲ爲シ歩ミ寄リノ外ナシト存ス就テハ此ノ點ニ付何分ノ御指示仰キ度

當代表部トシテハ果シテ先方ノ承諾ヲ取付ケ得ルヤ全然保障ノ限りニ非サルモ不取敢生地物、晒物及色物ノ三種ニ區別シ右三種ノ各比率ニ付生地物四五「パーセント」晒物二〇「パーセント」色物三五「パーセント」トシ何レノ品種ニモ全量ノ一割ニ相當スル「アラウランス」ヲ認ムル案ヲ提出シテ先方ノ考慮ヲ促シ種々論議ノ末右比率ニ付何等力ノ妥協點ヲ發見スル様努力ヲ試ミテハ如何カト思考ス

(二)二期區分案ニ付曩ニ當代表部案トシテ提案セル各期三割ノ融通ヲ認ムル點ニ付先方ハ各期一割及翌年ニ跨ル場合ノ後半期ノ數量ニ對シ五分ノ融通ヲ認ムルコトニ修正シ來レルカ右數量ノ計算ヲ日本ヨリ輸出スル場合ヲ基準トスルニ於テハ左迄ノ不便無カルヘシト思考セラル處其ノ翌年ニ跨ル場合ヲモ一割ニ改メシム様努力ヲ試ミ如何アルヘキヤ

(三)從量稅ニ付生地物ニ關スル限り之力撤廢又ハ稅率ノ變更ヲ此ノ上更ニ主張スルコトハ甚タ無理ト思考セラル次第ニシテ生地以外ノモノニ對シテハ先方ニ於テ目下之ヲ課スル意図無ク又課スル必要生シタル場合ニモ五「アンナ」三「パイ」ニ止ムルコトトナレハ現在ノ相場ニテハ事實上從

價五割以上ニ上ルコト殆ト無之ヲ以テ此ノ儘承認シ差支無カルヘシ

四綿布四億ニ對シ印棉買付量ヲ百五十萬俵トスル案ハ先方ニ於テ曩ニ報告セル「ボア」私案ノ程度迄讓歩シ來レルモノニシテ我方トシテモ百五十萬俵ノ買付ハ普通ノ狀態ニ於テ別段困難ナラサルコト我力當業者モ認メ居ル次第ニ付最早之ニテ折合然ルヘシト存ス尤モ印棉百萬俵ノ基準量以下ニ下ル場合一俵ニ付二百碼ノ割ヲ以テ遞減スルコトハ不合理ニ付右遞增ノ場合ト同様一俵ニ付百五十碼ノ割ニ改シム様今一應努力シ見度シト存ス

(五)之ヲ要スルニ本日ノ會合ノ結果先方トノ主張ノ開キ段々僅少トナリ來レル次第ナルカ此ノ上ハ或程度迄先方ノ願ヲ立テ實質的ニハ我方ニ多ク不利ナラサル様善處シテ會議ヲ成功セシムルコト我方ニトリ得策ト思考ス尤モ前各項卑見ニ付交渉ノ結果必ス先方ノ同意ヲ取り付ケ得ヘシトノ見込付キ居ル次第ニハ非サルモ幸ニ右承認ヲ得ハ差當リ之ヲ以テ先方ト交渉ヲ試ムヘク尤モ本省ニ別個ノ御意見アラハ右御垂示相願タク何レニセヨ本日印度側提案ニ對シ如何ニ回答シ然ルヘキヤ七日中ニ御回訓ニ接シ得ル様大至急御配慮

ヲ請フ

564 昭和8年11月7日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

インド側綿布品種別輸入割当案および輸出期年間

二期區分案などに関する我が方対処策につき訓令

別電 十月七日発広田外務大臣より沢田日印会商
代表宛(移牒第一七九号)

右我が方対処策

本省 11月7日発

(別電)

本省 11月7日発

移牒第一七八號
至急

貴電(移牒第一七七號參照)ニ關シ

貴電(移牒第一七六號參照)先方最後案ハ貴電(移牒第一六九號參照)ニ比シ或ル點ニ於テ寧ロ我方ニ不利ニシテ到底之ヲ其ノ儘受諾シ難ク我方ガ現實四億碼確保ヲ強調シ居ル次ハ累次申進ノ通リニシテ現ニ本大臣發在英大使宛電報(移牒第一八〇號參照)本大臣「スノー」ト會談ノ際モ特ニ此ノ點ニ付英國側ノ注意ヲ喚起シ置キタル次第モアリ

移牒第一七九號
極秘至急

(一)品種別ニ付テハ大體貴電(移牒第一七七號)ノ三(一)ノ案ニ依リ極力御交渉アリタシ

(二)二期區分案ニ付テハ貴電(移牒第一七七號)ノ三(二)ニ依リ極力努力セラレ度シ

(三)從量稅ニ付テモ同電(三)ニテモ差支ナキモ出來得ル限リ貴電(移牒第一七五號)ノ四記載ノ通リ「グレー」ニ付從

價五割相當程度ニ引下ケ方交渉セラレ度シ

四 棉布四億ニ對シ印棉百五十萬俵トスル案ハ成ル程貴電

(移牒第一五一號)ニ比スレハ最高俵數ニ於テ有利ナル

力如キモ百萬俵ヲ超過スル場合ハ百五十萬碼ヅツ増加シ

反対ノ場合二百萬碼ヅツ減少セシムルガ如キハ御來示ノ

通り啻ニ理論上不合理ナルノミナラス前者ノ場合増加率

少ナケレハ少キ程綿布最高量ニ達スルコト遲キ次第ニシ

テ當方ノ主張スル現實四億ノ確保ニ夫レ丈遠サカル理ナ

リ從テ(イ)我方トシテハ何處迄モ增加率二百萬碼ヲ固執シ

四億ニ對シ百三十七萬五千俵ヲ主張ンタシ尤モ(ロ)先方カ

百五十萬俵ヲ固執スルニ於テハ綿布ハ四億二千五百萬碼

ヲ主張セサルヲ得サル次第ナルモ斯クテハ四億ヲ認メタ

ル今日迄ノ經緯ニ逆行スル次第二付四億對百三十七萬五

千俵ハ前記(イ)ノ通リ之ヲ認メ買付量ガ右ヲ超過シ百五十

萬俵ニ達セサル場合ハ其ノ儘据置キ百五十萬俵ヲ超過シ

タル場合ハ其ノ部分丈翌年度ニ繰越ス案ニ依リ交渉セラ

レ度シ(以上ハ通商局長ヨリ「マクレー」ニモ内話シ印

度側說得方依頼シ置キタル次第二付四億ヲ認メタ

力御交渉アリ度ク如何ニシテモ先方ノ容ル所トナラサ

565 昭和8年11月(8)日

沢田日印会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

ル場合ハ往電(移牒第一七八號)末段ノ通り愈々ノ最後
案トシテ貴電(移牒第一七七號)ノ三四御來示ノ案ニテ
満足スヘキニ付右ニ依リ御措置相成度シ)

~~~~~

### 暫定協定延長問題に關するインド側との協議 について

本省 11月8日着

デリー 発

#### 移牒第一八四號

貴電(移牒第一六八號參照)ニ關シ

綿布問題ニ關スル交渉經過ハ既報ノ通ナルカ往電(移牒第一六四號)裏請ニ拘ラス冒頭貴電御訓令有之他方十一月十日迄ハ既ニ餘日ナキ次第二付今七日本官「ボア」長官ヲ往訪

(一)一ヶ月ノ豫告廢棄條項ヲ有スル現行條約ノ延長案

(二)現暫定取極ノ一ヶ月又ハ六週間延長案

(三)日印双方ノ聲明ヲ議事錄ニ留ムルノ案

ヲ逐次提議縷々説明ヲ加ヘ日印交渉ノ現状ニ鑑ミ其ノ成功ヲ確保スル見地ヨリ本問題ニ關シ此ノ際何等力ノ措置アリ然ル可キ所以ヲ詳述シ貴電(移牒第一六七號)記載ノ我方ノ希望ヲモ述ヘ種々論議ヲ重ねタルカ「ボ」ハ日印會商目下ノ狀況ハ將ニ往電(移牒第一二〇號)(二)ノ事態ニ到達シ居ルモノナリ故ニ日本當業者ニ於テ印棉不買ノ決議ヲ撤廢スルニ於テハ御趣旨ニ從ヒ何等力ノ措置ヲ講シ得可シ印棉不買撤廢ト云フモ直ニ買取ヲ始メラレタント云フニ非ス事實商人力買ハサルハ自由ナルカ不買撤廢ノ聲明ノミニテモ宜シク之ノミニテモ心理上ニ與フル影響ハ鮮カラス若シ此ノ種程度ノ「ジエスチユア」スラ日本側ヨリ求メ得スシテ本件取極ノ締結ニ應スルニ於テハ眼前ニ控フル臨時議會ニ於テ政府ハ其ノ立場ヲ失フヘシ元來今次ノ會商ニ關シ政府側ヲ援助シ居ル者ハ棉花栽培業者ノ代表者ナルカ前記日本側ノ「ジエスチユア」ナクシテ日本ノ希望ニ應スレハ

政府側ヘノ右援助者モ政府ヲ離レ反対ニ之ヲ攻撃スルニ至ル可クスケナリテハ今次ノ臨時議會ノ議題タル準備銀行案ノ成否ニモ大ナル影響アル可ク一度政府ノ旗色不利トナルカ如キ場合ハ近ク印度ノ運命ニ關スト稱セラル憲法改正

問題ニモ累ヲ及ホシ當國トシテ真ニ由々敷キ政治問題ヲ惹起スル惧アリ故ニ政府ハ目下如何ニモシテ政府ノ援助者ヲ離反セシメサルコトニ腐心シツツアル次第ナリ以上ハ極メテ機微ノ點ニシテ貴代表限リニ内話シタ次第二シテ此ノ點ハ充分御了承願度シスル狀態ナルヲ以テ現状ノ儘ニテハ如何ニシテモ御申出ニ應シ難ク又雙方ノ聲明ヲ議事錄ニ留ムル案ニ付テモ取極同様拘束ヲ受クル次第二付御引受シ得ス只貴代表ノミニ對シ自分ノ本意ヲ申上クレハ自分トシテハ日印交渉ノ現状ニ照シ會商中日本品ニ對シ差別待遇其ノ他ノ新措置ヲ採ルノ意思ヲ有セス只國民ニ向テハ十一月十日ヨリ印度ハ日本ニ對シ自由ノ立場トナリタルコトヲ言ヒ得ルノ地位ヲ確保シ置クヲ要スル次第ナリト述ヘ印度政府ノ立場ヲ充分諒セラレ度キ旨ヲ縷々説明セルニ付本官ハ印度ノ立場モ去ルコト乍ラ會商ノ現状ハ先月末本件ニ付御互ニ詰合ヒタル當時ニ比シ相當工合好ク進展シ居ル次第二付日本當業者ニ於テ印棉不買決議ヲ撤廢セストモ(日本側ニ於テハ雙方ニ満足ナル協定ノ確實ニ成立セサル限右決議撤廢ノ聲明スラ爲スコト不可能ナル所以ヲ繰返シ説明シ置ケリ)此ノ機ニ於テ本件取極ヲ結フトモ議會ニ於テ説明出來サル

ニ非サルヘシト種々説得ニ努メタルモ「ボ」ハ十一月十日迄ニ會商自體力妥結ニ達セハ印度政府トシテハ本件日本側ノ希望ニ副フ様何等カノ措置ヲ採リ得ルモ然ラサル限何トモ致シ難シト述ヘ居リタリ

本件ニ關スル印度政府側ノ態度右ノ如クニシテ取極ノ更新ハ勿論雙方聲明ノ議事錄記入モ如何ニシテモ承知シ吳レス御訓令ノ御趣旨貫徹シ得サリンハ遺憾ナルモ如何トモ致シ難ク本件ニ關シ此ノ上如何措置スヘキヤ御意見アラハ何分ノ儀折返シ御垂示ヲ請フ

~~~~~

566 昭和8年11月8日 広田外務大臣より 沢田日印会商代表宛(電報)

暫定協定延長問題については我が方の一方的宣言により対処すべき旨訓令

本省 11月8日発

貴電(移牒第一八四號)ニ關シ

御來示ノ次第ニ鑑ミ當方ノミノ一方的聲明ヲ爲スコト余儀ナキ儀ト存セラルルニ付貴官ハ「十一月十日ヨリ日印間ニ

切望スト述ヘタリ次テ本官ハ前回ノ印度側提案ハ委細日本政府ニ報告シタルカ政府ハ當業者ト篤ト協議ヲ重ねタル處當業者ニ於テハ綿布最高制限量四億碼ヲ受諾センカ爲ニハ

右數量力現實ニ輸入可能ナラサル可カラス然ルニ印度案ニハ各種ノ附帶條件アルカ爲右最高制限量ノ現實輸入ヲ期待シ得ラレヌ政府トシテハ協定成立ノ上ハ誠意ヲ以テ輸出統

制ヲ計ラントスルモノナルモ之カ實行ノ手段ヲ取ル際附帶條件アル爲統制ニ關スル協定ノ履行ヲ困難トナラシムル虞アリ以上ノ二理由ニ依リ前回會合ニ於テ右條件ノ撤廢ヲ要請シタル次第ナルカ之等ノ條件ハ印度政府亦重要視スル所

ナル事情ヲモ參酌シ難キヲ忍ヒ印度政府カノ次ノ我方案ニ同意スルコトヲ條件トシテ種別及期別割當テノ主義ニ同意ス可シト述ヘ貴電(移牒第一七九號)御訓令ノ御趣旨ニ基キ

無條約狀態ヲ生スルコトハ兩者間從來ノ友好關係ニ鑑ミ予

ノ深ク遺憾トスル所ナルモ本會議ハ今日迄極メテ順調ニ進行シ來レルヲ以テ從來ノ條約ニ代ルヘキ新條約成立スルニ至ルヘク又右條約成立實施ニ至ル迄ノ間ニ於テモ予ハ印度側カ我國ニ對シ關稅ノ引上又ハ差別待遇等ヲ爲ササルコトヲ信シテ疑ハサルモノナリ」トノ趣旨ヲ聲明セラレ之ヲ議事錄ニ止メシムル様御措置相成度シ

~~~~~

567 昭和8年11月10日 沢田日印会商代表より 広田外務大臣宛(電報)

インド側綿布輸入に際しての品種別および年間輸入期別割当案に対する我が方具体的対案提示について

本省 11月10日発

貴電(移牒第一七八號及同第一八五號)ニ關シ

九日第十二回本會議開催

劈頭本官ヨリ本國政府ノ訓令ニ基キ日印條約ノ失效善後ニ

移牒第一九二號

貴電(移牒第一七八號及同第一八五號)ニ關シ

從量稅ニ付テハ將來必要ノ場合「グレイ」以外ノ綿布ニ從

行從量稅ハ現實五割相當率ニ改訂方ヲ要求シ綿布「クオータ」ニ付テハ同貴電四ノ通ノ最高量關聯數量及增減比率ニ關シ(イ)及(ロ)ヲ提案シ此等日本提案ハ要スルニ四億碼ノ現實輸入ヲ出來得ル限り可能ナラシメントノ切實ナル希望ニ基ケルモノニ外ナラサル旨説明シタリ右ニ對シ「ボ」ハ貴對案ニ依ル修正ハ其程度甚タシキノミナラス其範圍モ廣汎ナ

リ元來品種別ニ付印度側ヨリ日本側ノ對案提出アラハ之ヲ考慮スヘキ旨述ヘタル次第ナレトモ唯今ノ貴提案ニテハ慎重ナル考慮ヲ要スル事明カニシテ當業者ノ意見ヲモ徵スル必要有リ然ルニ當業者ハ當地ニ居ラサルヲ以テ本日ノ日本

案ニ對シ回答スル爲ニハ多少時日ヲ與ヘラレ度處自分ノ考

ニテハ日本案修正ノ受諾ハ印度側ノ到底困難トスル處ナル

ヘシト言ヘルヲ以テ本官ハ特ニ我方力困難ヲ冒シ之迄歩ミ

寄リ今日ニ至レル事ヲ詳述シ會商ハ圓滿妥結ヲ計ル爲印度

側ニ於テ是非品種別及期別ニ關スル日本提案ヲ受諾セン事

ヲ要請シ二三應酬ヲ重ニ次テ「フランク、ノイズ」ハ「グ

レー」ノ現行從量稅率カ現實從價五割ニ相當セスト言フモ

次第ナルカ平均ニ付從價五割ノ相當率ヲ要求スル次第ナリ

何品ニ付テ之ヲ言ヘルヤ各品種ニ付自然多少ノ喰違ヒ有ル

ヤト問ヘルヲ以テ本官ハ然リト答ヘタリ最後ニ「ボ」ハ日

本側對案ノ修正カ廣汎且重大ニテ審議ニ相當ノ時日ヲ要ス

ヘク尙日本案ハ各項共之ヲ此儘受諾スル事ハ頗ル困難ナリ

トノ點ヲ繰返シ指摘シタル後慎重考慮ノ上回答スヘシト述

ヘタリ

568 昭和8年11月10日

広田外務大臣より  
沢田日印会商代表宛(電報)

我が方インド綿花不買撤回に際してはインド

側が本邦よりの一切の輸入品に何等差別待遇

をなさないとの言質取付方訓令

本省 11月10日発

貴電(移牒第一九〇號)ニ關シ  
○ 移牒第一九五號  
○ 秘至急

貴電(移牒第一九〇號)ニ關シ

一、綿布數量及棉花買付量ニ付双方意見ノ合致ヲ見タル場合

先方ニ於テハ速ニ綿布ニ關スル關稅率ノ引下ヲナシ又當

方ニ對スル綿布ノ「クオータ」ヲ開始スルコトモナル

ノ結果當然先方ヨリ印棉不買ノ撤回ヲ要求シ來ルヘク又

我方當業者ニ於テモ右撤回ニ贊成スルノ情勢ニ立到ルヘ

キ處御承知ノ通り當方トシテハ印棉不買ノ撤回ヲ今次交

渉全般ニ引掛クル方針ノ下ニ從來凡ユル機會ニ之ヲ強調

シ來レル次第ナルモ印棉不買ノ直接動機タル七割五分ノ

關稅力五割ニ引戻サルニモ拘ラス我方ニ於テ依然綿布

以外ノ問題ノ解決迄右不買撤回ヲ勧奨シ得スト突張ルコ

トハ右不買ヲ以テ政府ノ關知スル所ナラストセル今日迄

ノ建前ニ鑑ミ理論上撞着スル所アルノミナラス今後殘レ

ル問題ノ交渉ニ惡影響アルヘキヤニ思考セラル

二、然ルニ他面雜貨問題ニ關シテハ何レ綿布問題安結ノ上ハ

セストモ事實上不都合無カルヘキニ付先方ヨリ右取極締  
結ノ申出アラハ兎モ角當方ヨリハ別ニ右問題ニ觸レサル  
コト致度シ

569 昭和8年11月13日

沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

雜貨問題への我が方対処方につき意見具申

デリー 発

本省 11月13日着

移牒第一九八號

(至急)

貴電(移牒第一九五號)ニ關シ

(一)元來雜貨ニ關スル從量稅ハ日本品ノ低廉ナル價格ニ對シ

事實上或ル程度ノ差別ヲ爲スコトニ依リテ條約上ノ差別

待遇ヲ避ケ以テ產業保護法ノ適用ヲ排除セントシテ案出

セラレタルモノナル處本官等ニ於テハ當初本會商方針第

三ヲ以テ雜貨問題ニ付我方ノ目的貫徹ヲ期スルコト至難

ト認メ鮮カラス苦心ヲ重ネ已ムヲ得サル場合ニハ雜貨問

題ニ付或ル程度迄最惠國待遇ノ主義ヲ放棄スルカ然ラサ

九 英連邦諸国との通商問題

五、尙本電三ノ保障ヲ取付ケ得且印棉不買ノ撤回ヲ含ム前記

一、綿布棉花ニ關スル合意實行セラレタル曉ハ暫定取極存

レハ數種ノ商品ニ付數量又ハ價格ノ統制ヲ爲スノ外無シト思考シ居リタル次第ニシテ從量稅ノ制定ニ依リ雜貨ニ付テモ全般的ナル最惠國待遇ヲ贏得スルニ於テハ主義トシテ從量稅ヲ承認スルノ外無ク從テ第三國ニ比シ多少不利ナル待遇ト相成ルモ產業保護法ノ適用ヲ受クルカ若ハ數種ノ商品ニ付數量又ハ價格ノ統制ヲ爲シ度モ我方トシテハ遙カニ有利ナリト考ヘ居ル次第ナリ

(二)右ノ事情ヨリ觀察スレハ冒頭貴電第二括弧内「事實上」ナル字句ハ何ヲ意味スルヤ甚タ了解ニ苦シム處ニシテ之ヲ此ノ儘提案スル時ハ必ス先方ノ强硬ナル反対ヲ受ケ再ヒ雜貨ニ關スル主義上ノ討議ヲ蒸返スコト明瞭ナルヲ以テ往電(移牒第一九〇號)ノ通卑見申進タル次第ナルカ元來此種字句力從來ノ通商條約文(又)ハ同附屬文書ニ用ヒラレタル事例アリヤ又條約上此ノ種保障ハ當然相互的トナルヲ普通トスルヲ以テ印度側カ假ニ此種保障ヲ承諾スルトスルモ彼モ亦同一ノ保障ヲ我ニ求ムルコトアリ得ヘシ此ノ場合右字句ノ解釋如何ニ依リ本邦側ニ於テハ印度米ノ輸入許可ハ暫ク別トスルモ少クトモ銑鐵ノ税率ニ關シ右ハ印度ニ對シテ事實上不利ナル待遇ヲ爲スノ故

用ニ代へ從量稅ヲ適用セント目論見居ルモノハ右三品以外ニ更ニ多數ノ商品有ルハ御承知ノ通ニシテ右三品ヲ特ニ重要視スル意味ニ非ス若シ政府ハ從量稅ノ適用ヲ恐ルル爲協定ヲ爲サントスルモノナラハ右三品以外人絹及「メリヤス」ノ如キ最モ重要ナル品種ニ付第一着ニ協定ヲ試ムル必要有ルヘシ

屢次報告ノ通右三品ハ印度側ニ於テ從量稅ヲ適用スル事ニ困難ヲ感シ產業保護法ノ適用ヲ已ムヲ得スト爲シ居タル結果トシテ右専門委員會ヲモ開キ研究セシメ其ノ他種々交渉ノ末他ノ雜貨ト別取扱ヲ爲シ特ニ三品ニ限り御來示ノ如キ申出ヲ爲サントスル趣旨ハ充分了解シ難キ次第ナリ

卑見ニ依レハ雜貨ニ關シテハ既ニ我方根本方針タル最惠

國待遇ノ保證ヲ受ケ得ルコトトナリ居ル限り此ノ保證ト綿布關稅引下トハ同時ニ實行セシムルコトトシ且出來得ル限り會商方針第九〇條約中ニ收ムルコトトセハ我方元來ノ目的ハ達成セラルル次第ニテ之以上先方ノ關稅自主任權ニ立入り而モ片務的ナル要求ヲ試ミルカ如キコトハ徒ニ事態ノ紛糾ヲ釀スノミニシテ目的ノ達成ヲ期シ難シト

ヲ以テ之力引下ノ要求アル際ハ之ニ應セサル可カラサルニ至ル可シ

(三)貴電(移牒第一九三號及同第一九四號)ヲ以テ雜貨三品ニ關シ訓令有之タル處右ハ別段之等三品ニ付税率ノ協定ヲ求メムトスル趣旨トハ思考致ササルモ御來示ノ如キ税率制定方ヲ當方ノ要求トシテ主張スル事ハ如何有ルヘキヤ本省ニ於テハ曩ニ「シムラ」ニ於テ構成シタル從量稅ニ關スル専門委員會ヲ以テ雜貨ニ關スル分類及税率等ニ關シ細目ノ協議ヲ爲スモノト見ラレタルカ如キモ該委員會ハ單ニ貴電(移牒第一九四號)ノ三品ニ從量稅ヲ適用シ得ルヤ否ヤヨ検討セシムルヲ本旨トセルモノニシテ從來稅額等ノ協議ハ専門委員會ニ別段之ヲ委ネタルモノニ非サリシ次第ナリ而シテ貴電(移牒第一九四號)ハ單ニ右三品ノミニ付述ヘラレ居ル處印度側カ產業保護法ノ適

思考セラルルニ付強テ必要アラハ御來示ノ當業者ノ意見ハ單ニ希望トシテ之ヲ先方ヘ通シ置ク程度ニ止ムル方然ルヘシト存スル處右ニテ御異存無キヤ折返シ回電相成度シ

(四)冒頭貴電ニ依レハ協定成立ノ場合綿布ノ「クオータ」ニ

付テモ即時開始シ差支ナキ御意嚮ニ拜察スル處政府ニ於テハ即時綿布「クオータ」開始ニ伴フ輸出ノ統制ヲ爲シ得ル様既ニ着々準備セラレ居ル次第ナリヤ又「クオータ」ノ實行ハ本來我國商品輸出制限ニ關スル義務ヲ外國ニ負フコトト相成ル可キ處右ハ御裁可ヲ仰カヌシテ實行シ得ル次第ナリヤ本件ハ協定諸事項ノ實行開始ニ關スル交渉上心得置ク可キ必要アルニ付豫メ何分ノ儀御回電アリ度シ

(五)尙序乍ラ貴電(移牒第一七四號)後段爲替變動力「相當期間繼續シタル場合」トアル處「相當期間」如何程ノ期間ニ協定シ然ル可キヤ又最後ノ場合即チ印度側カ一方のニ其ノ關稅率ノ引上又ハ引下ヲ爲ス場合爲替ノ變動率ト引上又ハ引下ヲ爲ス可キ關稅率トノ比率ヲ如何ニ定メ然ル可キヤ此ノ問題ハ最近ノ會議ニ於テ上程シ度キ意嚮ニ

付至急何分ノ儀御差圖相成度シ

~~~~~

570

昭和8年11月15日

広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

雜貨問題に対する我が方対処方策につき訓令

別電 十一月十五日発広田外務大臣より沢田日印会

商代表宛(移牒第二〇〇一号)

右我が方対処方策

本省 11月15日発

移牒第二〇〇號

至急

貴電(移牒第一九八號)御請訓各點ニ對スル回訓ハ別電(移牒第二〇一號)ノ通リナリ然ルニ御來示ニ依レハ本件從量稅ヲ認メ最惠國待遇ヲ贏チ得タル以上事實上本邦品ニ對シ差別的待遇トナルヘキ關稅ヲ課セラルコトヲ是認スルモ已ムヲ得サル趣ニシテ右ハ勿論程度ノ問題ト思考スル處元來當方力從量稅主義ヲ採用シタル所以ノモノハ印度側力數次ノ會合ニ於テ何等本邦品ヲ排除スル念ナキ旨(貴電移牒第一四三號)及雜貨全部ニ付差別的待遇ヲナスコトヲ

差控フルコトトスヘキ旨(貴電移牒第一三〇號)ノ言明ヲ與ヘタル次第ニ鑑ミ本件從量稅力本邦雜貨將來ノ輸出ヲ甚シクハ阻害セサルヘシトノ前提ニ基クモノニ有之往電(移牒第一六〇號)ニモ申進ノ通り綿布棉花ニ關スル先方數字ヲ認ムル結果我方ノ蒙ムル貿易「バランス」上ノ不利ハ一億圓内外ニ上ルヘク右ハ出來得ル限り雜貨ノ輸出ヲ以テ之ヲ充填セサルヘカラサル次第ナル處前記累次ノ貴電ニ依レハ印度側ハ右雜貨ニ付キ何等差別的待遇ヲ爲ササルヘキ趣ナリシニ付右巨額ノ輸入超過モ大部分雜貨輸出ヲ以テ補ヒ得ヘキコトヲ見越シ國內反對ヲモ押切り大局的見地ニ立チテ綿業關係者ヲ說得シ難キヲ忍ソテ大體先方案ノ數字ヲ容認スルコトト致シタルハ貴官御承知ノ通ニシテ將又本件課稅殊ニ一律從量稅ニ依ル次第ヲ聞知シタル雜貨當業者ハ當分輸出雜貨力多ク下級品ニシテ從量稅ニ依ル結果其ノ對印輸出力甚大ナル打擊ヲ受クヘキコトニ付異常ノ不安ヲ感シ從價ニ於テ一、二割程度ノ増率ハ此ノ際已ムヲ得ストスルモ本邦品ニ禁止的トナル惧アル從量稅主義ハ極力阻止方種々陳情シ居ル次第ナルカ今次御來示ノ如ク從量稅ニ付キ名目上ノ最惠國待遇ヲ以テ満足スル外ナシトセハ其ノ邊ニ付何

等力保障ヲ取付置クヲ要スヘク之ナキニ於テ雜貨ノ關スル限り從量稅ノ按配ニ依リ印度側ノ意ノ儘ニ支配セラル譯合ニシテ殊ニ先方ニ於テハ貴電(移牒第一四三號)ニモ記載ノ通り印度產業ヲ競爭シ得ル程度ニ保護スル爲メ本件從量稅ヲ設定セントスルモノニシテ換言スレハ產業保護法ノ

主旨ハ何處迄モ之ヲ棄テサル建前ナルニ鑑ミ本件從量稅按

配ノ如何ニ依リテハ或ハ本邦品ニ禁止的ノ高率關稅ヲモ課シ得ヘク其ノ結果折角產業保護法ノ適用ヲ除外セシメ得タル貴官段段ノ御苦心モ徒勞ニ歸スルナキヤヲ怖ルルノミナラス今次會商ノ成果トシテ斯ノ如キ不利ナル結果ヲ招來スヘキ協定ヲ取結フコトハ極力之ヲ避ケ度之ヲ要スルニ此ノ際多少ノ增稅ハ之ヲ忍フトスルモ何處迄モ本件從量稅賦課ニ依リ本邦雜貨ノ輸出力事實上阻害セラルルカ如キコトナキ様適當ナル保障ヲ取付置キタキ所存ナリ

尙右要求ニ付通商條約等ニ前例アリヤニ關シ御疑念アルカ如キモ抑我方カ他國トノ間ニ輸出制限ノ義務ヲ負フ旨ノ約定ヲ敢テスルカ如キハ之亦前例ナキ事ニシテ之カ實現ノ爲メ殊ニ前記ノ如キ貿易上ノ不均衡是正ノ爲メ右程度ノ要求ヲ爲スコトハ決シテ無理ナラスト確信ス

(別電)
往電(移牒第二〇一號)ニ關シ

本省 11月15日発

移牒第二〇一號

一、貴電(移牒第一九八號參照)(二)ニ關シ當方ニ於テハ雜貨ニ對スル從量稅ノ採用ヲ認メ從テ或程度ノ關稅引上ノ結果多少ノ不利ナル待遇トナルヘキコトハ豫期シ居ルモ事實上本邦品ニ對スル禁止的高率關稅ヲ課スルコトヲ排除センコトヲ主張スルモノニ有之往電(移牒第一九五號)

二、申進ノ次第ハ「事實上」ナル字句ヲ其ノ儘條約又ハ取極中ニ記載スヘシトノ意味ニ非スシテ此ノ趣旨ヲ確保スル爲メ印棉不買撤回前ニ何等書キモノニ依ル保障ヲ取付ケタキ主旨ニ過キス而シテ右ハ此ノ際是非貫徹シタキニ付キ御裁量ニ依リテハ以上ノ趣旨ヲ記錄ニ殘ス代リニ

寧口具體的ニ「兩國ハ關稅ニ關シ相互ニ相手國ヨリノ一切ノ輸入品ニ對シ第三國品ニ比シ不利ナル待遇ヲ爲ササ

ルコト」ヲ約スルト共ニ本會商方針第九ノ趣旨（但シ「關稅率ノ引上」）ノ次ニ「稅番ノ改正又ハ稅目ノ細分等」ヲ加フ）ノ規定ヲ今次協定ヲ文書ニ作成ノ際必ス編込ムヘキコトニ付先方ノ確タル了解ヲ取付ケ右ヲ議事錄ニ止メシムルコトニ改メラレ差支ナシ

三、貴電（三）末尾ニ關シ當業者ノ意見ハ希望トシテ先方ニ通シ置キ將來先方稅率決定ノ際我方當業者ノ利益ヲ考慮セシメタキ程度ナルコト勿論ナリ

三、同電四ニ付テハ「クオータ」ノ約束ハ御來示ノ通り他ノ

事項ト共ニ御裁可ヲ要スル次第ナルモ右「クオータ」ノ

實行ニ付テハ當方カ現行法規ノ範圍内ニ於テ自發的ニ輸出統制ヲ爲スコトヲ認メラレ居ルヲ以テ右ニ關シ御裁可

ヲ經ルノ要ナク又商工省トシテハ輸出統制ニ關スル諸般ノ國內手續ハ一箇月モアラハ之ヲ完了シ得ル見込ナリ

（從テ當方トシテハ大體明年一月一日ヨリ實施スルコト

トナスヲ好都合トスヘキ處本件妥結後ト右實施トノ過渡的措置ニ關シイ右過渡期ノ印棉買付量及綿布輸入量ハ之ヲ全然今次協定外ニ置クカ（ロ）印度側ノ關稅引下及當方ノ不買撤回ヲ「クオータ」實施迄延期スルカ何レカ一ヲ選

往電（移牒第一九二號參照）ニ關シ
十五日第十三回本會議開催

「ボア」ハ先ツ本日ノ會議開催ノ遲延セルハ印度政府カ日本提案ヲ精査シ絕對最終ノ對案ニ達セントスルニ依レリト前置シタル上前回ノ日本提案（一）ハ品種別數ヲ四種ヨリ三種ニ減少シ其按分率ヲ變更セントスルニアレトモ印度政府ハ其何レニモ同意スルコトヲ得ス然レ共各品種別間ニ一定率ノ移讓ヲ許スコトニ同意スヘシ但シ移讓ニ依ル割當量ノ増加力當該品種ニ對シ割當量ノ一割ヲ越エス且輸入可能量ノ總額ニ何等ノ增加ナキコトヲ條件トスルモノトス

（二）期割當ニ關シテハ兩半期間ノ相互移讓率ヲ半期輸入量ノ一割トシ前年度後半期ト後年度前半期トノ間ノ移讓率モ同シク半期輸入量ノ一割ト定ム

（三）「グレー」ノ從量稅引下ハ之ニ同意スルヲ得ス但シ「グレー」以外ノ綿布ニ付差當リ新ニ從量稅ヲ設ケントスルノ

デリー 発

本省 11月16日着

移牒第二〇二號

（至急）

意思ナシ

四、棉花及綿布ノ關聯ニ付棉花百萬俵ニ對シ綿布三億二千五百萬碼ヲ基準トシ棉花買付量一萬俵ヲ増ス每ニ綿布輸入量ヲ增加スル率ハ之ヲ百五十萬碼トシ減少スル場合ハ二百萬碼トスル前回ノ提案ヲ維持セントス但シ日本側ノ提案ニ應スル爲棉花買付量百五十萬俵以上ニ達スル場合ハ其ノ超過量ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ承認スヘシ以上ハ印度側カ總テノ事情ヲ考慮シタル上達シタル最終ノ結論ナリト說明シタリ依テ本官ハ印度政府カ我提案ヲ容認スルヲ得サリシハ甚タ遺憾ナリ日本ノ要望ハ要スルニ現實四億輸入ヲ可能ナラシメントスルニ在リ然ルニ印度側ニ於テ品種別ニ關スル原案ヲ維持シ何等變更ヲ加ヘラレサルコトハ頗ル遺憾ニシテ

タ印度側カ我方ニ其ノ修正案提出ヲ懇意シタルモノニテ其結果日本政府ハ種々ナル困難ヲ排シ當業者ヲ說得セル上前回ノ提案ヲ爲スニ至レルモノナリ然ルニ印度側對案ハ品種別數ノ減少ノミナラス按分率ノ變更ヲモ拒絶セリトテ先方態度ノ變化ヲ詰リタルニ「ボ」ハ印度側ハ既ニ品種別數

ハサル可ラサル様思料セラルニ付右措置方ニ付テハ先方トノ間ニ然ルヘク御打合ノ上何分ノ儀請訓相成タシ

四、尙同電（五）ニ付テ（イ）「相當期間」ハ五週間（ロ）爲替變動率ト關稅率トノ關係ハ矢張リ上下共ニ割迄ハ据置キ之ヲ超過シタル場合ハ超過部分ニ付テノミ課稅ス（ハ）爲替相場ハ磅ヲ標準トシ之ニ對スル圓ト「ルピー」ノ比率ニ依ルコト致度ク又（ニ）基準トシテ取ルヘキ爲替率ハ協定成立當日ノ相場トシ可ナルモ當該日ト本會商開始當日トノ間ノ平均相場ニ依ルコトモ一案ナルヘシ

571 昭和8年11月16日 沢田日印会商代表より

廣田外務大臣宛（電報）

綿布輸入に際する品種別割当比率および輸入

期年間二分制問題などに関する我が方具体案

へのインド側対案提示について

別電 十一日十六日着澤田日印会商代表より廣田外務大臣宛（移牒第二〇四号）

右インド側対案

ヲ六種ヨリ四種ニ減少シ更ニ一割ノ移譲率ヲ認メシトベハ
モノニテ右ハ實質的ニハ按分率ノ修正ト同様ナリト第^ク右
變更ヲ肯セス依テ本官ハ兎ニ角同僚トモ協議ノ上何分ノ回
答ヲ爲ス^クシト述^ク散會セリ印度側提案別電(移牒第11〇
四號)ヘ通^ク電報バ

(元 電)

ハニー 発
本省 11月16日着

○移牒第11〇四號

十五日ヘ會議ニ於ケル印度側提案左ノ通

Proposal 1. The Government of India regret that they can not agree to the reduction of the number of categories below four, namely : —

- (1)Plain greys
- (2)Bordered greys
- (3)Bleached
- (4)Coloured and others

The percentages to be allotted to these categories

they cannot accept the suggestion that that the minimum specific duty on plain greys should be reduced below 5 annas 3 pless per pound.

Proposals 4 (A) and (B). While the Government of

India are unable to accept the linking of 400,000,000 yards with 1,375,000 bales and must adhere to their previous proposal of linking a maximum of 400,000,000 yards with one half million bales of cotton, they are prepared to agree that any quantity of cotton purchased in excess of one and half million bales in any one year shall be added to the quantity purchased in the following year for the purposes of calculating the relevant piece-goods quota.

~~~~~

572 昭和8年11月19日 沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)雜貨問題など未決定問題に關するハシメ開  
歩を前提ヒシテ織布品種別輸入額並比率上闇  
トハシメ開

will be 45, 13, 8 and 34 percent, respectively, as already proposed, provided that the percentage allotted to each category may be increased subject to the conditions that—

(A)The increase in any category shall not exceed an amount equal to 10 percent of the percentage of the total quota allotted to that category ;

(B)The amount transferred from any one category shall not exceed an amount equal to the total quota allotted to that category ; and

(C)The total quota shall not be thereby increased.

Proposal 2. The Government of India are prepared to agree that allowance transferable between the two periods of any one year or between the second half of one year and the first half of the next year shall be 10 per cent. of the half yearly quota. Any carry-over shall be completely adjusted in the last half year of the period of agreement.

Proposal 3. The Government of India regret that

ハニー 発  
本省 11月19日着

○移牒第111七號

(大臣急、極秘)

貴電(移牒第11〇七號及回第11〇八號)ハ關ニ

政府ノ御趣旨ハ昨年ヲ含メタル三年平均數字ヲ第一案<sup>(1)</sup>シ  
昨年ヲ除キタル三年平均數字ノ本省ニテ計算セラレタルモ  
ノハ第一案<sup>(2)</sup>ノ其ノ何レニモ各品種ニ付輸入總量ノ一割ヲ  
移譲率<sup>クシテ</sup>認メシメ晒布<sup>リ</sup>對シ現實<sup>110%</sup>ヲ確保セバト  
ノ御趣旨ト拜察ス右ハ當方トシテモ充分諒解スル處ニテ出  
來得ル限り其ノ日的貫徹方ニ努力シ度キ次第ナルモ其ノ第  
二案中色物ニ付テハ印度案ノ方我方ニ採り有利ナルヲ以テ  
右ヲ其ノ虚持出スコトハ甚<sup>タ</sup>危險ナリ

而モ今日迄ノ經過ニ於テ當代表部ノ得居ル印象ニ依レハ先  
方モ本件ニ關シテハ可ナリ肚ヲ決メ居ルモノト思ハル筋  
アルヲ以テ此ノ上種々懸引的交渉ヲ試ミルトモ精々比率ヲ  
八ヨリ十位ノ程度ニ増ス位ノモノナル可ク又移譲率ニ關シ  
テモ若シ先方ニ於テ譲リ合フ<sup>ク</sup>スルモ極メテ此少ニ過<sup>ク</sup>サ  
ルモノト想像セラレ居レリ

目下本會議ノ重要點ハ下ノ處品種別問題ノミトナリ之モ  
煎シ詰ムレハ晒布ノ比率如何ニ歸スルモノナル處政府トシ  
テハ本會議ノ決裂ヲ睹シテ迄右比率及移讓率ヲ固執セラル  
ルモノニ非サルコトト拜察スルモ政府ニ於テハ此際全數量  
ノ一割ノ移讓率ヲ絕對必要トセラルニ於テハ前記第一案  
及第二案ト云フ如キ掛引的態度ヲ棄テ大國ノ襟度ヲ以テ此  
際思切リテ印度案ノ比率ヲ認ムルコトシ其ノ代り之ト交  
換的ニ前記一割ノ移讓率ヲ我方ノ絕對最後案トシテ提出シ  
先方ノ決定的ノ諸否ヲ求ムル方針ニ出ツル方得策ト思考ス  
(右ニ依レハ晒布ハ結局一八「パーセント」ノ程度トナル)  
尙御承知ノ通り綿布問題以外ニモ爲替問題、緬甸問題、雜  
貨問題其ノ他未決定ノ問題數個アリニ付テモ印度側ハ凡  
テ我方ノ希望ニ應スルコト非サル可シト察セラレ從テ是等  
諸問題ヲ一々討議シ行クコトハ作戦上不得策ニシテ今後何  
レモ相當ノ難關ニ逢着スルナラント存セラルニ付果シテ  
先方カ凡テ我力要求ニ應スルヤ否ヤ疑問ナリト雖モ此際品  
種別ニ關スル印度案比<sup>(率)</sup>律ヲ認ムル對償トシテ爲替及緬甸問  
題ハ之ヲ撤回セシメ雜貨問題ニ付御來示ノ保障ヲ求ムル様  
努力スルコトトシ同時ニ(以上ノ諸事項ニ満足ヲ與ヘラル

ルコトヲ條件トシ) 棉花買付量ニ付綿布四億碼ト棉花百五  
十萬俵トノ關聯ヲ認ムルモ棉花買付量百萬俵ニ達セサル場  
合綿布輸入量ヲ減少スル場合モ一俵ニ付百五十碼トスルコ  
トトシ若シ右ノ最後案ヲ認メラレサルニ於テハ綿布四億碼  
ノ最高限ヲ保障スル能ハスト主張スル等總テヲ一括提出ノ  
上先方ノ諾否ヲ求メ一舉ニ會議ノ成否ヲ決スルノ態度ニ出  
ツル方然ルヘキヤニ存ス然ラシシテ此ノ時機ニ際シ尙小刻  
ミ的ナル交渉ヲ繰リ返シ居リテハ結局先方ニ引摺ラル結果  
トナルノ惧アリ且又在英大使來電ニ依レハ英國方面ノ空  
氣モ最近相當動搖ノ兆アルモノノ如ク當地トシテモ議會ノ  
接近等此ノ上交渉ヲ長引カシムルコトハ面白カラサルヘク  
其ノ中何レカノ方面ヨリ豫期セサル「ヒツチ」ヲ生シ會議  
ノ前途ニ暗影ヲ投シ來ル無キヲ保シ難シ以上篤ト御賢察ノ  
上明後二十日先方ト會談ノ運ト相成得ル様大至急何分ノ儀  
御回電相成度シ

573 昭和8年11月19日 広田外務大臣より  
沢田日印会商代表宛(電報)  
インド側綿布輸入に際する品種別輸入割当比

率問題につき我が方最終案訓令

本省 11月19日発

移牒第二一八號  
至急

貴電(移牒第二一七號)ニ關シ

一、問題解決ノ關鍵力晒ノ比率ニ在ルコト御來示ノ通リニシ  
テ政府ニ於テハ諸般ノ事情ヲ斟酌シ大體二割見當ヲ確保  
シ度キ意図ニ有之從テ今次御來示ノ如ク先方提案比率其  
ノ儘ヲ認メ之ニ全量ノ一割ニ相當スル「アラウワーンズ」  
ヲ配セシムルノ案ハ當方トシテモ考慮シ居リタル次第

ニシテ十八日當業者側一部ヲモ說得此ノ程度ナラハ當業  
者ヲ納得セシメ得ルノ確信アリ旁々御來示ノ通リ本案ヲ  
以テ我方最後案トナスコトニ異存ナン

二、右ノ如ク我方力既ニアツサリ先方ノ四品種別及各品比率  
ヲ其ノ儘容認スル妥協的精神ニ鑑カミ先方ニ於テモ右全  
量一割ヲ認ムル様極力御交渉アリタン

三、右比率ノ問題ト爲替、「ビルマ」、雜貨等ノ問題ヲ一併

提出ノ貴案中爲替ニ付テハ先方カ此ノ際取急キ解決ヲ唱  
ヘサル限り後廻シトスル方本件妥結ノ爲安全ナラスヤト

574

昭和8年11月22日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

品種別輸入割当比率などに対するインド側意  
向を踏まえた綿布問題に関する我が方最終案  
提示について

別電 十一月二十二日着沢田日印会商代表より広田

外務大臣宛(移牒第二二六号)

本省 11月22日着

## 移牒第二三四號

貴電（移牒第二一八號）ニ關シ

## 二十一日第一四回本會議開催

先ツ本官ヨリ別電（移牒第二二六號）冒（頭）記載ノ通今回我方最終案提議ノ趣旨ヲ述ヘタル上本案ニ依リテ日本側ハ多大ノ困難アルニ拘ラス會議ノ成功ヲ確保セントスル誠意ニ基キ出來得ル限り最大ノ讓歩ヲ爲スモノナリト補足シテ印度側カ之ニ何等修正ヲ加フルコトナク我方案ヲ受諾セラレントヲ望ム旨ヲ述ヘ次テ提案各項ヲ讀ミ上ケ第一項ニ付特ニ印度政府カ我方提案ノ移讓率ヲ受諾スルコト絕對ニ必要ナリトテ綿布輸入量ノ品種別割當ハ日本綿布ノ印度輸入ヲ二重ニ制限シテ協定輸入量ヲ單ナル紙上ノ「クオーダ」ニ終ラシムルヲ以テ印度側提案ノ品種別割當ニ對シテハ我方政府ハ（今）日尙主義上强硬ナル反對意見ヲ保持スル所ナリ然レトモ日本代表ハ會商妥結ノ熱誠ナル精神ニ基キ難キヲ忍ソテ印度側ノ移讓率ニ關スル我提案受諾ヲ條件トシテ割當率ニ關スル印度側提案ヲ受諾セントスルモノナ

リ本移讓率力許與セラルニ非サレハ商取引ノ實行ニ多大ノ不利ヲ釀シ且政府ノ輸出統制ヲ甚シク困難ナラシムル力故ニ印度側ノ我方提案受諾ハ絶對ニ必要ナリト説明シタリ次ニ提案第二項ニ付第一項ニ關シ云ヘル如ク幅廣ノ「アロウアンス」ヲ有スルコトカ四億ノ「クオーダ」ヲ「ペーパー、クオータ」ニ終ラシメサル爲ニ絶對必要ナレハ此ノ點ニ關シテハ日本側ハ全「クオーダ」ノ一年分ノ一割ノ移讓率ヲ要求スルコトヲ必要ト認メ曩ニ提議ノ我方提案ヲ維持スルモノナレトモ印度側カ我方今回提案ノ第一項ヲ受諾スルニ於テハ之亦會議ノ成功ヲ期スル精神ヨリ枉ケテ印度側提案ヲ承認セントスルノ趣旨ナリトノ説明ヲ附加シ更ニ第三項ノ説明ノ後ニ日本側カ前述三條項ニ關スル印度側主張ヲ認メントスルニ付種々ノ困難ヲ侵シ會議ノ成功ヲ計ル誠意ニ出テタルモノナルカ提案中ニ説明セル處ノ如ク日本側カ前述三條項ニ關スル印度側提案受諾ノ準備有リト云フハ印度側ニ於テ我方提案第一項ヲ何等ノ修正ヲ加フル事無ク受諾スル事ヲ條件トセルモノナリトノ點ヲ特ニ明カニシ置キ度從テ印度側ニ於テ我方提案第一項ヲ其ノ儘承認セサル場合ニハ日本側ハ十一月九日ノ第一二回會合ニ提議セル我方提

案ノ地位ニ復歸スルノ權利ヲ留保スルモノナリト説明シ最後ニ以上ノ提案ハ日本代表部ノ深思熟慮ノ結果ニ基クモノニシテ日本側ノ駆引無キ處ヲ全部披瀝シテ提議シタルモノナリ從テ冒頭述ヘタル如ク本日ノ提案ハ日本ノ確定的且最終的提案ニシテ會議ヲ速ニ成功ニ終ラシメントスル念慮ニ基ケルモノナレハ印度側ニ於テモ同一ノ精神ヲ以テ右日本側提案ハ何等ノ修正無ク其ノ儘之ヲ受諾サレン事ヲ要望スルモノナリト述ヘ日本ノ棉花買付量ト綿布輸入量トノ關聯主義認及最高制限量四億碼ノ受諾ハ總テノ案件ニ關シ兩國政府カ完全ナル最終的妥結ニ達スル事ヲ條件トスルモノナリ而シテ此ノ點ハ本會議中自分ノ繰返シ明カニシ置ケル處ニシテ印度側代表ハ充分我方立場ヲ了解シ居ルモノト信スル旨ヲ附言シ置ケリ

「ボア」ハ日本側カ前回ノ印度側提案ヲ慎重ニ考慮セラレタルコトヲ諒トスルモ本日ノ日本側提案ハ廣汎ナル範圍ニ亘リ居レルヲ以テ充分ノ考究ヲ爲セル後ニアラサレハ何等ノ回答ヲモ爲シ得ス然レトモ日本ノ最後案ト印度ノ最後案ノ受諾ハ印度側ノ甚シク困難トスル處ナリト述ヘ尙目下議

（別電）

△  
秘書第111次会  
(附録)

The Japanese delegation have examined the latest proposals of the Indian delegation with utmost care and attention and are now ready to put forward the proposals which they regard as final and definitive. We have arrived at a stage where our two delegations should endeavour to expedite the successful conclusion of the present negotiations without further detailed discussions. This view, I trust, is shared by the Indian delegation. It is precisely in this spirit that the Japanese delegation have formulated the proposals which I am going to lay before you. It is our sincere hope that in the interest of settlement, the Indian delegation will accept them without modification.

Proposal 1. Classification of the quota into categories.

The Japanese delegation are ready to accept the

proposal of the Indian delegation concerning the classification of the quota of cotton piece goods into four categories and their percentages on condition that the Indian delegation accept without modification the following proposal of the Japanese delegation concerning the allowance transferable between categories. "The allowance of 10 per cent of the total yearly quota of cotton piece goods should be made transferable between categories."

It is to be understood that the percentage allotted to each category should be computed on the total yearly quota of cotton piece goods and not on the half yearly quota of the same.

Proposal 2. Division of the quota into two periods. On condition that the Government of India are ready to accept without modification proposal 1, the Japanese delegation are ready to accept the proposal of the Indian delegation that the maximum of 10 per cent of the half yearly quota should be made transferable

between the two periods of a year as well as between the second half of a year and the first of the following year.

Proposal 3. The quota and Indian raw cotton.

On condition that the Government of India accept without modification proposal 1, and on condition that

agreement is reached on all other points, the Japanese delegation are ready to accept the proposal of the Indian delegation that the maximum quota of 400,000,000 yards should be linked with 1,500,000 bales of Indian raw cotton to be purchased by Japan in a year. This acceptance is contingent upon the acquiescence of the Indian delegation in the Japanese proposal that if the quantity of raw cotton to be purchased by Japan in any

year should exceed or fall below 1,000,000 bales, the minimum quota of 325,000,000 yards<sup>(yards \*)</sup> should be increased or reduced at the equal rate of 1,500,000 yard per 10,000 bales.

It is to be understood that should Japan in any

year purchase Indian raw cotton more than 1,500,000 bales, the quantity of raw cotton thus purchased in excess of 1,500,000 bales should be made transferable to the quantity of raw cotton to be purchased in the following year for the purpose of calculating the relevant piece goods quota.

Proposal 4. Exchange Fluctuation.

In view of the fact that the Japanese delegation have expressed their readiness<sup>(readiness \*)</sup> to accept the Indian proposals on essential points as mentioned above, the Japanese delegation request that the Indian delegation would withdraw their previous proposal concerning the measures to be taken in the event of the exchange fluctuation in the future.

Proposal 5. Specific duties on miscellaneous goods.

The Japanese delegation accept in principle the Indian proposal that specific duties should be made applicable to certain of the miscellaneous goods which are imported into India from Japan. The Japanese

delegation desire to put forward the following proposals in this connection.

1. In regard to miscellaneous goods as in the case of cotton piece goods, the Government of India would give an assurance that they would accord the most-favoured-nation treatment de jure and de facto to Japanese goods in respect of customs duties or otherwise. It is further requested that the assurance to be given by the Government of India in this respect should be placed on record in the minutes of the present negotiations.

2. The Government of India would declare their readiness to agree to insert in the treaty to be concluded a provision to the following effect, and the declaration to that effect should be placed on record in the minutes of the present negotiations.

“In case either Japan or India desire to raise the rates of customs duties or to modify tariff classifications or otherwise to revise the customs tariff, the country so desiring shall have due regard not to affect seriously

the trade interests of the other country. Should the modification of the customs tariff by either country affect the trade interests of the other country in any appreciable measure, the two countries agree that upon the request of the country so affected, they shall enter into negotiations with the object of adjusting the trade interests of the two countries.

#### Proposal 6. Separation of Burma.

The Japanese delegation deem it unnecessary to enter into any definite agreement in this respect until such time as Burma will be actually separated from India. For this reason, they request that for the time being, the Indian delegation withdraw their proposal on this subject.

#### Proposal 7. Prohibition and restriction of export and import.

The Japanese delegation desire that the Government of India would agree to the insertion in the treaty to be concluded of an article concerning the prohibition or

restriction to be imposed or maintained on importation or exportation between the two countries on the principle of the most-favoured-nation treatment.

#### Proposal 8. Enforcement of the agreements.

As regards the date and the procedure of procedure of putting the agreements into force, the Japanese delegation are ready to discuss with the Indian delegation as soon as the above proposals are accepted by the Government of India.

~~~~~

575 昭和8年11月26日 沢田田印余商代表より
　　広田外務大臣宛(電報)

繩布問題に關する我が方最終案上ひやくマハニ
側首席代表の協議上ひやく

ハニー

発

本省 11月26日着

◇ 移牒第1111八號

昨11十五日「米一ト」來訪過田提出ヤハシタル日本案ハ重
大ナル提案リト、業者ノ意見ヲヤ徵ベル要アルヲ以テ來週

田曜日相賀、甲谷陀及「マムラバ」等ノ當業者ヲ當地ニ召集シ協議ノ豫定ナシハ其ノ結果多分火曜日ニ次回會合ノ開催ヲ求ムル、至ルヤモ知ノベト述べタル上品種別移譲率一割リ付ケハ、一應電報ヲ以テ各地當業者ノ意見ヲ徵シタルカ何ニヤクカ承認ハ頗ル困難ノ居ソリュト幅くハシクテ本官ハ印度側カ產業保護ヲ主張スルノ趣旨ハ諒ヘバ、印度綿業サ實際保護ヲ必要トスルハ生地綿布リシテ印度ニ於ケル晒ノ製產ハ甚タ少額ニシテ此ノ際特ニ日本ノ犠牲ニ於テ迄之ヲ保護セントスル趣旨ハ之ヲ了解スル能ハズ本來印度ニ我晒ノ需要アノベヨノ本邦ニ於テ晒布ノ製產設備ヲ爲シ其ノ輸入額今日ノ數字ニ達シタルモノナリ我方ハ既ニ關聯問題綿布最高輸入量期別割當及品種別並其ノ割當率等ニ於テ印度側ノ主張ヲ容認シ今日ニ及ヒタルモノナリテ今次我方提案ノ移譲率ハ公正妥當ニテ且ツ最終決定的ノモノナレハ若シ印度側カ萬一之ヲ受諾セサルカ如キ場合ハ會議ノ將來ニ關シ重大ナル問題ニ直面セサルヲ得サルニ至ルベシト思フ而ア述々次テ「ボ」ハ往電(移牒第1116號)我方提案第一末項ノ移譲率計算方法ニ關シ種々質問ノ上假ニ印度側提案ノ「ベーセーネージ」ヲ基礎トセル計算ニ從フ場合「ア

リーチ」ニ付テ之ヲ言ヘハ例ヘハ或年ノ十二月ニ其ノ一ケ年間ノ輸入可能量タル八分ヲ輸入シ更ニ翌年一月ニ同様八分ノ輸入ヲ見ル如キ場合ハ僅ニ二ヶ月間ニ最高一割六分ヲ輸入スルヲ得ヘクスノ如キハ當國當業者ノ忍ヒ難シトスル處ト言ヘルヲ以テ本官ハ我方提案ノ要點ハ各品種ノ輸入ニ關シ品種別割當ト期別割當トニ依ル二重ノ制限ヲ避ケントスルニ在リテ引例セラレタルカ如キ一時多量ノ輸入ヲ可能ナラシメントスル意思ヲ有スルモノニ非サルノミナラス實際上斯ルコトハ到底アリ得サルコトニテ右例證ノ如キ杞憂ニ過キスト述ヘタル處「ボ」ハ日本側提案ニ依レハ右ノ如キ場合ノ起リ得サルニ非スノ如キコトハ之ヲ避ケルコト致シ度シ依テ出來得レハ晒ニ對スル割當率八分ヲ一個（年）ノ取引ノ實績ニ應シテ二期ニ配分シタル上其ノ間ニ適當ノ「アローアンス」ヲ附スルコトニ修正セラレ度シト考ヘ居ル旨ヲ答ヘタルヲ以テ本官ハ實需ニ應シ變遷シツアル輸入量ヲ過去ノ數字ニノミ依リテ配分スルカ如キハ實情ニ適セス何レニスルモ我方提案ノ一割ノ移讓率ハ最終案ナレハ之ヲ慎重ニ考慮セラレ度シト念ヲ押シ置キタリ

次テ「ボ」ハ我方提案第五項雜貨ノ從量稅ニ關スル最惠國

待遇問題ニ關シ印度側ニ於テハ實際上ニモ差別待遇實行ノ意思ナシ然レトモ日本ノミヨリ輸入スル商品ニ對シ國內產業ヲ滅亡ヨリ救フ必要アル場合日本品ノ輸入ヲ阻止セシメントスルニ非サルモ當該商品ニ高率關稅ヲ課スルカ如キ場合ニ立至ルモ已ムヲ得ス之レ本來從量稅ノ設定セラル理由ニ非スヤト言ムヘラ以テ本官ハ日本側ニテハ關稅率以外如何ナル方法ニ依ル差別的待遇ニモ反對ナリ我方ハ日本商品ニ對スル印度側ノ實際上ノ措置ニ對スル動機如何ヲ問題トスルモノナリト說明セル處「ボ」ハ如何ナル場合ニモ高率關稅ヲ賦課セスト言フ保障ヲ與フルコトハ困難ナリト述ヘ同項後段ノ商議ノ通告ニ關スル條項（往電（移牒第二二六號）第五項ノ二ノ前段）ニ示セル相手國ノ產業ニ重大ナル打擊ヲ與ヘサラシメント言フノ規定ニ關シテモ自國產業保護ノ爲適當ノ措置ヲ採ルモ已ムヲ得サルニ非スヤト言ヘルヲ以テ本官ハ日本側ハ印度ノ國內產業保護ノ趣旨ニ反對セントスルモノニ非ス相手國產業ノ利害ニ適當ノ考慮ヲ拂フヘシトノ規定ヲ置カントスルモノニシテ英獨新條約中ニモ同様ノ條項アリ該規定ノ根本ノ精神ハ關稅ノ引上カ相手國產業ニ重大ナル打擊ヲ與フル如キ場合ニハ豫メ商議スヘ

シト云フニ在リト説明シタル處「ボ」ハ此ノ趣旨ノ商議ニハ異議アルニ非スト述ヘ居リタリ次ニ「ボ」ハ緬甸分離後ノ問題（往電（移牒第二二六號）第六項）ニ關シ何故ニ日本側カ之ヲ重視スルヤ其ノ眞意ヲ了解シ難シト言ヘルヲ以テ本官ハ本來我方提案ノ趣旨ハ今回ノ協定ヲ出來得ル限り簡明ニシテ且包括的ナル條約ト爲サントスルモノニシテ根本問題ニ關係疎キ此ノ種問題ハ之ヲ除外ス可シト云フニアリ且我當業者ハ現實四億碼ノ輸入量確保ヲ要望シ居レルヲ以テ本項ノ如キ規定ヲ以テ印度側カ之ヲ減少セシメントスルカ如キ感ラ與フル提案ヲ爲セハ結局全體ニ面白カラサル結果ヲ來ス廣アルヲ以テ未タ確定シ居ラサル事實ヲ基礎トスル本項ノ如キ規定ハ之ヲ削除ス可シト云フニアリト説明シタル處「ボ」ハ然ラハ分離後モ本協定ニ依リ印度ヘノ輸入量ニ緬甸ヲ含ミ其ノ儘有效ナラシムルカ又ハ分離ノ實現セラレタル際更ニ商議スルコトト規定スルカ何レカノ方法ヲ考慮スルコト致度シト述ヘタリ

次ニ輸出入ノ禁止制限ニ關スル條項ニ關シ本條項ノ規定ハ其ノ必要ヲ認ムル能ハス現ニ日本側ハ米ノ除外ヲ留保セラル趣旨ト承知ス若シ印度側ニテモ同様ノ留保ヲ要求スル

コトトナレハ本條項ハ何等ノ意義ナキコトトナル可シト述ヘタル上要スルニ日本側ハ全般ノ事項ヲ包括スル最惠國待遇ノ取極ヲ取附ケ度キ趣旨ニ非スヤト言ヘルヲ以テ本官ハ關稅ニ關スル最惠國待遇ノ規定ノ外ニ全體ヲ包括スル同様規定ヲ挿入シ度キ趣旨ナリト答ヘ置キタリ

次ニ「ボ」ハ日本ノ銑鐵關稅引上問題ヲ持出シタルヲ以テ本官ハ同品ノ關稅率ハ差當リ之レ以上引上ヲ見ルカ如キ事ナカルヘシト答ヘ置キタリ

『更ニ日本船舶ノ印度沿岸航路開始ニ關シ「ボ」ハ緬甸、「マドラス」間ニ不定期船ノ介入アリテ印度船舶ヲ壓迫シ居レルヲ以テ今回ノ條約ノ成立ヲ見タル上ハ當業者ヲシテ右航路ヲ阻止セシムル様日本政府ニ於テ「インフルーエンス」ヲ用ユヘシト云フ紳士協約ノ趣旨ノ公文交換ヲ實行シ度シト述ヘ』

最後ニ爲替ニ關スル條項ハ是非印度案ノ如ク之ヲ規定スル事トシ度シト特ニ要望スル處アリタリ依ツテ本官ハ要スルニ日本ハ主要問題ニ付妥結スル事ヲ主眼トシ居ルモノナリ品種別ノ移讓率ノ問題ニ付印度側カ受諾セサレハ他ノ問題ニ付何等觸ルル事能ハス爲替ノ問題モ亦印度側カ日本最後

ノ主張ノ如ク之ニ關スル條項ノ削除ヲ必要條件ト爲シ居レ

リ萬一印度側カ我最後案ヲ受諾セサル如キ場合勢ノ赴ク所

所「ボ」ハ萬一會商カ中止セラル如キ場合ニハ兩國間幾

多ノ通商上ノ制限乃至報復手段行ハレ不測ノ損害ヲ惹起ス

ルニ至リ遺憾至極ノ事ナリト言ヘルヲ以テ右ハ自分モ同感

ナレトキ印度側カ日本最後案ヲ受諾セストセハ日本側トシ

テモ遺憾ナカラ會議ヲ進捗セシメ得サルカ如キ事ニ立至ラ

ソ事ヲ懸念シ居レリ依テ自分トシテハ印度側カ慎重審議シ

テ此ノ際我提案ヲ受諾セん事ヲ切望セサルヲ得スト述ヘ置

キタリ

右ノ内沿岸貿易ニ關スル公文交換ノ件ニ關シ至急御回電相

成度シ

576 昭和8年12月1日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

今次会商におけるインド側提案はすべてイン
ド側の自由意志によるものである旨英國政府

より申越しについて

(別電)

移牒第二五一號

本省 12月1日発

印度政府カ財政自主權ヲ有スルハ既定ノ事實ニシテ同政府ハ之ニヨリ他國トノ關係ヲ律スルノ自由ヲ有シ單ニ日本ノ利益ノミヲ考慮シ商議スルノ義務ヲ負フモノニ非ス從テ他國殊ニ印度カ政治經濟上密接ナル關係ヲ有スル國ノ利益ヲ考量スルハ當然ナリ又印度政府トシテハ英國政府トノ關係ヲ考慮スルニ當リ何等英國政府ノ指圖又ハ政治的「ブレッ
シュア」ヲ受クルモノニアラス他方英國政府ニ於テモ憲法上印度關稅政策ヲ左右スルノ地位ニアラサル限り自己ノ利益モ亦之ヲ印度政府ニ對シ主張セサルヘカラス然レトモ英國カ英帝國以外ノ他國ヨリ不利ナル地位ニ置カルルカ如キミナラス「オタワ」協定ニ依リ印度ニ對シ自國ノ利益考慮方ヲ要求シ得ル特殊ノ權利ヲ有スルモノナリ

印度政府ハ「シムラ」及「デリー」會商ニ於テ當初豫期以上ニ日本ニ對シ多大ノ讓歩ヲナシ而カモ右ハ英國ノ利益ヲ犠牲トシテナシタルコト明カナリ右理由ニ依リ英國政府ハ印度政府カ財政自主權ノ行使ニ當リ撰フ方法ニ付日本政府

移牒第二五〇號

本大臣發在英大使宛電報(移牒第二三四號)ニ關シ

十一月三十日在本邦英國代理大使「スノー」次官ヲ來訪同電會談ノ際本大臣カ日本當業者間ニハ印度政府今次ノ提案ハ英國側當業者ノ「プレツシユア」ニ依ルモノニシテ印度政府ノ自由意思ニ基キ決定セラレタルモノニ非サルヤノ意見ヲスラ抱クモノアル旨ヲ述ヘタルニ對シ印度政府ハ自由意思ニ基キ財政措置ヲ講スルノ完全ナル關稅自主權ヲ有スル等印度ノ法律上ノ地位ニ關シ「ス」カ說述セル次第ヲ記載セル「ステートメント」ヲ手交スルト共ニ右ニ關スル英國政府ノ見解ニ付日本政府ノ注意ヲ喚起スル様本國政府ヨリノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ別電(移牒第二五一號)ノ如キ趣旨ノ覺書ヲ提示セリ

577 昭和8年12月5日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

ト商議スル能ハス但シ英國政府ハ適切ナル事由ニ依リ英國ノ商業上ノ要求ヲ印度政府ニ主張スルノ自由ヲ有セストナスガ如キ「サヅエッショソ」ニ承服スル能ハス

綿布問題に関する我が方最終案へのインド側

最終対案について

別電 十二月五日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛(移牒第二六〇號)
右インド側最終対案

578 昭和8年12月5日 白川外務大臣より
本省 12月5日発

移牒第二五八號

往電(移牒第二五三號)ニ關シ

本四日第十五回本會議開催

「ボア」ハ別電(移牒第二六〇號)ノ「ステートメント」ノ通り(「プロポーザル」一ヨリ同八迄ハ我最終案記載ノ

別電

十二月一日発広田外務大臣より沢田日印会商

右英國政府申越し

本省 12月1日発

ノ主張ノ如ク之ニ關スル條項ノ削除ヲ必要條件ト爲シ居レ

リ萬一印度側カ我最後案ヲ受諾セサル如キ場合勢ノ赴ク所

所「ボ」ハ萬一會商カ中止セラル如キ場合ニハ兩國間幾

多ノ通商上ノ制限乃至報復手段行ハレ不測ノ損害ヲ惹起ス

ルニ至リ遺憾至極ノ事ナリト言ヘルヲ以テ右ハ自分モ同感

ナレトキ印度側カ日本最後案ヲ受諾セストセハ日本側トシ

テモ遺憾ナカラ會議ヲ進捗セシメ得サルカ如キ事ニ立至ラ

ソ事ヲ懸念シ居レリ依テ自分トシテハ印度側カ慎重審議シ

テ此ノ際我提案ヲ受諾セん事ヲ切望セサルヲ得スト述ヘ置

キタリ

右ノ内沿岸貿易ニ關スル公文交換ノ件ニ關シ至急御回電相

成度シ

576 昭和8年12月1日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

今次会商におけるインド側提案はすべてイン
ド側の自由意志によるものである旨英國政府

より申越しについて

(別電)

ト商議スル能ハス但シ英國政府ハ適切ナル事由ニ依リ英國ノ商業上ノ要求ヲ印度政府ニ主張スルノ自由ヲ有セストナスガ如キ「サヅエッショソ」ニ承服スル能ハス

綿布問題に関する我が方最終案へのインド側

最終対案について

別電 十二月五日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛(移牒第二六〇號)
右インド側最終対案

578 昭和8年12月5日 白川外務大臣より
本省 12月5日発

移牒第二五八號

往電(移牒第二五三號)ニ關シ

本四日第十五回本會議開催

「ボア」ハ別電(移牒第二六〇號)ノ「ステートメント」ノ通り(「プロポーザル」一ヨリ同八迄ハ我最終案記載ノ

順序ニ依ルモノナリ) 印度側ハ慎重審議ノ結果日本最終案ヲ無修正ニテ受諾スルコトヲ得サルモ其ノ理由ノアル所ヲ好ク諒解セラレタントノ前置ヲ附シ我方提案各項ニ對スル印度側ノ回答内容ヲ一々讀上ケタルヲ以テ本官ハ印度政府カ重要ナル諸點ニ付日本側最終案ヲ受諾シ得サリシハ甚タ遺憾ニシテ失望禁スル能ハス右案ニ於テハ日本ハ幾多ノ讓歩ヲナシ最大限ノ妥協案ヲ提案シタルモノナルニ拘ラス印度側カ之ヲ受諾スルニ至ラス會議ハ茲ニ重大ナル時期ニ達シタリト信スル次第ナルカ會商妥結ノ精神ニ鑑ミ印度政府ハ此ノ回答ヲ受諾スルコトヲ得サルヘキヤト質シタルニ「ボ」ハ過去ニ於テ二週日ノ間ニ熟考ヲ重ねタル結果本日此ノ回答ヲ提示スル次第ニテ印度側トシテモ出來得ル限りノ讓歩ヲナシ來レルモノナレハ右日本案ハ印度側トシテ再考ノ餘地ナシ謂フ迄モナク印度側回答ハ政府及民間側顧問凡テノ意見ヲ求メ之ト審議ノ末練リニ練リテ今日ノ決論ニ達シタルモノニシテ最早變更ノ餘地ナシト明言セリ

依テ本官ハ印度側カ再考ニ同意セサルハ頗爾遺憾ナリ印度側回答ハ本國政府ニ送達シテ其ノ考慮ヲ求ムルコトトシタク必要ノ場合關係官ヲシテ技術的問題ニ付質疑ヲナサシム

得ル可能性アリトハ私の會談ノ際「ボ」ノ説明セル處ナリ) 然ルニ印度案ハ過去ノ實績ニ基キタルモノリテ貿易ノ自然ノ動キハ一年中順次適量ノ輸入ヲ見ルヲ例トシ居ルヲ以テ印度案ハ決シテ勝手ナル提案ニアハスト説明シタリ

(別 電)

トニー 発
本 省 12月5日着
◇ 移牒第一六〇號

At the outset, I should like to express to your Excellency our regret at the delay in communicating our reply to the proposals presented to us on 21st November. The far reaching character of those proposals, however, as well as the terms in which they were framed, made it incumbent on the Government of India to accord them the most anxious and careful consideration even at the cost of some delay. If as a result of such consideration the Government of India find they are unable to agree to the proposals put forward

ルコトアルヘシト思フカ差當リテノ問題トシテ印度側ハ爲替下落ニ對スル條項設定ヲ主張セラル處其ノ規定ノ形式ニ付何等力具体的の考案アリヤト質セルニ「ボ」ハ右ハ考慮中ナル處明後日迄ニ提示スルコトヲ得ヘント答ヘ更ニ本官ヨリ輸出入禁止及制限ニ關スル條項ニ付印度側ハ主義上)ヲ承認スト云ハル處本來日本ハ米ニ關スル限り之カ除外例ヲ求ムル趣旨ナルカ此ノ點ヲモ考慮セラレタル上右條項ヲ承認セントスルモノナリヤト念ヲ押シタル處「ボ」ハ本條項ニ其ノ除外例ヲ認ムルカ如キハ規定ノ全体ヲ弱ムルコトナルヲ以テ斯ル條項ヲ設クル要ナキニ至ルヘシト思ハルカ日本側ノ除外例ヲ求メラルハ米ノミナリヤト聞キタルヲ以テ本官ハ日本側丈ニ米ノ除外例ヲ設ケ度キ趣旨ナリト答ヘ「ボ」ハ右ハ考慮ノ上回答スヘシト答ヘタリ

最後ニ我最終案ノ一ノ末項(往電(移牒第二六〇號))中ノ「プロポーザル」(參照)品種別割當率ニ關シ「ボ」ハ過日私的會談ノ際説明シタル如ク日本案ハ或短期間ニ二年分ノ品種別割當量ヲ輸入シ得ルコトモアリ得ヘキコトトナルモノナリ(例ヘハ或年ノ後半期ノ末ニ一年ノ割當量ヲ輸入シ次年ノ前半期ノ初メニ其ノ年ノ一年分ノ割當量ヲ輸入シ

by your Delegation, they nevertheless hope that you will appreciate the grounds on which they have taken their stand and will be able to accept the settlement they have proposed in the interests of both countries. They have now to offer the following remarks on your proposal.

Proposal 1. The Government of India regret that they are unable to agree to any modification of the proposal put forward by the Indian delegation on 15th November either in respect of the percentages allotted to each category or the limits within which those percentages might be varied. Nor are they able to accept the proposal (which they understand is the intention of the final sentence of the First Proposal presented by the Japanese delegation on 21st November) that though the total quota would be divided into two equal half yearly installments, the quantities allotted to individual categories should not be subjected to such division.

They would point out that the percentage allotted to bleached goods, viz. 8%, which could be increased to 8, 8% under their proposal, is based on the average imports of such goods for the 3 years ending 1931—1932.

Proposal 2.

The Indian delegation note that the Japanese delegation have conditionally accepted the proposal that the piece-goods quota should be divided into two equal half-yearly instalments with the proviso that it would be permissible to transfer from one half year to another a quantity not exceeding 10 per cent. of the half yearly quota. The power of transfer may be more precisely defined in the following terms : -

"The quota for each year shall be allotted equally between the two halves of the year, provided that-

(1)From the quantity to be exported in any half of a year an amount not exceeding 5 per cent. of the quota for that year may be deducted and added to the quantity to be exported during the succeeding half year and

(2)To the quantity to be exported during any half of a year (other than the last half year of the period of agreement) an amount not exceeding 5 per cent. of the quota for that year may be added and deducted from the quantity to be exported during the succeeding half year."

Proposal 3.

The Indian delegation regret that they are unable to accept the proposal of the Japanese delegation that the basic piece-goods quota of 325 million yards should be reduced at the rate of 1 and 1/2 million yards instead of 2 million yards for every 10,000 bales by which Japan's purchases of raw cotton for her own consumption fall short of 1,000,000 bales.

Proposal 4.

The Government of India regret that they must adhere to their proposal for the insertion of a clause in any agreement which may be concluded reserving the right to impose special rates of customs duties on Japanese

goods in the event of a further depreciation in the exchange value of the yen relatively to the rupee.

Proposal 5.

The Indian delegation wish to point out that in the Joint session of 12th October it was stated that the Government of India, in deference to the wishes of the Japanese delegation, were prepared at the cost of some inconvenience to employ methods to safeguard Indian industries which would obviate discriminatory action against Japan and that they considered that the most suitable method to employ was that of imposing specific duties applicable to imports from all countries. The Indian delegation did not communicate this decision of the Government of India as a proposal for discussion.

They are prepared to agree that any general most-favoured-nation clause which may find a place in the agreement to be concluded between the two countries should apply equally to all commodities and to all forms on duties ; but they are not prepared to include,

in respect of specific duties, any special assurance of the nature proposed by the Japanese delegation.

As regards proposal 5, sub-head 2, the Government of India would be prepared to subscribe to a declaration in the following terms : -

"Subject to the reservation by both countries of the right to make such changes in their tariffs as may be necessary in their own interests, the two countries agree that, should any modification of the customs tariff by either country result in the trade interests of the other being adversely affected in any appreciable measure, they shall, upon the request of the country so affected, enter into negotiations with the object of reconciling, as far as possible, the trade interests of the two countries".

Proposal 6.

The Indian delegation are prepared to withdraw their proposal for a reduction of the quota in the event of the separation of Burma, provided it is accepted that

the terms of the agreement shall remain in force throughout its full term whether or not Burma is separated.

Proposal 7.

Provided it is understood that the restriction of Japanese imports of cotton piece-goods to the prescribed quota would not be affected thereby, the Government of India have no objection to the insertion of a clause providing for mutual most-favoured-nation treatment in respect of prohibitions and restrictions of imports and exports. They would, however, point out that they are still of opinion that such treatment was provided by the terms of the convention which has recently expired.

Proposal 8.

The Indian delegation are prepared to accept the proposal of the Japanese delegation.

578 昭和8年12月(5)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

大阪綿業団体によるイング綿花不買再確認決議の今次会商に及ぼす悪影響等につきイハ

首席代表申越しにつけ

アリ一 本省 12月5日着 発

○ 移牒第二五九號
(至急)

往電(移牒第二五八號)ニ關シ今十二月四日ノ會議後「ボ」ノ求ニ應シ同氏事務室ニテ會談ス其ノ要領左ノ通

先ツ「ボ」ヨリ印度側ニ於テハ會議開催以來釀成サレタル良好ナル空氣ヲ繼續シ此ノ良好ナル空氣ノ内ニ圓滿ナル妥結ヲ得タシトノ願念ヨリ印條約期間滿了後ニ於テモ更ニ一ヶ月延長ノ暫定取極ヲ結ヒ更ニ之カ終了後ニ於テモ事實上日本品ニ對スル差別的待遇ヲ與フルカ如キ措置ヲ差控ヘ今日ニ至レリ實ハ過日自分カ貴代表ト私の會談ヲナシタル當時ニ於テハ(往電(移牒第二三八號))自分ハ何トカンテ出來ル丈妥協點ヲ見出シ度シトノ希望ヲ有シ居リタル次第ナリ然ルニ過日大阪綿業團體ニ於テハ印度側カスク圓滿妥結ニ達シ度キ精神ヲ以テ努力シ商議ニ當リ居リシニ拘ラ

ズ棉花不買ノ決議ヲ更ニ確認シ之ヲ繼續嚴守スベシトノ最^(再)

決議ヲナシタルコトハ印度側官民ニ對シ異常ノ衝動ヲ與ヘ醸釀セラレ居リタル良好ナル空氣ヲ極メテ惡化セシメタリ素ヨリ右決議ニハ豫テヨリ貴代表ノ度々ノ説明ニ依リ日本政府ハ無關係ナルコトヲ承知シ居ルヲ以テ印度政府ハ日本政府ニ對シ何等他意ヲ有セズ只日本政府カ折角彼等綿業者ノ利益ノ爲印度政府ト商議中ナルニ拘ラズ當業者カ此ノ種決議ヲナシ印度側ヲ脅迫セントスル態度ニ出テタルコトヲ頗ル遺憾トス印度政府ニ於テハ日本綿業團體此ノ態度ニ出ツル以上最早已ムラ得サルコトトシ過クル四日ニ亘リ慎重審議ヲ重ネ印度棉花栽培業者ニハ必要ノ場合ニハ財政上ノ援助ヲ與ヘ之力救濟ノ途ヲ講スルコトニ決シタリ

次ニ會商力著シク永引キ何時解決ニ至ルヤ見据ヘツカサル關係上最近ニ至リ伊、白、蘭、獨ノ四國ヨリ綿布關稅ノ引下ヲ執拗ニ求メ來リ居リ又印度當業者ヨリハ内地工業ノ保護方ヲ強調シ來リ居ル處印度政府ニ於テハ會商未了ノ事實ヲ以テ何時迄モ彼等ノ取扱ヲ退ケルコト最早不可能ナル情勢ニ立至レリ以上二點ハ本日印度側ノ回答ニ關聯シ篤ト貴代表ニ申上日本政府ノ承知ニ入レ置キタク態々御立寄ヲ煩

シタル次第ナリト述ヘタリ
依テ本官ヨリ會議ノ長引クニ從ヒ派生的事實ノ發生スルコトハ往々アルコトニシテ之ニ依リ大局ヲ誤マラサル様措置セラレタク要ハ双方カ圓滿妥結ニ達セントノ真摯ナル希望ヲ有スルコトナル旨ヲ述ヘ更ニ會議終了ノ時機見据ヘツカサルヲ以テ諸外國ヨリノ稅率引下要求及民間ヨリノ内地工業保護方申請ニ對シ措置スルノ必要アリトノ點ニ關シ本官ハ會議長引クト謂フモ今日迄日印双方トモ誠意ヲ以テ會議ノ促進ヲ計リ何レトモ故意ニ會議ヲ遷延セントシタルコトナシト認メ居ル次第ナルカ我方ハ東京ニ照電ノ必要上時日ヲ要シタルコトアルモ貴方ハ現地ニ於テ直ニ審議シ得ルニ拘ラス我最終案ニ對シ回答ヲナス爲二週間ヲ費セリ會議ノ長引クハ日本側ノミノ爲ニアラス况シ日本代表部ハ遙々日本ヨリ來レルモノニシテ商議ノ迅速ナル妥結コソ望マシケレ之カ遷延ヲ欲スルモノニアラス然シテ印度側ハ會商中日本品ニ對シ差別的待遇ヲナスノ意囑ナキ旨義ニ述ヘラレタルカ本會商ノ成否モ近々決スヘキモノト信セラルル今日印度側ハ此ノ情勢ニ拘ラス尙前記關稅引上乃至保護ノ措置ヲ急速ニ執ラル所存ナリヤト訊シタルニ「ボ」ハ大阪綿

業團ノ今回ノ決議ハ數日中ニ空氣ヲ極メテ惡化セシメタル旨ヲ繰返シ諸外國品ニ對シ關稅引下及内地工業保護ノ問題ハ今速急ニ行フベシト謂フ趣旨ニ非ストテ語ヲ濁シタル上兎ニ角以上ノ二點ハ特ニ貴代表ヨリ日本政府ニ御知ラセ願ヒ度シト述ヘタリ

579 昭和8年12月(6)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

インド側最終案受諾の可否につき政府方針決定の上回示方請訓

デリー 本省 発
12月6日着

移牒第二六三號

(至急、極祕)

往電(移牒第二六二號)ニ關シ

先方ニ於テハ右往電ニモ一言セル如ク最近迄何等力妥協ノ途ヲ發見セントノ底意アリタルモノト觀測シ居リタルモ貴電(移牒第二五一號)英國代理大使ノ覺書ハ明カニ同國政府ノ態度硬化ヲ思ハシム次テ我紡績聯合會ノ發表セル印棉

功ニ最早多クノ望ヲ掛ケ得サルヘシト爲シ決裂ヲ豫想スルモノノ如シ英國政府ハ印度政府ヲシテ强硬ナル態度ヲ執ル様勸告セルモノナルヘク日本ノ最後案ヲ受諾出來サルモノト決定セルハ英國政府ハ此ノ上日本側ヨリノ反對提案アルモ之ニ對シテハ最早考慮ノ餘地ナキモノト爲シ居ルモノノ如シトノコトナルカ右情報ノ眞偽ハ俄ニ判定スル能ハスト雖四日ノ會合ニ於ケル「ボ」ノ態度殊ニ會議後ノ談話中棉花栽培業者保護ノ爲財政的援助ヲ爲サムトスル意図ヲ洩シタル點ニ徵スルモ先方ニ於テハ熟議ニ熟議ヲ重ネタル未遂ニ會議ノ決裂ヲ覺悟シ原案固守ノ態度ヲ決定セルモノト觀測セラレ右情報ノ傳フル處ハ其ノ眞ヲ穿テルモノト推察セラル從テ最早之以上ハ細々シキ修正案ヲ提出シテ妥協ヲ試スルカ何レカラ選ハサルヘカラサル事態ニ立至レリ

惟フニ會議ハ既ニ二ヶ月半ヲ經過、其ノ間當方トシテハ總ユル努力ヲ惜マス内地當業者等ノ言動ニ拘ラス出來得ル限りノ協調的方針ヲ維持シ以テ一意會議ノ成功ヲ期待シ來リタルニ意外ノ障礙ヨリ茲ニ一大難關ニ遭遇スルニ至リタル

不買ノ繼續及代表引揚ニ關スル聲明ハ印度ノ朝野ヲ刺戟シ鮮カラス形勢惡化ヲ憂ヒシム

一日夜印度代表部ノ一員タル商務部書記官長ト懇意ナリト稱スル「ステーツマン」ノ歐人記者ヨリ得タル内報ニ依レハ印度政府ハ既ニ最後案ヲ作成、英國政府ニ請訓シ其ノ回答ヲ待チ居ル處最近英國議會ニ於ケル狀勢ニ現ハレタル如キ同國政府ノ强硬ナル態度ニ鑑ミ同政府ハ印度政府ニ對シ之レ以上何等ノ讓歩ヲ爲ササル様勸告スルナラントノ事ニルモノアリタリ察スルニ印度政府ニ於テハ各品種ノ比率ニ付或程度迄我要求ヲ容レ以テ妥協ヲ試ミムトノ意図ヲ以テ英國政府ト打合ヲ遂ケ居リタルモノナラントハ想像セラレタル處ナルモ最近發生シタル意外ノ故障ハ急轉直下印度政府ヲシテ强硬政策ヲ執ラシムルノ已ムヲ得サルニ至ラシメ行動ニ出テ從來「ボア」ノ執リタル態度ト頗ル趣ヲ異ニスルモノアリタリ察スルニ印度政府ニ於テハ各品種ノ比率ニ付或程度迄我要求ヲ容レ以テ妥協ヲ試ミムトノ意図ヲ以テ英國政府ト打合ヲ遂ケ居リタルモノナラントハ想像セラレタル處ナルモ最近發生シタル意外ノ故障ハ急轉直下印度政府ヲシテ强硬政策ヲ執ラシムルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタルモノト見ルヲ至當トスヘシ

四日會議終了後前記「ステーツマン」記者ノ内報ニ依レハ印度政府ノ回答ハ最終的ノモノニシテ日本ノ回答ハ會議ノ成功カ決裂カヲ決スヘキモノナルヘシ印度政府ハ會議ノ成タルモノト見ルヲ至當トスヘシ

ヲ受諾スルカ否カニ關シテハ我當業者内部ニ於テ種々ナル議論ヲ生スヘキハ當地滯在中ノ綿業代表部内最近ノ空氣ヨリ見テモ當然想像シ得ラルヘク一度會議決裂ヲ見ルノ曉ニ於テハ印棉不買ニ關スル彼等ノ結束力果シテ從來ノ如ク繼續シ得ラルヘキヤモ頗ル憂慮セラルル處ナリ

從テ此ノ際取ルヘキ帝國政府ノ態度如何ハ獨リ對外關係ノミナラス對内的ニモ慎重ニ慎重ヲ重ヌルノ要アルハ申迄モノキ儀ト思考セラル就テハ以上所述ノ諸事情並屢次電報ニ依ル當地ノ空氣等慎重御考慮ノ上印度案受諾力否カニ關スル御方針御決定ノ上何分ノ御指圖相顧度シ

580 昭和8年12月7日 広田外務大臣より
沢田日印会商代表宛(電報)

我が方當業者がインド綿花不買撤回を行なえば交渉局面の転換は可能との英國政府申越しについて

本省 12月7日発

移牒第二七五號
往電(移牒第二六八號)ニ關シ

シ極力彼等ヲ說得シ適當ナル聲明ヲ發セシムルコトトナリ居レリ右御含迄

581 昭和8年12月(8)日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛(電報)

我が方インド綿花不買撤回声明を条件に綿布品種別輸入割当移讓率や為替問題などにつき

インド側讓歩を得るよう内交渉方意見具申

(デリー) 発

本省 12月8日着

移牒第二七六號

貴電(移牒第二七五號)ニ關シ
大至急、極秘

本日ノ「ボア」ノ話ハ別段此ノ際印棉不買緩和ノ「ゼスチュー

ア」ヲ示サハ現在以上ノ讓歩ヲ考慮シ得ルモノトハ述ヘ居ラス單ニ過去ノ事ヲ指摘シタルニ過キシンテ御來示ノ「ス

ノウ」ノ話トハ其趣ヲ異ニスルモ其間一脈相通スルモノア
ルニアラスヤト思考セラルルニ付テハ印棉不買ノ撤回聲明
ヲ條件トシテ品種別間ノ移讓率及爲替ノ問題ニ付テハ或程

六日通商局長ヨリ在本邦英國代理大使「スノー」ノ來訪ヲ求メ右往電ノ趣旨ヲ傳へ置キタル趣ノ處七日「ス」ハ同局長ヲ來訪シ本國政府ヨリノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ十月十九日印度側カ日本代表ニ對シ若シ本邦側ニ於テ印棉不買ヲ撤回セハ印度側ニ於テモ更ニ暫定取極再延長ヲナスニ異議ナキ旨ヲ提議シタル際日本側ハ之ヲ拒絕セル次第ナルカ爾來印印度側ハ日本品ニ對シ引續キ事實上右取極存續ノ場合ト同様ノ取扱ヲナシ好意ヲ示シ來レルニ拘ラス日本當業者ハ十一月二十八日印棉不買再認ノ決議ヲナシタルヲ以テ之力爲印度側ノ空氣ヲ惡化セシメタル次第ヲ述ヘ且今日ト雖日本當業者カ虛心坦懷ニ印棉不買ヲ撤回スルニ於テハ局面轉向上未タ遲カラサルニ付右ノ旨ヲ特ニ日本政府ニ強調スル様本國政府ヨリノ訓令ニ接セル次第ヲ述ヘタルニ對シ同局長ハ從來ノ經緯ヲ縷々説明ノ上事實上右申出ノ點ニ付テハ種々ノ困難アルヘキモ何トカ最善ヲ盡スヘキ旨約シ置キタル趣ナルカ幸ヒ阿部紹績聯合會長七日上京セルヲ以テ東京側當業者ヲ同席セシメ同局長ヨリ右ノ次第ヲ申聞カセ說得ニ力メタル處何レモ右趣旨ニ同意セルヲ以テ更ニ大阪方面說服ノ爲七日夜商工次官大阪ニ急行シ次テ八日商工大臣モ下阪

582 昭和8年12月8日 広田外務大臣より

沢田日印会商代表宛(電報)

綿布品種別輸入割当移譲率や為替問題などに

つきインド側より讓歩を得我が方面目を立て
るよう内交渉方訓令

本省 12月8日発

移牒第二七八號

大至急 極秘

貴電（移牒第二七六號）ニ關シ

我方最後案ノ重要點ヲ全然放棄シ先方案ヲ鵜呑ミスルコトハ啻ニ面目ノ問題ニ止ラズ將來我對外交渉上惡先例ヲ殘スニ至ルベキヲ考慮シ帝國政府トシテモ慎重考慮中ナル次第ナル處御來示ノ次第至極尤モト存セラルニ付此ノ際先方最後案ニ付左記ノ「ライン」ニテ或程度ノ讓歩ヲ爲サシムル様一應内交渉ヲ進メラレ度シ

一、品種別割當率ヲ往電（移牒第二三六號）「スノー」ノ私案ノ如ク晒ト縁付生地ノ割當ヲ入レ替ヘ移譲率ニ付テハ

貴官ノ御裁量ニ依リ僅少ナリトモ之ヲ要求セラルルカ品種別ヲ其儘トシ全量五分程度ノ移譲率ヲ認メシメ若シ先方力右イズレニモ同意セサレハ棉花買付量ニツキ我方提案第三カ條件付ナリシ關係ニ鑑カミ此ノ點ニテ適當讓步

セシメ當方ノ顔ヲ立ツルコト

三、右一、カ何トカ相談ツキタル際ハ爲替問題ニ關シテハ往電（移牒第一七四號及同第二〇一號）ノ趣旨ニ依ルコト

ト致度シ

申迄モナク本件内交渉ハ頗ル「デリケート」ニシテ先方力何等ノ讓歩ヲナサス一旦之ヲ拒絕セル以上ハ往電（移牒第二七五號）ノ如ク假令英國側ヨリ緩和ノ斡旋アルモ

夫ダケ困難トナルベシト察セラルニツキ其邊勿論御如意ナキコト信スルモ充分慎重ニ御考慮ノ上極力御盡力アリ度シ尙「スノー」ヨリモ何トカ讓歩シ當方ノ顔ヲ立ツル様英印兩國政府ニ對シ七日夜發電濟（通商局長ニ同電ヲ内示セリ）

大阪ノ空氣ニ關シ吉野次官ヨリ未ダ何等情報ナク相當議論出ルコト察セラルモ東京側宮嶋ハ印棉不買解除ハ何トカ纏マルヘシト觀測シ居レリ

583 昭和8年12月10日 沢田日印会商代表より
広田外務大臣宛（電報）

我が方インド綿花不買撤回の際のインド側讓

歩余地および綿布品種別輸入割当移譲率等に
関するインド首席代表私案について

デリー 発

本省 12月10日着

移牒二八一號

（至急）

貴電（移牒二七八號）ニ關シ

九日商務長官ヲ往訪會談ス其ノ要旨左ノ通

先ツ本官ヨリ去ル四日ノ印度案ニ對シテハ未タ日本政府ノ回訓ニ接シ居ラサル處諸般ノ情報ヨリ考察スルニ政府ハ印度側最後案ニ關シ各方面ノ反對ニ接シテ多大ノ困難ニ飽着シ居ルモノノ如ク我方トシテ特ニ困難トスル處ハ印度側力日本案ノ全部ヲ拒絶セルコトニシテ若シ何等カノ點ニ於テ妥結ヲ認メシモノナラハ日本ニ於テ印度案處理方餘程容易ニセラルルコトト思料ス情勢斯ノ如クナリシ際去ル六日會談ノ際貴官ヨリ印棉不買ノ繼續カ印度側ニ於テ何等カノ讓歩ヲ考慮スル上ノ障害トナリシ事情アル御話シアリタルヲ以テ別段政府ヨリ何分ノ申出テアリタル次第ニ非サルモ爾來同僚トモ熟議ノ結果自分一己ノ責ニ於テ茲ニ御尋ネスル

誘因トナルモノナレハ印度最後案ニ於テ品種別間「アラウ
ワーンス」ヲ各品種ノ比率ニ對スル一〇%ト爲シ居ルモノヲ
二〇%ノ程度ニ引上方ヲ一應考慮シタシ尤モ右ハ單ニ一己
ノ私見ニテ果シテ閑僚竝ニ其他ノ關係者力如何ナル意向ヲ
有スルヤハ明カナラス依テ自分限リニテ何等「コンミット」
スルコトハ出來得サルモ折角ノ御話ナレハ至急協議スルコ
トトシ且旅行中ノ總督ニモ電照セサルヘカラス從テ右回答
スル迄ニハ多少ノ時日ヲ要スルコトト思ハルト答ヘタリ次
テ本官ハ我方最後案(三)ノ棉花買付量ニ關スル條件ヲ持出シ
之カ再考ヲ促シタル處「ボ」ハ之貴案ニテハ棉花ヲ全然買
付ケサル場合ニモ尙一億七千五百萬碼ノ「クオーラ」ヲ許
ス如キ計算トナルトテ當業者ノ強硬ナル反對アリ旁此ノ點
ハ到底再議ノ途ナシ

結着ノ處印度側ノ讓歩ハ右移讓率ノ修正ノミニナリト突張リ
タルカ本日ノ「ボ」ノ口吻ヨリ察スルニ今日トナリテハ不
買決議ノ至急撤回如何ニハ左程重キヲ置カス前記同人ノ私
案タル僅カ許リノ讓歩ハ是非此ノ際日本側ニ於テ印度案ヲ
受諾シ貰ヒ度シトノ考ヨリ幾分ニテモ之カ誘因トナル材料
ヲ提供セントスルモノナリトノ印象ヲ得タリ次ニ爲替條項
シトノ少許ノ爲替率ノ低落ニ依リ頻繁ニ税率ノ變更ヲ行
フコトハ商取引上障害ヲ及ホス惧アリ勿論印度政府トシテ
モ斯ノ如キ場合頻繁ナル税率變更ヲ爲ササルヘシトハ思考
スルモ此ノ際規定ノ上ニモ此ノ意味ヲ明カニスルコトトシ
例ヘハ爲替カ二割以上下落シ其狀態力相當期間例ヘハ三、
四ヶ月繼續シ當該產業ニ脅威ヲ及ホスト云フ如キ場合ニハ
税率ノ引上ヲナスト規定シタシ(三)綿布ノ税率ハ「クウォー

タ」ト關聯セル一種ノ協定税率トナルヘキモノナルニ付之
ヲ除外スルコト致度シテ種々説明セル處「ボ」ハ(一)綿
布關稅率ノ五割ハ現在爲替ヨリ見レハ非常ニ低率ノモノニ
シテ將來回復ノ場合ヲ「カバー」シ居レルモノナレハ將來
之ヲ五割以下ニ引下クヘシト云フ如キ案ニテ同意シ難シ(二)
印度ト雖モ一又ハ二「ポイント」ト云フ如キ少許ノ爲替低
落ニ對シ税率引上ヲ行ハント云フニ非ス「アプリンシエブル」
ノ低落ヲ目標トセルモノナリ然レトモ二割以上ノ低落ト云
フ如キ大ナル低落及右低落力數ヶ月繼續スト云フ如キ條件
ニハ同意シ得ス(三)綿布ヲ除外スル理由ハ一應首肯シ得ルモ
日本側カ價格ノ維持ヲ保證スルニ非サル限り是亦受諾シ難
シト答ヘタルヲ以テ本官ハ價格調節ハ不可能ナルモ數量ノ
制限ニ依リ自然ニ價格調節行ハルヘク更ニ爲替下落ハ棉花
ノ買付ヲ不利ニシ其ノ買付量ハ綿布「クオーラ」ニ結ヒ付
ケラレタルモノナレハ事ノ性質上綿布ニ對シテハ爲替條項

○○○
貴電(移牒第二九四號)ニ關シ
印度側ニ於テ「ボア」私案ノ移讓率ヲ容レ且往電(移牒第
二九八號)爲替條項ニ關スル我方修正案ヲ大體受諾スルニ
於テハ既ニ妥結ヲ見タル(一)關稅引下(二)再輸出除外(三)綿布棉
花關聯數量及增減比率(四)品種別割當(五)期別割當及移讓率(六)

○○○
二關シ本官ハ貴電(移牒第一七四號)ノ趣旨ニ從ヒ爲替下
落ノ場合ハ稅率變更ニ關シ直ニ商議ヲ開始スルコトニ規定
シテハ如何ト提言セルニ「ボ」ハ斯ノ如キ取極ニテハ商議
ニ時日ヲ要シ到底急速應急ノ措置ニ出ツルコト不可能ナレ
ハ受諾シ難シト云ヒタルヲ以テ更ニ本官ハ印度側提案ノ爲
替條項案(往電(移牒第二六七號))ハ日本政府ニ電報考
慮ヲ求メ居リ未タ何等訓令ニ接セサルモ差當リ代表部ニ於
テ考究セル結果二、三ノ修正ヲ要求セサルヲ得ス即チ(一)印
度案ニ依リ將來爲替カ低落シタル場合ノミニ對シ規定シ低
落シタル爲替カ回復シタル場合ニ對スル規定ヲ掲ケ居ラサ
ルカ右ハ將來低落スル爲替カ後ニ至リ回復シタル場合ニモ
之ニ應シ稅率ノ引下ヲ爲スヘシトノ規定ヲモ加フルコトト
シ度(二)少許ノ爲替率ノ低落ニ依リ頻繁ニ稅率ノ變更ヲ行
フコトハ商取引上障害ヲ及ホス惧アリ勿論印度政府トシテ
モ斯ノ如キ場合頻繁ナル稅率變更ヲ爲ササルヘシトハ思考
スルモ此ノ際規定ノ上ニモ此ノ意味ヲ明カニスルコトトシ
例ヘハ爲替カ二割以上下落シ其狀態力相當期間例ヘハ三、
四ヶ月繼續シ當該產業ニ脅威ヲ及ホスト云フ如キ場合ニハ
稅率ノ引上ヲナスト規定シタシ(三)綿布ノ稅率ハ「クウォー

意向について

本省 12月13日発

584 昭和8年12月13日 広田外務大臣より

沢田日印会商代表宛(電報)

インド側讓歩次第ではこれまでに妥結を見た
諸問題につき一括至急閣議に付議したいとの
意向について

從量稅ニ依ル雜貨最惠國取扱(七)ビルマ除外問題(八)將來ノ關稅引上ケニ關スル協議條項(九)人絹割當除外問題等ト共ニ一括至急一應閣議報告附議ノ上回訓ノコト致度貴見ノ通り

派生的事實ノ發生ニ依リ此ノ上障害ヲ生セサランムル爲先方決定促進方折角御盡力アリタシ唯貴電(移牒第二八四號)ノ細目迄此際提出スルニ於テハ少クトモ夫レ丈先方決定ヲ遲延セシムル虞アルヤニ思考セラルニ付他ニ重大ナル理由ナキ限り右ハ細目協定ニ讓ル方可然ヤニ信ス

585 昭和8年12月17日 沢田日印会商代表より
廣田外務大臣宛(電報)

綿布品種別輸入割当移譲率、為替条項および
雜貨の輸出統制問題などに關するインド首席
代表との協議について

△
貴電(移牒第二九七號)ニ關シ
十六日商務長官ヲ往訪會談要領左ノ通り

△
本省 12月17日着
デリ一 発
移牒第三〇七號

△
十六日商務長官ヲ往訪會談要領左ノ通り

(一) 移譲率問題

本官ヨリ去ル九日提出ノ際貴代表ノ私案トシテ申出ノ移譲率ニ關スル考案ハ政府ニ報告シ置キタルカ政府ニ於テハ該案力印度側ノ確定議トシテ申出アリ且爲替問題ニ關シ日本側ノ對案ニ付印度側ノ同意アレハ諸案件ヲ一括閣議ニ諮ル豫定ニテ差當リ右移譲率ニ關スル印度側ノ確答ヲ待チ居ル次第ナルカ右ハ既ニ何等力決定ヲ見タル次第ナリヤト質シタルニ「ボ」ハ該案ハ全然自分一個ノ當座ノ思付ニテ單ニ印度側ノ「ゼスチュア」トシテ考慮シ度シト考ヘタル次第ナルカ實ハ其ノ後代表部同僚ニ諮リタル處印度側ハ既ニ最終ノ提案ヲ了シタル次第ニテ此ノ上彼是態度ヲ變更スヘキニ非ストテ何レモ自分ノ申出タル私案ニ同意ヲ與ヘス他ノ閑僚ハ議會ノ用務多忙ノ爲未タ熟議ノ機會無キ様ノ事情ナルカ總督ヘハ兎ニ角昨日右ノ次第ヲ電報シ置キタル次第ナリ依テ結局爲替問題等ノ決定ヲ見タル上本問題ニ付更ニ印度政府側ニ諸ルコトト爲スノ外無カラシカト考ヘ居リタル所ナリト答ヘタルカ結局本件ハ他ノ諸條項ノ妥結ヲ見タル場合印度側ニテ或ハ考慮スルヤモ知レサレトモ現狀ヨリ考察スレハ「ボ」自身ニ於テハ政府側ノ承諾取付方ニ努ムル

トモ政府トシテ之ニ同意スヘキヤ豫斷シ難キヤノ印象ヲ得タルニ付本官ヨリ本件印度側ノ「ゼスチュア」ハ日本側ニ於テ全般問題ノ考慮ヲ促進スルコトトナルヘキヲ以テ會商妥結ノ精神ヨリ「ボ」ニ於テ本件ニ對シ印度政府側ノ承認ヲ取付クルコトニ最善ノ努力ヲ爲ス様懇説シ置ケリ

(二) 輸出入禁止制限問題

轉シテ本官ハ政府ハ日本側提案ノ輸出入禁止制限條項ニ對シ印度側反對意見ヲ考慮シタル結果日本側ニテハ速ニ會商ノ妥結ヲ計ル見地ヨリ該提案ヲ撤回スルニ決シタル旨ヲ述ヘタルカ「ボ」ハ別ニ意見ヲ述ヘサリキ

(三) 爲替條項

次テ本官ヨリ爲替條項ニ關シ之カ挿入ハ既ニ繰返シ説明セル如ク日本側ノ固ク反對シ來レル所ナレトモ段々ノ貴見モ有リ何等カノ形ニ於テ之ヲ規定スルコトニ同意スルトスルモ貴代表部ノ提案ハ其儘ニテハ承認スルコトヲ得ストテ貴

電(移牒第二九八號)御訓令ニ依ル對案ヲ呈示シタル上日

本對案力双務主義ニ基ケル點並ニ本協定力綿布ノ「クオータ」及其棉花トノ關聯ヲ規定セル點ヲ考慮スレハ日本案ハ公正妥當ノ提案ナルヲ以テ慎重考慮ノ上之ヲ受諾セラレタ

シト説明シタル處「ボ」ハ前回會見ノ際ト同様ノ説明ヲ繰返シタル上税率改正實行ノ條件タル爲替低落ノ程度ヲ二割トスル規定ヲ過當ナリトシ且綿布除外ノ點ニ付テハ日本側ニテ價格調節ノ實現力必要條件ナリト主張シタルヲ以テ本官ハ一々之ヲ反駁シタル上最早問題ハ爲替條項及移譲率ノ問題トノミナリタル次第付印度側ニ於テ速ニ會商ヲ妥結スル見地ヨリ我方主張ヲ承諾シ以テ全問題ノ圓滿解決ニ資スル様慎重考慮セラレシコトヲ望ムト述ヘタル處「ボ」ハ日本側提案ハ明日閣議ニ諮ルコトトスヘク尙爲替條項ニ關スル日本案ハ財務及通貨關係官ニモ攻究ヲ求ムルコトスヘシト述ヘタルニ付本件ニ付テハ會商促進ノ見地ヨリ兩代表部ノ專門委員ニ於テ協議ヲ試ムル方機宜ノ處置ナルヘシト述ヘタル處「ボ」ハ之ニ同意シ兎ニ角一應閣議ニ諮リタル上何分ノ決定ヲ爲シ度シト答ヘタリ

(四) 雜貨ノ輸出統制問題

次ニ「ボ」ハ雜貨ノ從量稅問題ニ關シ將來本協定期間中豫想セサリシ製造工業力新タニ日本品輸入ノ脅威ヲ受クルニ至ル如キ場合ハ之力保護ノ爲既ニ産業保障法ヲ適用セサルコトト爲ス以上或ハ^(自)ムヲ得ス又復條約廢棄ノ措置ヲ採ル

ヘシットスルカ如キ議論ヲ見ルカ如キコト無キヲ保セススク

テハ本協商ノ趣旨ニモ反シ遺憾ノコトナルカ最近入手ノ情

報ニ依レハ日本ニ於テハ種々輸出ノ統制ヲ企劃セラレツツ

アリトノコトナルカ果シテ然ラハ右脅威ヲ生シタル場合日

本側ニ於テ輸出量統制ヲ爲シ印度製造工業ニ脅威ヲ與ヘサ

ルヘシトノ趣旨ヲ條約ニ規定スルカ又ハ公文交換ヲ爲スコ

トトセラルコト出來間敷キヤト述ヘタルヲ以テ本官ハ日

本ニ於テハ價格統制ハ困難トスレトモ生産及輸出ノ統制ヲ

自發的二行フコトハ同（業）者ノ間ニ頻リニ唱道セラレ漸

次其ノ實現ヲ見ツツアルコトト信スルヲ以テ貴見ハ杞憂ニ

過キサル而已^(合)ナラス此ノ際斯ル新規ノ問題ヲ提案セラル

コトハ折角茲迄進捗シ來レル會商ヲ却テ紛糾セシムルノ虞

アリ日本側モ是等ノ見地ヨリ輸出入禁止制限條項ノ提案ヲ

撤回シタル次第ナレハ此ノ際右様ノ提案ハ思止マラレ度シ

ト述ヘタル處「ボ」ハ此ノ點ニ付何等カノ「アシユーラン

ス」ヲ得ハ印度側ノ氣分ヲ安ソスルコト大ナルヘシト述ヘ

居リタリ尙「ボ」ハ當業者ノ引續キ陳情モアリ旁或種ノ輸

入品ニ對シ從量稅設定ノ法案ヲ目下開會中ノ議會終了迄ニ

兎モ角提出スルコト丈ケハ致シ置カサルヘカラサルニ至ル

ヤモ知レスト述ヘ居リタリ

586 昭和8年12月20日 沢田日印会商代表より広田外務大臣宛（電報）

インド側より為替条項修正案および綿布品種別輸入割当移譲率に關する覚書提示について

別電 十二月二十日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛（移牒第三一五号）

右インド側為替条項修正案

付記 十二月二十日着沢田日印会商代表より広田外務大臣宛（移牒第三一九号）

右綿布品種別輸入割当移譲率に關するインド

側覚書

デリー 発

本省 12月20日着

移牒第三一七號

（至急）
往電（移牒第三〇七號）ニ關シ

本十九日午後商務長官ノ求メニ依リ往訪會談ス其要領左ノ

通り

（一）為替問題

先ツ「ボ」ヨリ爲替條項ニ關スル印度側對案（別電（移牒第三一五號））ニ付テハ今朝ノ兩代表部員ノ會合ニ於ケル

印（度）側説明ニ依リヨク諒解セラレタルコトト思フト述

ヘタルヲ以テ本官ハ右印度案及其説明ニ付テハ詳細報告ヲ

受ケ且印度側カ日本案ヲヨク考究セラレタル上ノ提案ナル

コトハ認メ居ルモ日本側ノ重キヲ置ケル爲替低落ノ程度及

其期間ノ問題綿布除外並ニ產業ノ脅威ヲ條件トスル點ニ同

意ヲ表サレサリシハ遺憾ナリト言ヘルニ「ボ」ハ印度側ハ

爲替下落ノ程度如何ハ問題トスルモノニアラス低落ノ結果

印度ニ於ケル商品ノ價格ニ影響ヲ與ヘタル場合何等カ之ヲ

是正シ得ルノ途ヲ開カントスルモノニシテ低落ノ程度ヲ數

字ヲ以テ規定セントスル如キ案ニハ同意シ難シ綿布ニ關シ

テハ考究ノ結果印度側對案ニ於テモ日本カ外國市場ヨリ原

料ヲ購入スル事實及製品ノ日本ニ於ケル市價ノ調節等ノ關係要素モ考慮ニ容ルコトトセルモノナルヲ以テ之ニテ満

足セラレ度又産業脅威ノ條件ニ關シテハ本來輸入品價格ノ割安ナルコトハ一般消費者ノ利益トスル處ナレハ本條項ハ

次テ移譲率ノ問題ニ關シ「ボ」ヨリ貴代表過日御話ノ御趣旨ハ自分モ能ク了解シ居タルヲ以テ遂ニ之ヲ閣議ニ諮リ且總督ニモ電報ニテ説明ノ結果一ノ結論ニ達シタリ依テ此ノ點ハ誤解ヲ避クル爲文書トシテ回答ストテ往電（移牒第三一九）ノ覺書ノ通り讀上ケタリ依テ本官ハ貴代表カ會商妥結ノ爲印度政府側意見ヲ取纏ムルコトニ努力セラレタル誠意ハ諒トスルモ移譲率ノ修正ヲ日本側カ印度側ノ爲替條項其ノ他ノ條件ヲ充タスコトニ關聯セシメントスルノ意ハ了解ニ苦ム處ナリ本來現在問題トナリ居ル程度ノ移譲率ノ増加成立ハ日印双方ニ取り實際取引上ノ見地ヨリシテ決シテ大問題トハ言ヒ難シ唯日本側トシテハ其ノ最後案全部ヲ拒否セラレタル上印度案ヲ一纏メトシ其ノ受諾ヲ求メラルルカ如キ立場ニ陷レルコトヲ快シトセサル爲本官ヨリ本問題ヲ提示セルモノナレハ斯ノ如キ僅カノ數字ノ問題ニ拘泥セス無條件ニ讓歩セラレ日本政府ニ於テ妥協點ヲ發見スルコ

トヲ容易ナラシムル爲アツサリトシタル「ゼスチコアー」
ヲ示サレント希望ニ堪ベスト述ヘタル處「ボ」ハ本提案
ハ自分トシテモ最善ヲ盡シタル結果ニシテ一ニ印親善關係
係ヲ維持セントスル誠意ニ基ク「ゼスチコアー」ニシテ慎
重考慮ヲ重ねタル上ノ提案ナレハ此ノ點ノ修正ニハ同意シ
難シト答ヘタリ

(三)印棉不買撤回問題

次ニ本官ハ印度側カ十日間ノ期限ヲ附シタル點ニ關シロ印
双方共代表モ政府モ會商終結ノ一日モ速カナランコトヲ希
望コソスレ之ヲ不必要ニ遷延セントスルカ如キコト毫モ無
之シ然ル二十日間ノ期限ヲ附シテ日本側ノ措置ヲ求ムルニ
於テハ事態ヲ窮屈ニスルノミナラス政府トシテモ感情上面
白カラスト考フ成可ク之ノ點撤回方考慮セラレ度ト云ヘル
處「ボ」ハ右ハ決定的二十日ト限定スルト云フ意ニ非ス勿
論兩三日ノ遲延ハ^(印)已ムヲ得スト考フ唯印度側ノ立場トシテ
ハ曰下棉花ノ出廻多ク此ノ上尚旬日ノ遲延ヲ來スコトモ
ナレハ政府ハ農民救濟ノ爲財政的援助ヲ爲スノ決定ヲ爲シ
且之カ準備ニ着手スルノ要アリ之等ノ事情ヲ考慮シ略々十
日ノ猶豫ヲ規定セントスルノ趣旨ナレハ之ノ點惡シカラス

了解セラレ度シト説明シタリ依テ本官ハ印度案ノ意ノ在ル
處ハ了解スルモ當地ト日本政府トノ電報往復ニモ多クノ暇
ヲ要シ且日本側ニ於テ印棉不買決議ヲ撤回セシメントスル
場合政府ト當業者トノ交渉等技術上ノ點ニテ^(印)ムヲ得ス時
日ヲ要シ短少ノ期間ニ取運ハコトヲ確約シ難シ、ノミナラ
ススノ如キ期限ヲ附スルコトハ當業者等ノ感情ヲ害シ事ノ
成立ニ却テ害アル惧無キニ非ス依テ十日ト云フ期限ヲ附ス
ルコト無ク單ニ出來得ル限り速ニ實行スルコト修正セラ
レサル可キヤト述ヘタル處「ボ」ハ前記ノ説明ヲ繰返シ印
度側ノ立場ヲ諒トセラレシト述ヘタル上今日ノ會合ハ兩
代表部ノ正式會合ニ非ス單ニ貴代表ト自分限リノ會談ニシ
テ右提案モ決シテ印度政府ノ「アルチメイタム」ト謂フ如
キ意味合ノモノニ非ス此ノ點誤解無之様希望ス今日私的會
談ヲ求メタルモ全ク此ノ趣旨ニ外ナラス本日提議ノ趣旨モ
此ノ意味ニ了解セラレシト釋明シタリ依テ本官ハ貴提案
ハ兎ニ角直ニ政府ニ取次ク可シト答ヘ置キタリ
以上ノ通右十日間ノ期間ハ先方ニ於テ嚴格ニ固守スル意向
無キカ如クニ付誤解ヲ避クル爲外部殊ニ當業者等ヘ説明ノ
場合ハ適當御留意相成度シ

(別 電)

印
本 省 12月20日着
[△]移牒第三十一五號

and that such rates shall in no case exceed what is
necessary to correct the effects of such further depreciation
on the duty-paid value of Japanese goods imported into
India.

Nothing in this agreement shall be held to prohibit
the imposition by the Government of India of special
rates of customs duty on articles, the produce or manu-
facture of Japan, other or higher than those levied on
similar articles, the produce or manufacture of any
other country, at such rates as the Government of
India consider maybe necessary to correct the effects of
any further depreciation of the exchange value of the
yen relative to the rupee subsequent to January 1st
1934.

九 英連邦諸国との通商問題
customs duty the Government of India undertake to
give full consideration to such relevant factors as the
purchase by Japan of raw materials in outside markets
and the gradual adjustment of internal Japanese prices

(付 記)

印
本 省 12月20日着
[△]移牒第三十一九號

Provided that in prescribing such special rates of

The Government of India regret that they are
unable to consent any change of substance in the proposals
they have already finally put to the Japanese delegation.
As a gesture of friendliness, however, and in order to

assist the Japanese Government in bringing the negotiations to a satisfactory conclusion without further delay, the Government of India are prepared, subject to the following definite conditions, to agree to certain minor alterations in respect of transfers between the categories of cotton piece-goods. Provided the Japanese Government secure within ten days the withdrawl of the boycott of Indian cotton and provided they accept in substance all the other proposals which have been made to them by the Government of India including the modified formula in regard to a further fall in the yen-rupee exchange which the Government of India will submit after the conclusion of the discussion between the Advisers of the two Delegations they will be prepared, should the Japanese Delegation definite request this, to agree to the following change : —

It will be permissible for the percentages allotted to the two smaller categories of piece-goods, namely, bordered greys and bleached goods, to be increased up

to a maximum of 20 percent. of the percentage allotted to each of those categories. Thus, it will be permissible to increase the percentage of 13 percent. allotted to bordered greys up to a maximum of 15.6, and to increase the percentage allotted to bleached goods from 8 to 9.6. It will not be permissible, however, to increase the percentages allotted to either of the two remaining categories by more than 10 percent. of the percentage allotted to those categories, nor may the total qt. be increased. The Government of India would like to make it clear that if the conditions referred to above are not accept their present offer must be considered as withdrawn, and they must adhere to their previous proposals.

~~~~~

587 昭和8年12月21日 広田外務大臣より 沢田日印会商代表宛(電報)

→ハナ側為替條項修正案に於ける我が方修正  
該則底における綿布品種別輸入割当移譲率に關

## トキハハナ側覺書取締だよりの件

本 稿 12月21日発

◇  
移牒第三一一一號

大○至○急○極○秘

貴電(移牒第三一八號)ニ關シ

貴見ノ通り大体此ノ程度ニテ取纏メ度ン唯タ爲替條項ニシキ修正希望ノ點左ノ通り申進ス

丁爲替條項

(イ)貴電(移牒第三一五號)先方案第一項中ヘ any further depreciation ノ any appreciable depreciation ノ變更

シ

(ア)第11項廿 Internal Japanese price ノ which tend to appreciate export prices of Japanese goods correspondingly ノ趣旨ヘ付句ヲ挿入シ意義ヲ一層明確シハタシ

(イ)第二項末段ニ關シテハ貴電(移牒第三一六號)ハヤハ貴見ノ通り變更シ

シ

(ア)他國トノ此種取極ノ先例トナルハキ點ハ勿論米國通貨政策ノ影響ニ依ル磅爲替ノ將來及英印爲替問題ノ將來

イハナ側より爲替條項に關する再修正案提議

588

昭和8年12月22日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛(電報)

等ヲモ考慮ノ必要アリ旁々對樞密院關係モ有之ニ付本條項ヲ双務的ノ形式ト致度シ

(ア)右ニ關シ貴電(移牒第三一六號)六銃鐵關稅ニ關スル

先方ノ「プライベイト・オペリオ」ニ對シテハ本爲替條項カ一九三四年一月一日以後ノ爲替變動ニ關スル

規定ナルニ鑑ミ問題トナラサルキ旨ヲ説明シ之ヲ撤回セシメラレ度シ

(イ)適當ナル方式ニ於テ本爲替條項ハ既約品及輸送ノ途中ニ在ル貨物ニ適用セラレサル趣旨ヲ明リシ置カレ度シ

丁移譲率

貴見ノ通貴電(移牒第三一九號)先方案ヲ受諾ス

(ア)印棉不買撤回

本件妥結次第直ニ其ノ手配ヲ講スヘク遲クトモ年内リハ

ナカ撤回セシメ得ル見込ナリ

~~~~~

895

別電 十二月二十一日着 沢田日印会商代表より広田
外務大臣宛 (移牒第三一四号)

右為替条項に関するインシ側再修正案

トリー 発

本省 12月22日着

△
移牒第三一四號

Secret

Draft formula

往電 (移牒第三一六號) □關シ
今二十一日印度代表部ヨリ十九日ノ爲替條項ニ關スル専門委員會ニ於ケル非公式討議ニ於テ問題トナリタル諸點ヲ同代表部ニ於テ熟慮シタル結果其ノ意見ヲ表示スル爲替條項案ナリトテ別電 (移牒第三三四號) ノ案ヲ送付越タリ同案ハ往電 (移牒第三一五號) ノ案中第三項日本圓價ノ回復シタル場合ニ於ケル印度政府側ノ負フ可キ義務ヲ含メル條項ヲ削除シ圓價ノ回復シタル場合ノ規定ヲ不明瞭ナラシメタル點ニ於テ専門委員會ニ於テ先方委員ノ自ラ提案セルモノヲ改惡シ居レリ不取敢

(別電)

Nothing in this agreement shall be held to prohibit the imposition or the variation from time to time by the Government of India of special rates of customs duty on articles, the produce or manufacture of Japan, other or higher than those levied on similar articles, at the produce or manufacture of any other country, at such rates as the Government of India may consider necessary to correct the effects of any depreciation of the exchange value of the yen relative to the rupee subsequent to December 31st 1933.

In imposing or varying such rates of customs duty the Government of India undertake to give full consideration to relevant factors such as the purchase by Japan of raw materials in markets outside Japan and the adjustment

of internal Japanese prices and to limit such rates to what is necessary to correct the effects of such depreciation on the duty-paid value of Japanese goods imported into India.

Provided, that no change in any such rate shall be made until it has been in force for at least five weeks.

~~~~~

589 昭和8年12月24日 沢田日印会商代表より  
広田外務大臣宛(電報)

イハニ側の交渉態度硬化に鑑み今後の我が方  
交渉振りじつを請誦

トリー 発

本省 12月24日着

△  
移牒第三四〇號

(大至急)

往電 (移牒第三三一號) □關シ

貴電 (移牒第三一九號) ハ此際互讓ノ精神ヲ以テ百三十萬

俵程度ニテ妥協シ然ル可シトノ御趣旨ニ諒解致シ居ル處最近印度側ハ相當我方ノ腹ヲ見透シ居ルモノノ如ク印棉不買

決議ノ撤回方ニ關スル往電 (移牒第三一九號) ノ期限附要求初年度「クオータ」ニ關スル往電 (移牒第三三一號) ノ提案及往電 (移牒第三三五號) ノ雜貨從量稅率ノ發表ノ如キ其ノ片鱗ヲ窺フニ足ルモノアリ初年度「クオータ」ニ關シ印度側ハ右ノ如キ提案ヲ爲スニ至レル所以ノモノハ明年一月<sup>(ハ)</sup>三月<sup>(ハ)</sup>ニ至ル間我方ヲシテ無理ニヤ田棉ヲヨリ多ク買ハシメムトノ政略ヲモ加味シ居ルモノト想像セラル處其ノ態度ノ最近著シク硬化セル狀勢ニ鑑ミ此際互讓的ナル申出ヲ爲ストモ先方ニ於テハ之ヲ受諾セサル可キ懸念大ナリ殊ニ右ノ印度側提案ハ日本ニ執リ最モ不利ナル條件ヲ持出シタルモノナルヲ以テ該案ヲ其ノ儘受諾スルカ如キコトハ我當業者ノ頗ル苦痛トル所ナルノミナラス雜貨ノ從量稅率ハ果シテ如何ナル程度ノ影響ヲ日本品ニ與フルモノナリヤハ且下當方ニ於テモ調査中ナルカ中ニハ相當高率ヲ定メ居リ更ニ會議終末ノ時期ニ當リ斯カル稅率ノ實施ヲ發表セルコトハ鮮カラス我方國論ヲ刺戟シ居ルコトト察セラレ自然今日迄雜貨ノ爲或程度ノ讓歩ハ已ムヲ得スト述べ居タル棉業者等モ右稅率ノ發表ニ依リ最近ノ態度ヲ變更スルニ至ルナキヤヲ保セスト聊カ憂慮シ居ル次第ナリ

從テ（脱）先方ノ承諾セサルモノナラハ寧口我方トシテハ

先方ニ足許ヲ見ラル如キ提案ヲ此際暫ク差控ヘ出來得ル

限り原案又ハ之ニ近キモノヲ主張シテ先方ノ出方ヲ伺ヒ同

時ニ此ノ結果トシテ會議ハ相當延長セラルコトナルノ

惧アルヲ以テ差當リ印棉不買決議撤回ニ關スル先方ノ期限

付要求撤回方政府ノ訓令トシテ申入ルルコトモ一策ナリト

思考ス素ヨリ右ハ先方ノ容易ニ承諾セサル處ニシテ自然初

年度「クオータ」未決定ノ儘不買決議ヲ撤回出來ス其結果

印度側ハ往電（移牒第三一九號）ノ申出ヲ取消シ形勢ハ本

ノ御訓令執行ノ機會ヲ失フコトトナル惧アリ此ノ點特ニ御

含願度シ

政府ニ於テハ累次ノ御訓令ニ依リ會商妥結ニ意ヲ決シ居ラ

ル事ト承知シ居ル處ナルモ最近變化シ來レル前記ノ事態

乃至ハ印度側態度ニ拘ラス依然會商妥結ノ方針ヲ以テ進ム

ヘキヤ目下ノ情勢ハ鮮カラス憂慮ニ價スルモノ有之ト存セ

ラルニ付此場合ニ處スヘキ本官ノ態度ニ關シ大至急何分

ノ儀御回電相成度シ

590

昭和8年12月27日 沢田日印会商代表より

広田外務大臣宛（電報）

協定初年度綿布輸入割当問題およびインド政  
府の今次雑貨への新從量税付加問題などに關

するインド側首席代表との協議について

デリー 発

本省 12月27日着

移牒第三五四號

貴電（移牒第三四三號）ニ關シ

（大至急）  
先方ノ都合ニ依リ今廿六日夕刻「ボア」ト會見ス

一、初年度「クオータ」

先ツ本官ヨリ去ル廿二日貴代表ヨリ送付越セル初年度

「クオータ」ニ關スル提案ハ直ニ日本ニ電報シ政府ノ考

慮ヲ求メタル處政府ハ去ル十九日貴代表ヨリ本官ニ手交

セラレタル覺書ニ關シ何等決定ニ達スル前ニ是非此ノ初

年度「クオータ」ノ問題ニ付協定ヲ遂ケ度キ趣旨ナルカ

元來本問題ニ付テハ「シムラ」ニ於テ初メテ關聯主義ノ

議提起セラレタル際自分ヨリ本問題ヲ持出シ之ニ對シ貴

代表ハ根本原則ニ付協定成立ヲ見タル上ハ本問題ハ日本

側ニ不利ヲ與フルコト無ク解決シ得ヘシト云ヘル事情アリタル處今回ノ印度提案ト日本側ノ要求ヲ比較スルニ兩者ノ間ニハ相當大ナル開キアルヲ認メラレ日本側トシテハ到底印度案ヲ其ノ儘受諾スルコトヲ得ス其ノ理由トスル處ハ

(一) 今日迄ノ會議ニ於テ初年度ノ綿布「クオータ」ハ其ノ前年度ニ於ケル印棉買付量ト關聯セシムヘント云フカ如キ何等ノ協定ヲ見シ次ニアラス且今次ノ協定締結ニ關シ双方共何等考慮シ居ラサリシ協定締結前ノ年ノ印棉買付量ヲ以テ初年度ノ綿布「クオータ」ヲ決定セントスルハ不合理ナリ

(二) 前同ノ會合ニ於テ貴代表ハ印棉不買ハ日本當業者ノ實行セシモノナレハ不買ノ行ハレタル年度ノ印棉買付量ヲ初年度「クオータ」ニ關聯セシムル事カ日本側ニ不利ヲ釀ストスルモ其ノ責ハ日本當業者ノ當然負擔スヘキモノナリト云フ趣旨ヲ述ヘラレ今回ノ印度側提案ハ恐ラク右ノ趣旨ニ基キ作成セラレタル事ト想像スル處今回兩國間ニ協定ヲ遂ケントスルニ際シテハ雙方孰レモ相手方ヲ糾

印棉買付量ニ關聯セシメ期間ヲ三年トスレハ第三年目ニ日本ノ買付ケタル棉花ハ何等關聯スヘキ「クオータ」ナキコトトナリ結局其ノ年ニ於ケル日本ノ棉花買付ハ「クオータ」ト關聯上何等ノ役目ヲ爲ササルコトナルヘシ以上各般ノ事情ニ照シ印度案ハ斷シテ公正妥當ナリト云ヒ難シ依テ日本側トシテハ過去ノ「レコード」ニ基キ初年度「クオータ」ヲ四億トスルコトニ決定シ度シトテ我原案ノ再考ヲ求メタル處「ボ」ハ印度側トシテハ絕對ニ之ヲ承諾シ得スト述ヘタルニ付本官ヨリ然ラハ双方ニ公正ト認メラルル一案ヲ提起シタシトテ貴電（移牒第三四三號）ノ趣旨ニ依リ對案ヲ一ツ書トセルモノヲ手交シタル處「ボ」ハ右日本新案ニ依ルトキハ三年中ノ一年ノ印棉買付量ヲ二回「クオータ」ニ關聯セシムル缺點アルノミナラス

其結果第三年目ノ「クオータ」ハ日本側ノ印棉買付量ノ如何ニ拘ラス前年度ノ買付量ヲ以テ決定スル事トナリ之ヲ公正妥當ト看做スマ得ス從テ印度側トシテハ之ヲ受諾シ得スト云ヘルヲ以テ本官ハ之ト同様ノ不都合ハ前陳第四項理由ノ如ク印度案ニモ含マレ居レリト述ヘ種々押問

(二)〔<sup>四</sup>〕十日ノ期限付要求問題  
印棉不買決議撤回ノ期限付要求問題ニ關シ本官ヨリ貴電

第一三四號御來示ノ趣旨ヲ申入レタル處「ボ」ハ目下印度農民救濟問題急迫シ居レル爲印度側トシテハ期限ノ一、三日延引スルコトハ已ムヲ得ストスルモ出來得ル限り速ニ撤回ヲ希望スル次第ナリトテ種々陳辯スル所アリタルヲ以テ  
本官ハ日本政府トシテハ總テノ案件ニ付妥結ニ達スレハ不買決議ヲ撤廢セシムルノ用意アルヲ以テ要ハ諸案件ノ解決差當リ初年度「クオータ」ノ問題決定力急務ナリト云ヘル處「ボ」ハ印度側ニ於テモ遲滯ナク進捗ヲ期シ度シト述ヘタリ

(三)〔<sup>四</sup>〕雜貨從量稅

最後二雜貨ノ新從量稅問題ニ關シ貴電（移牒第三四八號）

御訓令ノ御趣旨ニ基キ從來印度側累次ノ言明ニ拘ラス本邦輸入品ヲ目標トシテ之ヲ阻止スル力如キ高率關稅ノ賦課ヲ然モ會商妥結ニ達セントスル重大ナル時期ニ突如實行セル事ハ遺憾トスル處ニシテ目下其的確ナル影響ノ程度ハ研究中ナルカ實際本邦品ヲadverslyニaffectスルコト判明スレハ之力是正方ニ付今後更ニ申入ル事アルヘント云ヘル處「ボ」ハ種々陳辯シ本稅ニ關シ曩（ニ）

答ヲ重ネタルカ「ボ」ハ前陳當方主張ヲ尤モトン印度案ヲ無理ニ固執スル事ヲ止メ其ノ結果細目ノ按排ハ別ニ案出スル事トシテ日本側考案ノ要點ハ一定年度ノ印棉買付量ト綿布「クオータ」ヲ毎年結ヒ付ケルト云フニアリテ換言スレハ三年間ニ日本力印棉四百五十萬俵ヲ買付クル事印度ハ同年間ニ十二億「ヤード」ノ綿布輸入ヲ日本ニ許容スヘシト云フニアリトスルノ話トナリタルカ右ハ必シモ御訓令通リノ事ニアラサルモ趣旨ニ於テハ差支ナキモノト考ヘラレ且之ニテ協定出來得ルトセハ差支ナカルヘシト考ヘタルヲ以テ差當リ政府ノ承認ヲ條件トシ印度側ニ於テ此ノ主義ヲ承認セサルヘキヤト質シタル處「ボ」ハ右ニ付テハ印度代表部ノ同僚ニ於テ直ニ同意スヘキヤ明言シ得サルモ兎ニ角尙同僚ト協議シタル上何分ノ回答ヲ致スヘク尙同僚ノ同意アレハ實際運用ノ細目ハ兩代表部ノ専門家ニ託シテ具體案ヲ案出セシムル事ニ取計ヒテハ如何カト存スト述ヘ差當リ右根本ノ主義ニ付同僚トノ協議ヲ約シタリ

(四)〔<sup>四</sup>〕為替問題  
本日ノ會談ニ於テハ爲替問題ハ當方ヨリ持出サス初年度「クオータ」カ我方ニ有利ニ解決セラレタル際貴電（移牒第三二二號）ノ御訓令實行ニ當リ我カ案ヲ提出シ度シト考ヘ居リタル處前記會談後「ボ」ヨリ爲替問題モ過日印度側ヨリ修正提出シタル分（往電（移牒第三三四號））ニテ日本側ハ御異議無カルヘシト期待シ居ル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ先ツ初年度「クオータ」問題協定ノ上本件

對案ヲ提示スヘキカ本問題ハ日本トノ相互的形式ヲ執ル事トセサルヘカラスト思考シ居ル旨述ヘタルニ「ボ」ハ相互的トスル事ニハ印度側ニ於テ格別ノ反対アルヘント思ハス但シ相互的トスル爲ニハ留比ト圓貨トカ「パリティ」ナリシ時ヲ基礎トスル事ヲ公平トスト言ヘルニ付本官ヨリ(一)本件條項ノ適用ヲ協定ノ開始前ニ遡ラシムル事ノ不合理ナル事及(二)本件條項ハ最惠國待遇ノ例外ヲ定ムルモノナルヲ以テ最惠國待遇ニ從ヘル措置ハ過去、將來ヲ問ハス

本條項ノ範圍以外ナル旨ヲ説キ暗ニ先般専門家間ノ會談ニ於テ印度側専門家カ私見ナリトシテ述ヘタル銑鐵關稅問題ヲ抑ヘタルカ「ボ」ハ勿論既往ノ事實ニ遡及セント

ノ意ナラス最惠國待遇ニ副エル事實ノ仕末方ヲ本條項中ニ定メントスルモノニ非ス自分ノ欲スル處ハ日本側ニ於テ本件爲替附加稅ヲ課スルハ「ルピー」カ「ルピー」ト圓貨トノ「パリティ」ヨリ低落シタル場合ニ限リタキ事ヲ意味スルモノナリト説明セリ次テ本官ハ貴方ノ案(往電(移牒第三二四號)ノ案)ハ専門家會合ニ於テ話シ合ヒノ案(往電(移牒第三一五號)ノ案)ヨリ第三項ヲ削

ラニ印度消費者ヲ苦シムルニ過キサルモノト思考セラレ將又差掛リタル問題トシテモ輸送ノ途中ニ在ル貨物及既約品ニ對シ註文取消續出シ居ル爲當業者ノ激昂一層著シク神戶商工會議所等ノ如キハ會商打切ヲ決議セル様ノ實狀ニ付事態更ニ惡化セサルニ先立チ至急左ノ案ニ依リ極力妥結ニ努メラレタシ

### 一、暫定措置

- (イ)輸送中ノ貨物ニ對スル舊稅適用
- (ロ)在本邦英國領事又ハ商務官ノ證明アル既約品ニ對スル舊稅適用

### 二、根本的調整

- (イ)本邦側ヲ加ヘタル専門家委員會ヲ作リ(ロ)原則ニ依リ今次引上ヲ見タル商品ノ稅率ヲ調整スルコト
- (ハ)印度ニ相當生產アル商品ニ對シテハ其平均生產費ト本邦品C I F 值段(陸揚口錢)トノ差額ヲ標準トスルコト

- (ハ)印度ニ生產ナキ商品ニ對シテハ貿易調整條項爲替條項

ノ精神及收入關稅主義ヲ考慮シ一律大體從價ニ換算シト

五割程度ノ從量稅ニ改正スルコト

除セラレ圓貨カ將來低落シタル後再ヒ回復シタル際ニ於ケル附加稅ノ引下又ハ撤廢ノ業務ヲ不明瞭ニセラレ居レリト指摘シタルニ「ボ」ハ其ノ點ハ前記二案對照シ取調ヘ置ク可シト述ヘタリ

~~~~~

591 昭和8年12月28日 広田外務大臣より 沢田日印會商代表宛(電報)

インド政府の今次雜貨への新從量稅付加に對する我が方措置につき訓令

本省 12月28日発

移牒第三六六號

大○至○急○

往電(移牒第三五二號)ニ關シ
雜貨關稅引上ニ關スル商工省側取調ノ結果ハ別電(移牒第三六七號)ノ通ニシテ綿莫大小(肌衣、靴下)陶磁器、玻璃鐵器、鉛筆等ニ付テハ殆ト禁止的ニシテ之ヲ產業保護ノ見地ヨリスルモ著シク其ノ度ヲ超エ居リ又收入主義ノ見地ヨリスルモ輸入激減又ハ杜絕ニ依リ夫レ丈ヶ收入減ヲ來タシ印度ニ差シタル生產ナキ陶磁器、玻璃鐵器等ノ如キハ徒

右五割トセルハ改正前ノ稅率大體二割五分乃至三割ニ冒頭往電ノ圓爲替低落四割ヲ加ヘタル六割五分乃至七割ヨリ圓爲替低落ニ依ル原料高我國內市價ノ昂騰等爲替低落ノ利益ヲ相殺スル程度一割五分乃至二割ヲ控除シタル結果ナリ

~~~~~

592 昭和8年12月30日 沢田日印會商代表より

広田外務大臣宛(電報)

協定初年度綿布輸入割当問題および為替條項

問題などに關するインド側との協議について

デリ一

發

本省 12月30日着  
移牒第三六四號

(至急)

往電(移牒第三五九號)ニ關シ

二十九日寺尾代表其ノ他代表部員印度側代表部員ト會合シ初年度「クオータ」問題及爲替條項ヲ討議ス其ノ經過左ノ

先ツ我方ハ「クオータ」問題ニ關シ當業者トモ詰合ノ上當

代表部ニテ作成セル左ノ二案ヲ提出セシム

第一案

(一)、協定期間ヲ三ヶ年ト假定シ毎年四月ヨリ翌年三月末迄（以下綿布年度ト稱ス）ノ綿布「クオーラ」ヲ同年一月ヨリ十二月末迄（以下棉花年度ト稱ス）ノ棉花買付量ト關聯セシム

(二)、明年一月ヨリノ棉花買付ハ優ニ百五十萬俵ヲ超過スルモノト豫想シ得ルニ付初年度「クオーラ」ハ暫定的ニ四億碼トシ之ヲ上下兩半期ニ均分ス

(三)、初年度棉花買付量カ百五十萬俵以下ナリシ場合ハ其ノ差額ニ對應ス可キ綿布ノ一定量ヲ第二年度ノ「クオーラ」ヨリ控除ス各棉花年度ハ綿布年度ヨリモ三ヶ月以前ニ終了ス可キヲ以テ前記差額ハ第二綿布年度開始以前ニ的確ニ知ルコトヲ得可シ

(四)、第二及第三年度ノ「クオーラ」モ(一)ノ原則ニ依リ暫定的ニ四億碼トス但シ前年度ニ綿布ノ過剩輸入アリタル場合ハ前記(三)ノ原則ニ依リ該一定量ヲ四億碼ヨリ控除シタルモノヲ暫行的「クオーラ」トシテ之ヲ上下兩半期ニ均分ス

(五)、然ルニ本協定ヲ延長セサル限り第三年度ニ於ケル綿布シテ年度開始以前ニ正確ナル「クオーラ」ヲ決定シ得サルノ缺點アリ從來考慮シ來レル季節別移讓率ノ如キモ適用不可能トナル可シ

(二)貴案第二ニ依レハ毎年度下半期ニ於テ「クオーラ」ヲ調節セラル可キ處若シ右可能ナリトセハ何故ニ之ヲ毎年度上半期ニモ適用セサルヤ一月ヨリ三月頃迄ノ棉花買付ケ狀況ヲ基礎トシテ上半期ノ「クオーラ」ヲ決定スルコトモ必シシモ不可能ニ非サル可シ等ノ諸點ニ付反駁シタルヲ以テ我方ハ

(一)貴方從來ノ案ニ依レハ第三年度ノ棉花買付ハ協定ノ範圍外ニアルヲ以テ印度農民ニ採リ不利ナル可ク又日本トシテハ協定實施前ノ棉花買付量ニ依リテ第一年度「クオーラ」ヲ定ムルコトヲ妥當ト思考セサルヲ以テ茲ニ新シキ案ヲ提出セル次第ニシテ印度側ノ案ヨリモ更ニ合理的ナリトモ言ヒ得可ク兩期間ノ移讓ハ暫定的「クオーラ」ヲ基礎トシテ爲シ得可シ

(二)我方ハ特ニ妥結促進ノ爲實際上ノ困難ヲ豫想シ得ルニ拘ラス第二案ヲ提出セル次第ナリ然ルニ此ノ上印棉買付概算量ヲ基礎トシテ上半期ノ「クオーラ」ヲモ調節スルコトハ

ノ過剩輸入量ハ翌年度「クオーラ」ヨリ控除シ得サルニ付

最後ノ三ヶ月間即チ一九三七年一月ヨリ三月迄ノ間ニ第三

棉花年度ノ實際買付量（ニ）徵シ綿布輸入量ヲ調節シ以テ棉花買付量ト綿布「クオーラ」トヲ完全ニ平衡セシム

第二案

(一)、前案同様

(二)、前案同様ノ理由ニ依リ先ツ第一年度上半期ノ「クオーラ」ヲ二億碼トス而シテ下半期（十月ヨリ三月末迄）ノ「クオーラ」ハ九月頃迄ノ實際棉花買付量ニ徵シテ一應決定シ置キ翌年一月ニ至リ第一棉花年度ノ買付量ヲ正確ニ知リタル上更ニ割當量ヲ調節シ三月末迄ニハ「クオーラ」カ完全ニ第一棉花年度ノ實際買付量ト平衡（ヲ）得ル仕組トス

(三)、第二及第三年度ノ「クオーラ」モ(二)同様ノ方法ニ依リ決定ス

我方ハ右兩案ヲ圖解シテ説明シタル上第一案ニ依ル方輸出統制上便宜多キヲ以テ特ニ第一案ノ受諾ヲ希望スル旨述ヘタル處先方ハ

(一)、貴案ハ從來討議シ來レル提案ノ原則ヲ全然覆スモノニ

實際ノ運用上非常ナル難事ト思考スル次第等ヲ述ヘテ之ニ應酬セリ  
尙明年四月以前ノ「クオーラ」ニ付テハ先方質問セサリシヲ以テ此ノ問題ニハ觸レサル事トセリ  
次ニ我方ハ往電（移牒第三二四號）印度側作成ノ爲替條項ヲ累次ノ貴電御來示ノ次第ニ基キ修正追加シタル案ヲ提示シ一々訂正ノ理由ヲ説明セルカ先方ハ第四項輸送中ノ貨物ニ關シスル取扱ハ行政上不便ナルノミナラス不合理ナル點多シトテ例ヲ舉ケテ反駁シ且ツ此ノ種課稅ハ輸入者ノ負擔スル處ナルカ故ニ日本側トシテハ特ニ斯ル例外規定ノ必要ナカルヘシト述ヘタリ我方ハ先方ノ引用セル例ト反対ノ場合ヲ指摘シテ同項挿入ノ必要ヲ主張セルモ先方ハ依然反対ノ態度ヲ示シタル又次條ノ相互規定ニ付テハ（（ヨリテ））ノ意味ヲ質問セルヲ以テ右ハ現在ノ法定平價ヲ意味スル旨應答セル處先方ハ右ノ代リニ寧ロ百圓對百三十六留比幾何ト明記スルヲ適用トスヘキモ同上ノ趣旨其ノモノニハ反対ナキ意向ヲ洩ラセリ最後ニ印度側委員ハ本日貴代表部ヨリ提出ノ諸案ハ自分等ニ於テ早速研究ノ上意見ヲ具シテ印度代表部ノ議ニ付スヘキ旨ヲ約セリ

インド政府の今次雑貨への新従量税付加につ  
き同税率緩和方インド側へ申入れについて

デリー

発

本省 12月30日着

貴電(移牒第三六六號)ニ關シ  
移牒第三七一號

二十九日「ボア」ヲ往訪會談ノ要領左ノ通

(一) 従量稅問題、先づ本官ヨリ貴電(移牒第三六七號)ノ事實ヲ舉ケ冒頭貴電御訓令ノ趣旨ヲ説明シタル上印度側ノ考慮ヲ促シタル後今同ノ關稅引上ノ報傳ハルヤ神戸及名古屋商業會議所並ニ各地當業者組合ヨリ本官宛電報ヲ以テ影響甚大ナリトテ善後策攻究方歎願シ來レル等日本當業者ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ居レル處會商現在ノ處迄達セル際我國民的感情ヲ激發シタルコトハ甚タ遺憾ナリ就テハ此ノ際印度側ニ於テ御訓令ニ基ク當方申入ノ趣旨ニ同意シ之ヲ緩和スル方法ヲ講セラレ度シト附加シタル處「ボ」ハ貴提案ハ書キ物トシテ提出セラレタク右ニ付政府ノ意見ヲ決定シ回答ス

ルコト致度尤モ自分一己ノ意見ヲ申上クレハ印度政府トシテ關稅引上實施ノ際運送中又ハ既約ノ輸入品ニ對シ除外例ヲ設ケタルコトハ往年唯一度小麥ニ付其例アルノミニシテ本來關稅法案ハ提出ト同時ニ實施決定(ヲ)慣例トシ居レハ今回ニ限り之ヲ破ルコトヲ得ス又貴案ノ委員會組織ハ事ノ性質上應諾シ難シ尙瑪瑣鐵器、陶磁器ニ付印度ニ製造工業ナシト言ハルルモ現ニ「ベンゴール」地方ニ存在シ居レリ本來今回ノ増(稅)ニハ實際引上ヲ見タルヨリモ多數ノ製造品ニ付増率ノ議アリタルノミナラス今回增稅セラレタル商品ニハ所定率ヨリモ一層高率ノ引上ヲ爲スヘシトノ說アリタルモ政府トシテハ日印貿易ニ及ホス影響ヲモ考慮シ總ユル方面ヨリ研究ニ研究ヲ重ネ絶対ニ保護ヲ必要トルモノニ限り實施スルニ至レルモノナルノミナラス從來ノ會商ノ精神ニ何等違反スル所ナシ蓋シ日本ニテハ是等雜貨ニ付統制ニ努メラレ居ル旨述ヘラレタルモ印度側ニハ其ノ效果現ハレサリシ爲已ムヲ得ス今回ノ措置ニ出テタルモノニシテ夫レモ產業保護法發布以來九ヶ月間當業者ノ要望ヲ押ヘ來レル後ニ實行シタルモノナリ且ツ從量稅ノ採用ニ依リテ法律上ノ差別待遇ハ之ヲ爲シ居ラス加之日本側ニテハシテハ根本方針ヲ變更シ難キヲ以テ此ノ點ニ付テハ考慮ノ餘地無シト答ヘ置キタリ

(二) 初年度「クオーラ」問題  
シテハ次ニ本官ハ本日ノ專門家會議(往電(移牒第三六四號))ニ提案ノ初年度「クオーラ」ニ關スル我代表部私案ハ互讓ノ精神ヲ以テ熟議ノ結果双方ニ取り公正ニシテ且實行シ得可キモノト信シ提出シタルモノナレハ印度側トシテモ同様ノ精神ヲ以テ慎重考慮セラレタシト言ヘル處「ボ」ハ之ヲ諒トシ出來ル丈ヶ安結ニ達シ得ル様全力ヲ盡シ度ク何レ明日自身充分研究シ同日午後ノ閣議ニ諮リタル上回答ス可シト答ヘタリ

(三) 爲替條項問題  
尙「ボ」ハ日本側提案ノ爲替條項ニ付積送中ノ商品ニ關スル除外規定ハ容認シ難キモ相互主義的ノ規定ハ同意シ得可ク尤モ用語中修正ヲ要スルモノアルモ大體ニ於テ異議無カル可シト考フル旨述ヘタリ

措置力公正ヲ缺キ居レリトカ又ハ誤解ニ基ケルモノナルコトヲ明カニセラルコトアラハ適當ノ考慮ヲ惜シム次第ニ非スト答ヘタリ依テ本官ハ差當リ積送中及既約ノ商品ニ關シ莫大小既約品契約破棄ニ依ル本邦當業者ノ損害ヲ引例シ過去ニ於テ小麥ニ其例アルコトナレハ今回ハ條約成立ヲ確保スル見地ヨリ特ニ除外例ヲ認メラレマシキヤトテ繰返シ

「ボ」ノ考慮ヲ促シタルモ「ボ」ハ印度商人側モ同様ノ損失ヲ受ケタリトテ之ニ關シ種々請願ヲ爲シ來レルモ政府ト

我が方インド綿花不買撤回、インド側綿布関税  
引下げおよび綿布輸入割当量など合意済事項を  
議事録作成により声明すべき旨意見具申

別電 十二月三十日発沢田日印会商代表より広田外

務大臣宛第二〇〇号

右議事録案

デリー 12月30日後発  
本省 12月30日後着

第二〇九號（大至急）  
貴電第一三七號四及五ニ關シ

初年度「クオータ」問題ニ付話合付カハ一日モ早ク協定ノ成立及實行ヲ計ルコト緊要ナルヲ以テ最モ早キ機会ニ本會議ヲ開催シ印棉不買ノ撤回綿布關稅ノ引下及「クオータ」ノ實施方ヲ別電第二〇〇號ノ如キ議事録作成ノ形式ヲ以テ聲明シ差當リ右三者ノ結果ヲツケ置クコトシテハ如何カト存ス協定ノ「イニシヤル」ハ字句ノ打合セ等ノ關係ヨリ相當ノ日子ヲ要ス可ク而シテ前記三者ノ實行ハ協定ノ「イニシヤル」ヲ俟ツ迄モナク之ニ先立チ行フコト然ルヘク又其ノ形式ニ付テハ公文ノ交換ヲ望マシキヤニ存スルモ此ノ

又若シ印度側カ期限經過後ナルノ理由ヲ以テ舊移讓率復歸方ヲ主張スル時ハ舊移讓率ヲ承諾スルモ致シ方ナシトセラル御意嚮ナリヤ此點ヲモ併セ御垂示願度尙右議事録記載三項ノ實行時期ニ付テハ一應先方トモ打合セヲ遂ケタル上追テ請訓致スヘシ

本電別電ト共ニ英ヘ轉電セリ

（別電）

デリー 12月30日後発  
本省 12月31日前着

第二〇〇號

日英通商航海條約ニ對スル補足條約ノ署名ニ際シ兩國全權委員ノ作成セル會議議事錄ノ形式ニ則リ其ノ本文ニ左ノ通記録シ最後ニ日附ヲ書キ日印雙方首席代表之ニ署名スルモノトス

際ハ可成迅速ニ事ヲ運フコト必要ニ付前記議事録作成ノ形式ニ依ル方便利ナルヘシト考へ居ル次第ナリ尤モ右手續ニ付テハ印度側カ直ニ承諾スヘキヤ明カラサルモ急ヲ要スル次ニモアリ豫メ右ニ關スル御意嚮承知シ置キ度シ次印棉不買撤回方ニ關シ聯合會ヨリ倉田ヘノ情報ニ依レハ右準備方既ニ御指令アリタル趣ノ處初年度「クオータ」問題ニ付話合付カハ直クニモ之ヲ實行セシメラル御趣旨ナリヤ右「クオータ」問題ニ關シ多分明日接到スヘキ印度側回答カ我方ニトリ満足ナルモノナリヤ否ヤ疑ヒアルノミナラス年末年始ノ關係モアリ不買撤回方ニ關スル先方要求ノ期限タル一月二日以前ニ右「クオータ」問題及前記手續問題ニ付先方ト打合セヲ了スルコトハ不可能ト存セラルル處前記期限ノ問題ハ此ノ際正面ヨリ之力撤回方重ネテ交渉スルハ策ヲ得タルモノト認メサルニ付今ニ其儘トナリ居ル次第ナルカ初年度「クオータ」問題ニ關スル先方ノ回答振リカ我方要求ト餘リニ懸ケ離レタルモノニ非サル限り速ニ前記議事録案ヲ先方ニ示シ事ノ成否ハ保障ノ限りニ非サルモ體ヨク先方ノ期限付キ要求ヲ片附クル様努力シ見タシト考ヘ居ルニ付不取敢前記諸點ニ關シ大至急御回訓ヲ請フ將

一、日本側ハ一九三四年一月何日迄ニ日本當業者ヲシテ印棉不買決議ヲ撤回セシムル様最善ノ努力ヲ爲スヘシ  
二、日本當業者カ右決議ヲ撤（回）シタル場合ニ於テハ印度政府ハ右撤回聲明當日以後三日以内ニ最惠國待遇ノ基礎ノ下ニ日本綿布ニ對スル關稅ヲ左記ノ稅率ニ引下クヘシ  
（同意濟ノ稅率ヲ記載ス）  
三、印度政府カ右關稅引下ケヲ實施シタル當日以後印度ニ輸入セラルル日本綿布ハ日印兩政府間ニ合意成リタル左記ノ條件ニ服スヘシ  
（「クオータ」ニ關シ同意濟ノ事項ヲ記載ス）

（「クオータ」ニ關シ同意濟ノ事項ヲ記載ス）

は差支無き旨訓令

本省 12月31日発

595 昭和8年12月31日 広田外務大臣より  
沢田日印会商代表宛（電報）

合意済事項を議事録作成により声明すること

大至急

澤田代表ハ日印間ノ通商ニ關スル各般ノ重要懸案ニ付今ヤ日印兩政府間ニ合意成立セルヲ以テ茲ニ左記ノ事項ヲ提議スル旨ヲ聲明シ「ボーア」代表ハ右合意成立セル事ヲ確認シ左記ノ提議ニ同意セリ

貴電（移牒第三七五號）前段及（移牒第三七六號）ニ關シ

御來示ノ通取計ハレ差支無シ但シ今次引上ケヲ見タル雜貨  
關稅率ノ調整ニ付(1)貴電（移牒第三五四號）三末尾雜貨從

量稅ニ關スル貴官申入レニ對スル「ボ」ノ陳辯中「日本側  
研究ノ結果印度側ニ於テ果シテ夫レ丈ケノ保護ヲ加フルノ  
必要ナキコトヲ「コンヴィンス」セラルニ於テハ之ヲ考

慮スヘシ」トノ趣旨竝貴電（移牒第三七一號）

(一)「ボ」ノ私見タル「印度側トシテハ何等日本品ノ輸入ヲ  
禁止スル意圖ヲ有スルモノニアラズ」以下適當ナル競爭

#### \*事項編注

大藏省財政史室所蔵史料より補填・採録した文書に付されている移牒番号（移牒第〇〇〇號）は、日印会商に關し外務省より回  
覧された文書に大藏省側が付したものである。

上ノ「マージン」ハ之ヲ殘シタル積リナリ迄及「但シ本  
來日本トノ貿易ヲ阻害セス以下適當ノ考慮ヲ惜ム次第  
非ス迄」ノ趣旨ヲ前記貴電（移牒第三七六號）ノ趣旨ト  
一括シ御來示ノ議事錄ナリ又ハ右雜貨ニ關スル部分ノミ  
ヲ切離シ其趣旨ヲ貴電（移牒第三七四號）冒頭當方書面  
ニ對スル印度側回答中ニ記載セシムルナリ何等力書キ物  
ニ殘ス様可然御措置アリタシ

~~~~~

十 雜 件

1 一般問題

596 昭和8年3月3日 内田外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

英國の武器輸出禁止措置に關連して報じられ

て いる 松 平 大 使 召 還 説 に つ い て

本 省 3月3日後6時30分発

第二四号

二日東京朝日ハ大見出シヲ以テ外務當局ニ於テハ最近英國
ノ極東問題ニ對スル反日的态度ニ憤激シ二十七日「サイモ

ン」外相カ下院ニ於テ為シタル演説ヲ不満トスル結果貴使
召還説有力ニ唱ヘラレツツアル旨ノ記事ヲ掲ケタルカ右ハ

外務省ノ関スル限り無根ニシテ今回ノ英國ノ武器輸出禁止
カ日本ノミニ適用アルモノト誤解シタル為ナリト認メラル
ル處帝國政府トシテ今回ノ英國ノ措置ニ對シテハ右カ一般

軍需品ニ對スル禁輸若ハ何等カ我方ニ對スル經濟的制裁ノ
十 雜 件

端緒ヲ開クコトト為ラサル以上基儘ニ放出シ差支ヘナキ意
嚮ニテ從テ貴使召還ノ如キハ全ク考慮シ居ラサル次第ナリ
此種記事ハ朝日ノミニ止ルモ該記事ハ貴方若ハ貴任國政府
側ヘモ傳ハリ居ルヤモ計ラレサルニ付為念眞相電報ス

~~~~~  
597 昭和8年4月12日 内田外務大臣より  
斎藤内閣總理大臣宛

日蘭仲裁裁判條約の締結に關し閣議請議について

付記一 作成日、作成局課不明

「日蘭仲裁調停條約締結ニ關スル内閣法制局、

陸、海、司三省トノ打合顛末」

二 四月二十日付内田外務大臣より斎藤内閣總理

大臣宛公信条二普通第一九六号

日蘭仲裁裁判條約の署名調印について

條二機密第一六九號

昭和八年四月十二日